建築と社會

13

五月號

第二十一輯　第五號·昭和十三年五月一日

日本建築協會

登録 OHNO SHUTTER PATENTED 商標

日英米特許三一個・實用新案登録六三個併用

大野式防火捲上ヶ戸

〔特許大野式シヤツター〕

主要製品

大野式シヤッター
大野式ルーブルシヤッター
大野式融金付自動閉鎖戸
大野式工場用軸承
大野式轉子入軸筐・戸車
大野式廻轉軸抵抗測定機
各種防火扉・鋼製建具類
應用特殊機械類設計製作

日英米佛獨特許三七個・實用新案登録八四個併用

特許不二サッシ

東京市大森區新井宿七丁目
株式會社不二サッシ製作所提携

株式會社 大野製作所

東京市芝區三田四國町二番地 ・ 電話三田(45)三七三七 三七三八 三七八七

取付出張員詰所・大阪市此花區上福島中二・電話福島(45)五八八

新　刊

昭和十三年改訂版

昭和十三年
四月增補

美麗表紙
本綴
上質紙印刷
菊判截版

市街地建築物法令

日本建築協會版

本書は現行の**市街地建築物法を始め最近改正實施された**
“市街地建築物法施行令”・“同法施行規則”・“同法施行細則”
（大阪府、兵庫縣、京都府、警視廳【東京府】、神奈川縣、愛知縣）等々**その他“同法關係法令”**を全部網羅編纂したるものである。本書はその性質上校閲に最も力を費し關係官廳諸技師の援助を受けて出來得る限りの正確を期した。
建築家、建築業者、建築學生其他苟しくも建築に關係ある者の必要欠くべからざる定本として敢て本書を薦む。

●定價50錢　送料6錢●

日本建築協會發行

大阪北區朝日ビル4階
振替口座大阪39975

賣捌　丸善本支店
柳々堂書店

建築と社會

第21輯　第5號　昭和13年5月發行

五月號

目　次

地區制度改正問答……菱田厚介（1）
都市計畫は何處へ行く……石川榮耀（7）
革新への波動と都市計畫……吉村辰夫（15）
國民防空施設資料……吉田信武（18）

武田博士を憶ふ……大須賀巖（23）

・時　報・

國家としての都市の位置……（28）
燈火管制規則……（34）
市街地建築物法改正……（43）
第6回工藝意匠圖案募集に就て……（44）

ブック・レビユウ……堀口甚吉（46）

・新建築欄・

和歌山縣廳　　中西邸（夙川）
キンブル・グラス會社の事務所（アメリカ）　ハイツタウンの會堂（アメリカ）
ロンドンの Mars 展（イギリス）　カンタベリーの病院（イギリス）
レムシヤイドのオーレル工場（ドイツ）　トリーノ市フアツシヨ會館（イタリー）
ベルグラードのフランス公使館（ユーゴスラビヤ）

會　報……（48）

地區制度改正問答

菱田厚介

(1)

第二條　建築物ニシテ住居ノ安寧ヲ害スル虞アル用途ニ供スルモノハ住居地域内ニ之ヲ建築スルヲ得ス

主務大臣必要ト認ムルトキハ住居專用地區ヲ指定シ其ノ地區内ニ於ケル住宅以外ノ建築ノ禁止又ハ制限ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

問 住居地域を細分化することは都市計畫界に於てはかねて屢々論ぜられてゐたやうだ。しかし其の目的とするところは必ずしも判然しない。今回の改正に於ては何處にその指導精神を求めたものであらうか。

答 都會に於ける職業人の生活を大觀すれば一方に於て自家從業者―從者の場所と居住の場所とが同じものが尠くないが他方通勤生活者が又甚だ多いのである前者は店舗の經營者がその中核をなしてゐる。後者は商工業勞務者或は公私のサラリーマンといつたものである。そして店舗の類は多く喧騷の巷に所在するのであるからその家庭生活は概して恵まれたものとは言へない。他方通勤生活者の住宅も亦小工場や車庫や飲食店やその他云々といつたあまり有難くない諸々の施設に混在してゐる實狀である。だからこの方も居住の安寧と福利はさつぱり維持されてゐない。

本改正案は後者に着眼して通勤者住宅地の整備を志したものと思はれる。勿論地域制としてはこれだけでサラリーマンの家庭生活が救へるものとは思はれない。職場と住宅との間に於ける距離の關係時間の關係その他いろいろの事がらはこの制度の運用だけによつてその目的を達することは出來ぬ。廣い意味の都市問題として將來別に施設されるところがなくてはならぬであらう。店舗住宅の生活を置き去りにするのはその又人口の量から見ても非常な片手落であり將來何とかしてその生活樣式の改新が求められねばならぬと思はれる。

問 住居專用地區といつても住宅ばかりといふことは考へられさうもない。一體專用の程度はどんなものだらうか又どうするのが妥當であらうか。

答 專用の程度を嚴密に考へれば、その指定の場所は自然狹くなるだらうし又指定に際しての細かい技術が幾分異つてくるであらう。此處では通勤生活者として上層下層何れにも偏せず中どころを狙ふのが至當であると思はれる。風呂屋の煤煙に干しものが黑づんだり、ラヂオ屋の騷音に子供の寢付きを妨げられたりといつた事柄は元より嚴禁されな

くてはなるまい。尙ほそれだけでは滿足されないのである。家庭生活には幼兒のあそび兒童の通勤、通動といふ任務が負はされてある。これは重大問題だ。脂粉のかほりある施設も遠ざけるのは元よりとして、他面車の交通を繁くすべき一切の施設を排除したいのである。之は兎に角原則として考へてよいとおもふ。

併かし專用地區の制限內容には多少の彈力性を持たせろといふのは慥に聽くべき意見であらう。場所々々で可なりその要求が異なるし殊に別莊地、療養地といふが如きところでは相當趣の異なる部面がある。八釜しく謂へば幾種かの地區を設けよといふことになるであらう。が差し當りは診療所、旅館、小店舖といふごとき施設に對して特許の道を開いておくのがよいとおもふ。又農業用の施設は住宅地の前契を爲すものとして、その設營につき適當に處置されなくてはならぬ。

問 住居專用地區の制度は如何にも贅澤な印象を與へる。小數の富豪の邸宅保護に墮する虞はないだらうか。

答 之は氣を付けねばならぬ點であらう。最初指定の道行きとして、高級な住宅地が選ばれるのはある程度まで止むを得ぬであらうが、それだけで止つて終つては法律の目的が失はれる。萬難を排しても相當大衆性が求められなくてはならぬであらう。國勢調査によれば大都市の近郊では有業人口の約六割は通勤者に屬する。所謂腰辨階級が驚くほど多いのである。その全部を專用地區に收容することは勿論不可能だらうが、相當の地積に及ばぬ限り法律を改正したゞけの價値がない。高級住宅地だけならば法律を煩すほどの必要がなく既に八、九分どほりは自然發生的におのづからの要求を充たしてゐるとおもはれる。

問 すべて地域の制度は規則の內容と、指定の實際が巧く照應した場合はじめて目的が達せられる。この制度は一體どんな風に運用されるだらうか。

答 數年、以前アメリカあたりで强く主張されてゐるところの所謂近隣住宅地を育成する意味に用ひたいものである。暢びやかな氣持ちで近所のつきあいのできる住宅地が欲しい。土地整理のプランと密接な聯繫の上に運用されなくては本當でない、家庭內の靜謐維持のため或は幼き子女の生活の爲には前述の通り、あらゆる營業的な施設を遠方に追ひ出した方がよい。けれども家庭に於ける日常の必需を滿たすためには風呂屋にせよ一般店舖にせよ、無暗に遠くに所在せしめるわけにはゆかぬ。普通の腰辨階級にとつては遠くも二三丁見當で日々の仕事が間に合はなくてはならない。それで一團の專用地域の差しわたしはせいぜい四五丁の見當でなくてはなるまい。即ち車馬の交通が豫想される街道筋は普通の住居地域或は商業地域として保留されなくてはならぬであらう。

專用地區は郊外の人家の疎な部分に使ふのが最も有効であり又土地整理の設計と密接な

接觸を保つべきことは前述の通りだが、一面既に出來上つてゐる市街の住宅地に對してその將來の靜謐維持のために本制度が運用されるのは又妥當と思はれる。但しこの場合には大體に於て既に法令に適格なる住宅地でなくては到底實行してゆけまい。

(2)

第四條　工場、倉庫其ノ他之ニ準スヘキ建築物ニシテ規模大ナルモノ又ハ衞生上有害若ハ保安上危險ノ虞アル用途ニ供スルモノハ工業地域內ニ非サレハ之ヲ建築スルコトヲ得ス

主務大臣必要ト認ムルトキハ前項ノ建築物ニシテ著シク衞生上有害又ハ保安上危險ノ虞アル用途ニ供スルモノニ付テハ工業地域內ニ於テ其ノ建築ニ付特別地區ヲ指定スルコトヲ得

主務大臣必要ト認ムルトキハ工業地區內ニ工業專用地區ヲ指定シ其ノ地區內ニ於ケル工場、倉庫其ノ他之ニ準ズベキモノ以外ノ建築物ノ禁止又ハ制限ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第五條　第二條第一項、第三條及前條第一項ニ規定スル建築物ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

問 工業專用地區の制度もかねて論ぜられるところであるがこの際改めてその目的精神をはつきりして置きたい。

答 都市に於ける工場經營に就いては種々複雜な問題があるやうだが經營者の立場からすれば第一に用地の獲得に困難するのである。これは多くの場合住宅、店舖の類に先占されて、まとまつた土地がなく、あつてもその地價が甚だ高いのである。又工業施設の經營者からいへばその集中的利用がないために無駄なことをしてゐる場合が度々起る。港灣運河の沿岸地の如きは甚だ貴重な土地であるに拘はらず現在の狀態では利用が充分であるとはいへない。このことは逆に言へば工業施設の企業投資に對してその足がかりを得にくい事情ともなつてゐる。一般に近來の工業は運輸用水及び電力を不可缺の要素となしてゐるものが多いが工場の集在することによつてお互に經濟的な運營をすゝめることが出來るであらう。

問 工業專用地區もやはり工場ばかりといふわけにもゆくまい。どの程度に雜多の施設の混在を認むるであらうか。

答 都市は大部分住宅用地一店舖を含むを以て占められてゐる。だから住宅を拒否することが出來れば大部分本制度の目的は達せられたと見るべきであらう。しかしこの貴重な土地に觀物場ができ料理店ができ或は三業の施設が出來るといふ如きことが從來ない例ではないのであるからこれらの施設も又同樣禁止して置くことが萬全であらう。

問 工業專用地區は最も需要の多い住宅店舖の類の建築を禁止するものとすれば土地所有者に對して不當な打擊を與へやしないか、この點は他の地域地區と本質的に相違すると思はれるが如何。

答 問題は本地區をどの範圍程度に指定するかによつて決せられると思はれる。沿岸地に

ついて言へば水運を利用する工場は金屬工業、機械工業、製材工業等可成多いのであるそして將來益々この傾向は加重されると思はれるのである。だから各都市について大體の見通しをつけ適當な場所と範圍を以て指定すればさまで土地所有者に苦痛を與へることはあるまい。しかしこの問題は未だ何の經驗もないのであるから將來運用の實績に徴して何等か新たに施設すべき必要が起るかもしれない。たゞこの懸念あるが故に本制度の制定を躊躇することは都市計畫從來の成績から見て許されぬ事情に立至つてゐるのである。

問 工業專用地區はどんな範圍場所に指定するがよいか。

答 前述の通り差當りは港灣運河沿岸地を選んで適當に分布指定するのが差し當り適當であらう。この場合地區の奥行は一ブロック或は二ブロック位に留めるのが普通と考へてよいではなからうか、これが深きに過ぎると前項の懸念が又急激に深くなるものと見なくてはなるまい。なほ工業施設は何も水運に限つたことではなく鐵道で言へば引込み線もあり又將來は工業用水施設或は局所的な電力ガス事業等も考へられるであらうから運用の範圍についてはかなり研究問題が殘されてゐるやうに思ふ。

工業專用地區を特別な工業施設に即して考へず大規模な工場誘致のために臨時的に用ひよといふ考へ方がある。二軒でも三軒でも住宅が點在し出すと最早五萬坪十萬坪といつた土地はなかなかまとまりにくい。それで暫くの間住宅禁止の制度を敷いて置いて工場誘致に成功した際附近地一帶の指定を取消すべしといふのである。かやうな事柄で困つた實例は最近中以下の都市においても隨分多い。從つてこの問題は本制度運用の一面として別によく研究しなくてはならぬと思ふ。

(3)

第十一條　建築物ヲ建築スル場合ニ於ケル其ノ高又ハ其ノ敷地内ニ存セシムヘキ空地ニ關シテハ地方ノ狀況地區及地區ノ種別土地ノ情態、建築物ノ構造、前面道路ノ幅員等ヲ參酌シ勅令ヲ以テ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

主務大臣ト認ムルトキハ高度地區ヲ指定シ其ノ地區内ニ於ケル建築物ニ付高ノ最低限度若ハ最高限度ヲ定メ又ハ空地地區ヲ指定シ其ノ地區内ニ於ケル建築物ニ付床面積ノ敷地面積ニ對スル割合及敷地ノ疆界線ヨリノ距離ノ限度ヲ定ムルコトヲ得

問 高度地區空地々區の規定は從來勅令の規定中に既にあつたのであるが、今回法律を改正してわざわざこの規定を挿入するのは何の故であるか

答 此の問題は改正法律の審議に際しても隨分論ぜられたもののやうだ。第十一條の現規定は何とでも讀めるやうな、範圍の廣いものであるから慥に今回の改正は不要だとの意見もたゝないことはない。併かし内容が内容であり、問題が大きいのだから地域制同樣の形を求めたことは體裁もつりあふし立憲的で親切と考へてよいであらう。

從來定められてゐる規定に比較して異つてゐる一つの點は仕事の權限が大臣に移つたことである。今の世に時代逆行とも謂はれぬことはないが、大臣にとりあげることによつて更に更に活潑に運用せんことを希つたものとみていい。從來は何としても机上に死んでゐた。數年の間を經て實際運用されたのは空地々區については大阪府下だけでありしかも堂々と持ち出すには一寸はづかしい程度のものにすぎない。

法律が定める床面積割合、相隣距離のことは現行の命令中には意圖されてゐなかつたのである。前者については現行規定によつてもできるといふ說があるが幾分解釋の無理がある。とにかく以上の次第で法律中に明定されたものであらうが、要するに問題を睨らさまにして民衆の間に投げ込んだものと看たい。

問 特に床面積割合と相隣距離との二つを取り出した理由如何。形態統制上は外にいろいろと必要な要素がありはせぬか。

答 形態問題は謂ふまでもなく現行の制度で一通り取扱はれてゐる商業街工場街といつたところでは——多小の修補の要否は別として——兎に角十數年におよぶ施行の効果が相當あらはれてゐるのである。しかるに住宅地になると——住居地域內の住宅地だけに限らず廣い意味で——甚だしく不滿足な狀態をみせられた。空地の有樣は殆ど一桁違つてゐるのではないかとさへ思はれる感じがある。それで今度の規定は大體住宅地を一層改善するために働くものと考へてよいであらう。

住宅地の形態統制に關しては採光、防火、通風、俯瞰、景觀、庭園、菜園その他さまざまな要求が持ち出される。近來は又都市の防空對策として、粗開問題が新たな視野から吟味されやうとしてゐる。此處では到底問題を議論する暇がないから省略することにしたいが、床面積と相隣距離との二つを持ち出すことによつて樣々な問題に對し七、八分通り應へ得るものと考へるのである。住宅地經營において床面積を對象にすることは、取りも直さず土地に對する住密度を一定度以下に維持せんとすることであり、住宅政策の根本基調をなすものと想つてゐる。從來不衞生地區の例などでみなれたところでの床に對する密度を緩にすることによつて改良を圖り得たとする考へ方は之を根底から打倒したい。

問 空地々區の制度は結構だが、一體日本の氏度をどうみてゐるのか。理想を求めるのはよいが、この制度が行はれると、きつと家賃が騰貴するだらう。そうすれば同居生活が流行して却つて危險、不衞生な狀態に押し込まれはせぬか。逆結果になることを切におそれるものだ。

答 之は最も痛いところであり眞劍な備へをしなければならない。能く現況を調査して適切な制限程度を定めなくてはならない。貸家の經營には一方家賃收入の見込額があり之

に對して地代、建物償却費、維持費があつて相互に睨み合せがついてゐなくてはならない。この方程式を破ることは即ち貸し家ができぬことを意味する。それ故に空地々區の指定は現況を超へるものであつてはならぬこと、之は申すまでもないのである。たゞ將來における地代の騰貴を抑へること、或は騰貴の程度を強く制限することは誠に止むを得ない。空地々區の指定は寧ろ此度にその吐け場を求むるより外仕方がないのである。若し地區指定のために地代が一般に騰貴する樣のことがあれば——地區指定が相當廣範圍に亘る場合には、こういふ現象は起り得ないと思ふが——郊外住宅の經營問題は新たな局面にぶつかるであらう。併かしこの懸念あるの故を以て地區指定を遠慮するが如きは今日の都市計畫が到底容認し得ないのである。

問 空地々區の種別、その制限內容はどんな程度に定められるであらうか。

答 制限程度を定めるには太陽の關係が最も物を謂ふ。從つて東京と札幌ではこの關係だけでも多小の相異あるが至當であらう。一面菜園住宅等の思想から謂へば空地は多々益々辯ずる次第であるから前述の地代建築費に即して案配されなくてはならない。それで結局多種多樣の種別が生れるであらう。統一規定中に各種各樣のものを設けるか或は地方毎に異なる種類を設けるかは研究の價値があるであらう。東京、大阪地方では床面積割合として恐らく十分の三乃至七、八位の見當で決定されるとみられる。距離の關係は0.5 メートル即ち民法の規定を強制にうつす程度から3メートル位迄に及んで定められるであらうか。（終り）

都市計畫はどこへゆく

石川榮耀

1 「都市計畫はどこへ行く」の分類

編輯局から與へられた此の題は案外にテキサスであつた。

恐らく、第三者から見れば平凡至極な題目で「建築はどこへゆく」でも「百貨店はどこへゆく」でも編輯價値に大して差はなかり相に見へ様が、自分にはそのどれが「どこへゆく」よりも「都市計畫がどこへゆく」かが一番今日のカン所に當つた様に思へる。

事程左様に、我々都市計畫の畑に住み古したもの達には都市計畫崩壞期を感ぜざるを得ない「今」なのである。

しかもそれは、更生の明日をはらみつゝ、しかも一際の過去を廢棄し（自らの陣營さへ皆滅せしめなければならないのではないかと云ふ）なければならないと云ふ深刻極まる崩壞期なのである。

「住み古し」たが故に、こふした瀨戸際を味ふ事が出來た事を嘆じてよいか喜んで好いか。

「都市計畫はどこへゆく」。此の命題を三つの意味に分けて考へる。

先ず此を都市計畫技術の明日の形態如何と云ふ風に聽く事が一つ。現在の行政機構の都市計畫能力を吟味すと解する事が一つ。

最後に、都市計畫技師陣の秋風性を懸念すと請け取る事が第三である。

このどれもが實に現在その渦中にある我々の當面してる大きな問題であり「考へさせられざるを得ない」三つの致死的な問題なのである。

しかも最重要な事は此の一大事を心ひそかに感じてるのが我々ソノ畑のもの丈であつて社會一般は氣がついても見てくれてない事である。いつの世にも一人は寢ず番が居てこふした危機を警示しなければならない筈であるが。——或は此が後世「あの時代の大きなミス」として嘆かる可き一つになるのではあるまいか。焦慮せざるを得ない。

2 技術としての都市計畫

「都市計畫の必要性——」此んな文句は口にするが「おかしい」筈である。にもかゝは

らず事實此れ程世の中から本氣になつて貰へない文句もないのである。

統制ばやりと云はれる程現在あらゆる分野に於ける「統制」「調整」が問題化され夫々が立法に迄進んで居る。その時に企劃院に於てさへ都市計畫も地方計畫も國土計畫も一言半句問題にされた事がないのである。

內務省が先年地方計畫調査費なるものを組み此を夫々の豫算機關に計つた時、實に素朴なる抵抗の多きに苦しみ遂に流産したときいてゐる。

我々から考へれば實にボウ然たる程、無智な社會だとアキレざるを得ないのであるが、——何が世の中をこふさせるか。

都市計畫法發令來十八九年になるが。その中、都市計畫が稍陽の目を見たのは復興の時丈。アトは常に日影から日影への狹い生活である。ましてやそれが地方計畫等と云ふ華麗なる粉裝をまとわんとすれば常に直に餘興あつかいである。

それは何故であらふか。

それは社會と云はず、都市計畫に從事してるもの自身さへが（意外と云はふか）「都市計畫とは何ぞや」を吟味してないからである。

いつの間にか所謂玄人の間にも、都市計畫とは街路網地域制だときめてしまつてゐる。

神經のないのになると、都市計畫とは「內務省の都市計畫課から命ぜられる仕事」の別名だ位に片づけてゐる。

——だから、どんな人間でも、都市計畫職員となり、先輩の造つたプログラムに從つて仕事をやつてきさへすれば、それで都市計畫がやれる樣に思はれ、當人もその氣でおさまつて居る。

であるから當然世間では都市計畫とは、府縣の土木技術の中の「都市係」だと思ひ（從つて水力電氣係の人が轉務してもその日からやれる）或は建築課の調査係、甚しいのになると市役所の廣場係の程度に遇してしまつてゐる。

そしてその中最もコツケイなのは矢張り前言した樣、都市計畫技術者それ自身がそう思ひ切つてしまつてゐるのである。然し定義されてない仕事であればこれは當然な結果でなければなるまい。いはゞそれは無名の師なのだから。尤。定義は一應ないワケではない。好く云ふ都市計畫法第一條がそれである。「本法に於て都市計畫と稱するは交通、衞生、保安經濟等に關し永久に公共の安寧を維持し又は福利を增進する重要施設の計畫にして、市若は主務大臣の指定する町村の區域內に於て又はその區域外に亘り施行す可きものを云ふ」

此は何か改まつた席には必ず冒頭され、一應シサイらしくあつかはれるのであるが、このどこに都市計畫が定義されて居ると云ふのであらふ。

然るによく見れば、此の前半は文化一般と云ふ樣な意に過ぎず、此れを警視總監の職務規定に用ひて差支へなく。助役就任のあいさつに用ひて害なしである。

およそ官公の事務にして衛生、保安、經濟を念とせざるもののある筈がない。

此の條項の云はんと欲する事は後段の「區域の內外に亘り施行するものを云ふ」にあるのである。即、本法に於て「特權を與へらる可き都市計畫は」の規定であつて、都市計畫自體の定義でも何でもない。それはこの都市計畫と云ふ文字を人間と云ふ文字に代へて見ると解る。

即此の條文の云はんとする所は「云々の人間には扶助料を與ふ」と云ふ丈の事であつて扶助料を給せらるゝものを以つて人間とすとはならないのである。

然るに、いつとはなしに此れを定義としてしまつた。定義は出來てる。そしてソレはこれだとしてしまつた。そこに我々の都市計畫の本質に對する思考力がマヒしてしまふ樞機がある。それが都市計畫に無反省性を與へ世間一般のみならず都市計畫技術者達さへ「都市計畫を知らず」と云ふ時代の盲點を造り上げてしまつたのである。

「都市計畫は速かに正確に定義されざる可からず」

恐らくはそれが正確に定義されるなら、現在の樣にあらゆる部門に於てホウジウな自由主義が「統制」により緊縛强化されて行く時代に、同じ統制精神の此の「都市計畫」のみが認められない筈がない。地方計畫のみがわらわれる筈がないのである。

「說く人に」「聽く人に」都市計畫の何物であるかゞ解せられてない時に——いはゞお互にピンと來でない時に百萬の二百萬の金の動く筈がないのである。

以上自分は何を云はんとしたか。

要するに「現代都市計畫の弱體性」の基因を意外の所に探り當てると、同時に然し此は見かけの如く「どこへゆく」級のハカナキものでは「ある筈がない」と云ふ事である。

尤、都市計畫が都市計畫として現在の如く又將來も「此の分野」のレツテルとなつて輝いてゆくとは思へない。

恐らくは此の中に醸成して來て居る都市計畫的技術が抽象され（それは或は「家屋並に公共施設の組織によつて生ずるを『社會効果』を覗ひとする技術」となるかも知れない）此が分化して次の樣になるのかも知れない。

國土計畫
- 地方計畫
  - 村落計畫
  - 地方計畫
- 都市計畫
  - 都市計畫
  - 村落計畫

「知れない」ではない。既に知る如く此は獨逸で最正しく强く實踐され、アメリカにても具體化されんとしつゝある位である。

かくして「都市計畫はどこへゆく」の第一の課題は、都市計畫の定義の確立を待ち、右の如く編隊されるのであらふと云ふ答となるのである。

此は最愉快に昂然と答へを爲し得るのである。

3　都市計畫行政の再吟味

つゞいては、ソウした概念的な角度からでなく、現在のまゝに、都市計畫はどこへゆくか、此を「行政機構改革前夜」として考へよと云ふ事と採る。

都市を組織的に合理的に組み立てる事が何が故に輕んぜらる可きであらふか。

兎も角現狀に於て「都市を組み立てる事」は內務行政の一つとして鐵道、遞信、商工、農林行政と明に對立して居る。

あたかも、都市は鐵道、遞信、商工、農林的內容の別なる如く。

然ふして又常に「都市計畫ではソウかも知れんが、鐵道では」等と云ふ言葉が誰にも何等疑はれる事なく往復されて居る。

それ等は未だ好い。

都市計畫は、內務行政に於てさへ土木行政と對立せる計畫局なる一局の中に於て、防空なる一課と同じハカリ皿の上にチョコナンと乘つてるのである。あたかもそれ等總ての行政の殘屑をモテアソンで居れと云ふ如く。

それ程「都市を合理的に構成する」事は殘屑事務なのであらうか。その抗議は直に「否都市計畫なんて云ふ名前が惡るい。ソンナ大きな仕事は出來るもんでもなく、君達に賴んでるのは君達に出來る程度の都市計畫なのだヨ」とうつちやられる。

「出來るもんでもなく、賴みもしない」。一言にして「さよなら」であるが　然し少くもその價値さへ認めれば、總掛りでやつてやれない事はない「効果」である。と自分は信ずる。

お互がお互の「特別會計的」根性を捨てたゞ一つの覗ひを「此の都市」を皆の力の巧みなる綜合により强大ならしめる事に集中する。

例へば交通機關を統制し、官公建築の配置に一つの計畫を有せしめ、此の二つの仕事を更に「一つの覗ひ」によつて融合する。

それ丈でも現在我々が眼で經驗する以上の効果を獲得る筈である。（先進都市は旣にそこに一步も二步も踏み出してゐる）。

ソウした事が出來ない筈はなく出來て惡い筈があらふ筈がないのである。

我々はどうしても此を企劃院級の形式で內閣に直屬せしめ、國土計畫院の名によつて各行政の「建築公共施設の綜合技術部分」を引きぬき行はせなければならないと信じてゐる。

此等の聲は既に福岡、富山等の都市計畫協議會に再々出たが一向に行政メインストリートでは本氣にあつかわれて來てない。

若しこのまゝにして、現在の官吏個々の「榮轉」を楔子とする行政機構從つて綱張り主義行政の間に店借りして居るならば、都市計畫はその手足を與へらるゝ事なく、魂を呼び起す暇なしに强大なる障壁間にひしがれ消滅しなければなるまい。

又以上は「都市計畫」としての苦しみであるが、特に東京、大阪、北九州の如き地方にては既に都市計畫は都市計畫の規模であり得ぬなやみに入つた。

即それは地方計畫的形態を採るに非れば存在し得ない現狀に直面して居る。

例へば大東京は市域の外、府域の外に川口、川崎、市川と云ふ如き、衞星都市と云はんよりは郊外中心とも云ふ可き聚落の異常なる發達を見つゝある。

此等の間の調和計畫を誰が爲さんとするか。

（此を調和せしめるのは委員會の任務ではない。それは他にあると云ふ樣な奇怪な說明は除きたい。

我々はこゝで二つの別々に建てたる案のマサツを除き度いと云ふのではない。

此は二つのものが同時に一つの精神で組立てらる可きであると云ふのである。

それは今日の委員會制度を無視する事なしには絕對に不可能である。少くも道路の如きは別とし地域制をいかにするか）。

ましてや衞星都市浦和、千葉、横濱等々の東京性を視る時誰しも此を一體として綜合計畫する必要を思はざるを得ないのである。

或は又全國的に都市なるものゝ現狀を見るも既に總ての都市は他と關係なしには存在して居ない。

氣候が萬物をいつの間にか變容する樣に交通文化の發達は知らざる間に同業都市を淸算し、分化せしめて從つて關聯的存在たらしめ了してゐる。否せしめ樣とする。

有たざる都市。有てる都市。消費都市。勞働都市。等々の一聯の都市の有機體系。（此は他日稿を改めて說き度い）

此を「骨肉相はみ、ボバイの一擊の如く、叩き合はしめる事」なく綜合して、成る所の「日本」を榮へせしめる爲には相互に矛盾なき關係に於て、都市の專門化なり單位化が考へられなければなるまい。

明に地方計畫の精神なしに都市を眺める事の出來ない時代となつたのである。

憶をこゝに致した時我々が、ハタとトウワクしなければならないのは、少くも府縣行政

區域の奇形さである。

明治初年の交通機關に適應せしめた此の行政區域は、小さいまゝに奇形なるまゝに一つの利權乃至行政綱張りのトーチカとなり、今では伸びゆく力のキコクとなつてゐる。

例へにした所が、我々は市川、川口、川崎を考へんとする丈でも「噴飯に値する東京府の行政區域」の奇型さを苦笑せざるを得ない。

京畿、東海、到る所に同じ例がある事と信ずる。

此の說は逆に、若し地方行政區域がこのまゝならば地方計畫への發展はキタイ出來ず、從つて當然都市計畫はチツソクすると云ふ事に遡る。

このまゝでは此のいずれの途に於ても正に「都市計畫はどこへゆく」である。

4 技術陣にて

都市計畫はどこへゆく。

それは最「それらしく」（その調子の有つ悲調に從つて）都市計畫技術陣の現狀に於て答へられなければならない。

先ず自分は、都市計畫が地方計畫より國土計畫へ發展せんとせる過程に於て、現在の技術陣の大きな缺陷を考へないワケにゆかない。

現在の都市計畫の主要スタツフは土木建築庭園の技術者である。

考へて見れば既往に於て「都市」の「計畫」に於て、何等「都市」の實體に關する智識のなかりし此等の技術者に「都市」を託してた事が不可思議であつた。

「都市はいかにある可きか」。それを「都市と云ふ經濟社會上の現象」と云ふ意味に譯して見れば、それが土木、建築、造園の「技師」に、しかもテンデンバラバラの角度からテンデンバラバラな態度に於て計畫されて「出來る」等と思つたのが、初めから喜劇であつた。

都市が經濟社會上の現象であるならば、そのある可き「形」は經濟社會の世界からのみ要求されなければならない。

それをせずに進んでる所に「社會が都市計畫を投げ」「都市計畫技師はたよりなき火遊びにソノ日を過す」變な生活のスタートが切られたのである。

然し此れも、十六世紀風の都市美の計畫乃至今世紀に入つての產業戰爭に對する赤十字的都市計畫の時代なら未だよかつた。

その場合の問題は頗る小乘的な路上に於ける支障の除却であつたから。（その爲に何となく漠然と都市計畫技師と云ふ生活を營む事が許されて居たのである）然し事一度地方計畫となると——そして都市相互の特性づけ乃至廣き面積に亘つて土地の用途の規定となり

その組み立てとなると結果も大きく、國家の文化網の本質につき込む事でもあれば、土木建築庭園（と云ふよりは橋梁學ホテル建築害蟲驅除ではと云へばハツキリする）ではやつてゆけなくなる。（此の場合には投げるのが倫理である）

明に經濟技師、社會技師が第一陣頭に來、技術部門も在來の様な土木建築、庭園にでなく、商業部、工業部、農業部、社會部、交通部となり、夫々の專門家と共に、在來の土木建築、庭園の技術者が分屬される事にならなければならない。

現に——地方計畫唱へられて既に十年に近からふ。

しかも土木建築庭園の陣營から如何なる誰しもが首肯する定案が提出されたか。

又、むしろ都市計畫のアウトサイダア陣から起りつゝある、地方計畫に對する諸提案の方がより實質的で、より社會の耳を傾けしめつゝあるかで解らふ。

實にナチスの國土計畫は、先ず經濟社會、地理學者等より成る突擊隊を先頭に立たしめたのである。

こふした上層氣流の下にある事は當然現在の都市計畫技術陣に、一つの不安を構成せしめてゐる。

「一體我々は地方計畫をやる資格があるのであらふか。

否解つてくればくる程都市そのものさへ恐ろしい存在になつて來た」。

地方計畫に迄眼ざめ様とせず都市計畫の現在に安んぜんとしても不安は去らない。

それは今云ふ如く我々は既往に於て一頁の「都市本質」論を殘す事なくやつて來た。ひたすら「發展力旺盛にして道路少なき都市には、系統ある一本の道路を與ふる事にても大きな寄與となる」級の粗き神經で計畫して來た。

大して良心に恥る所なく過して來た。

その結果は、十七八年にして何の「重き」社會位置として克ち得たか。

零細なる補助金乃至受益者負擔と云ふ持參金なしには、見るも哀れなる「無力」にして「醜き」自分を鏡中に見出さなければならなかつた。

最正確なる所「都市計畫」生活十幾年なる我々が、赤裸の「個人」となつて社會に出た時、誰が何の理由によりパンを與へてくれる價値を有つて居様。

此は何等實體にふれる事なく、形式的な都市計畫に快を自瀆して來た報ひである。

恐らくは、明日の都市計畫は經濟社會と云ふ様な上級スタツフが出ぬ迄も（或はソウしたものが現れる迄の空間を）今日の技術者達が新しき神經を以つて、つないでゆかなければならぬのであらふ。

それにはドウしても技術者達を再教育する事が第一の要件である。彼等をして都市の本質を學びその內在力に應じ「その動きを易からしめ」その「要求の核心を滿足せしめる」

様な計畫をたて得る様な「技術」を體得する様にしてやらなければならぬ。

それに到る過程の、たよりなさを「現在の我々」が感じて居るのである。

最後に果して誰の罪か知らない。兎も角も國家乃至社會が、此の部門への價値を認めすいたすらに寒風に放置して置く事は少くも此の技術陣への限りなきユウウツをたれこめしめてゐる。

此の技術陣に投する限り、勅任の椅子は一つもなく地方にあつては課長たり得ない。又委員會技師のヌエ的存在は俸給的には屢々最薄しとされてる府縣吏員におとり、ましてや公共團體の寄附によつて給與されてる所等昇給の安定は全く期し得ない。

又仕事に於ては土木建築の正統を外れてるが故にたへず路傍人的な壓迫をうけ、しかも一個所に對する十年十五年の釘づけは仕事的にタイクツならしめ、若し待遇にして順調に進むならばいつかそれはそこの豫算の標準をはみ出す事になる。

よし此等のユウウツなる空氣を笑殺し得可き我れに「名人」の「悟り」があるとしても（あれと云ふにしても）此の陣の此のユウウツは既に誰知らぬなき技術界の名所となつてる。——土木ならば、土木局より先きに、鐵道省より先きに、建築ならば、大藏省を置き遞信省を置き「第一」に「新人」の希望す可き部門ではない事になつてゐる。

否。それ所か、その中にあつて老衰した（年齡的にでなく、熱意的に）もの以外は所あらばとよき畑への轉身を氣がまへてる連中によつて滿ちてゐる。

かゝる人的構成特にその技術陣のゼイ弱性、しかもその補給の途なきを憶へば此の「多難な都市計畫」。「重要な都市計畫の曉」の扉を何の力によつて誰に押し開かしめんとするか。

こゝにも幾百かの「茫然」の最後のものがあるのである。

若し人あつて、こゝに眼ざめ、技術陣を强化する事に努めるならば、そして彼等に良心をも有たしめるならば、彼等は恐らく第一段階として自からを整正し、つゞいて經濟社會の技術室をしつらへる謙虛さを回復し、引きつゞき都市計畫を地方計畫國土計畫に迄高める可き興國のテコの一つを動かすにヤブサカではないと信ずる。

都市計畫はどこへゆく。——その最後の答へはこゝにあるのである。

革新への波動と都市計畫

吉村辰夫

與へられた課題革新への波動と云ふ事に付て自分は判つきりとした概念をつかむことが出來ない。現在の社會事情を見ても殊更革新と謂へる樣な存在もないし又そうした動きも見ない。

唯，巷間には澎湃と湧き上つた愛國的情熱の中に國民の明確な時局認識と，高揚された國家正義觀が横溢して居るのを痛切に感ずるだけである。

若しも「革新」と云ふことを此際定義付けるならば，自分は，國民の國家に對する精神的覺醒——謂はゞ從來よりも更に歩を進めた國民としての眞の自覺に基いて眞劍に凡ての事象を考慮しよふとする現在の精神的覺醒と謂ひ度いのである。斯る緊張，斯る眞摯こそ何事に依らず「正しきもの」への批判に迄國民を引上げ得るのであつて，此點時局の偉大な張力に自分は心からの讃辭を與へたく思ふ。

此の曠古無比の聖戰に敢へて身命を省みぬ我々同胞の前に先づ自分は衷心より感謝と尊敬を捧げねばならないと共にそうした尊い氣魄が何よりも同胞の精神に與へた覺醒こそ又無く貴重なものと考へるのである。

そして非常時に際して國民が祖國日本に對する崇高な觀念——從來の國家に對する曖昧さを廢棄し深く自分等の精神生活と結び付けて明確に認識する樣になつたことこそ曾つて無いことなのだ。

即ち國家の爲の我々又家族の一員として構成する我家——祖國の觀念こそ總てを超越する國民の國家に對する眞の精神的發露であらねばならない。此の意味に於て自分等の携はる都市計畫の問題を檢討することは其の進路に誤りなきやを吟味する意味に於て決して無駄ではないと思ふ。

都市計畫が誕生の際は今から見ても其思想に於て，計畫に於て消化し切れぬものが多ゝあつたであらうことは誰しも想豫するところである。

國家の施設に凡そ如何なものであれ其目的が畢竟國民の福祉を高める點にあることは都市計畫に於ても亦變りないのであるが，唯注意すべきは計畫者の社會認識或は其洞察に萬一缺けた處ありとすれば，其計畫は凡そ異る意味のものとして，結果されるであらう事なのである。當初の都市計畫が市民生活にピツタリとしなかつた所以も，今から見れば生活程度の低い而も創成當時のハンデイキヤツプあるが故に或は已むを得なかつたのかも知れない。

然し問題は其後十餘年を經た今日果してどの位の進展を遂げたか又どの程度に國家的消化をしたかと云ふ點にあるのだ。謂はゞ今日の都市計畫は如何に在現の社會、延いて大衆の生活と有機的且密接な關係に結び付けられたかと云ふことなのだ。論的に例を地域制に擧げて見るに、凡そ如何なる都市でも住、商、工の三地域が例外なく指定されて居るけれども其分配に於てその量に於て果して都市の性質及內容の注意深い洞察から生れたものであらうか。更に都市として將來の發展の適切性から見て又廣く國家の發展から見た都市能力の妥當性から之等が計畫されたものであろうか。獨り地域のみならず1都市に組まれた道路網にせよ其都市の目前の進展に關しては有意義かも知れぬが、都市をそうした道路網によつて計畫することが又局部的に謂へば凡ての郊外部に同程度の交通的便宜を與へると云ふことが果して都市の將來に又國家の將來の發展に誤りなく幸福を齎すかどうかは頗る疑問とせざるを得ないのである。

自分は思想方面から衞星都市論（Sattellite town）を持つて來よふ。此の論議は極めて早く勃興したが爲に影響も急速に各國に波及し、恐らく如何なる都市計畫者と雖も之を知らないものはない位に廣まつて居る。然もその思想は都市郊外の統制と其健全化を圖る目的の爲めに建築禁止を綠地帶の手段にさへうつたへてゐるのである。斯の様な思潮を少くとも我國の專門家達は知悉して居るに拘らず敢へて本邦に於て其研究や實現に觸れよふとしないのは何故であろうか。都市計畫家として斯る思想を信じ例へ都市其自體の範圍內でも此の方策から最高至高のものなりとするならば、何故に自ら進んで勇敢なり得ないのだろうか。

私は衞星都市論を擁護する心算はないのだが、唯云ひ度いことは現今の都市計畫者は其信念に向つて何故に忠實でないか、勇敢でないのかと云ふことを反問したいのである。斯ふしたことから都市計畫が依然形式的であり、彌縫的なりと云ふ非難をうけても我々としては甘んじて夫を受けねばならないであろふ。

然し若し其事情が單なる行掛り上の事から發生して居るものであるなら此際斷固たる決意を以て此等を粉碎し邁進一路を辿らねばならないのである。又萬一都市計畫者間の相互理解の不足に基くものであるならそれこそ都市計畫家の精神總動員によつて一致團結、國家の爲の眞の都市計畫を樹立しなければならないのである。

私は現在の都市計畫が或程度の進步をしながら一方に於て機構の缺陷や分野の割據に依て緊密な結合を缺くと云ふ事が指摘されても、或は其存在を承認せざるを得ないかも知れない。

都市計畫領域內に於ける專門分野の摩擦が自省なき對立を續けるならば果して日本の都市計畫には實質的に幾何の利益が齎らされるだろうか。

然かも其積弊が今日に於ては習性とさへなつて互に團結と協力を欲し勿らも敢へて逆方

向に進まねばならぬ様に意識しつゝ作爲行動する者ありとすれば此等は都市計畫を自ら汚す他の何者でもないのだ。斯ふした內部の葛藤は決して都市計畫のみにあるのではない至る所に存在する。然し都市計畫は特に技術の綜合を必要とするが故に、かゝる事の存在は他の如何なる場合よりも影響する處極めて重大なることを指摘したいのである。自分が此の問題に付て記述した所以も今日重大な時機に際してゐる都市計畫、然も凡ての技術の協力を俟たねばならぬ都市計畫を此の際少しでも早く一致せしめ、協力を堅くして國家の發展に對する重要な任務を遂行せしめたい微衷より出でたに外ならぬのである。

今や都市計畫は國防計畫と相俟つて決して曇如たることは許されない。

現下の都市計畫こそ其存在の意義に付ての檢討に重大な問題を投げかけてゐる。一方に於て地方計畫或は國土計畫への發展に對しても批判と研究と更に遂行への道程に直面してゐるのである。此の重大な時機に依然として分野と感情の抗爭を續けたとしたなら地方計畫の如き重大な案件に對する眞面目は何處に求め得るだろう。

都市計畫は建築のみの計畫にあらず又土木の分野でもなく、造園でもなく更に法律のみでもない。謂ば凡ての綜合、凡てを超越した凡ての技術である。

自分は斯んな判りきつた事柄に付て言を費す所以も周圍に發生する時々の問題に往々此の明鏡を曇らせる様な事柄を散見するからである。

都市計畫者よ須らく斯の曇を排除し公平無私の立場に複歸して一致團結、相互の隔意なき緊密と協力を以て行爲す可し、然らざれば都市計畫の將來には決して洋々たる進路が開かれはしない。

都市計畫其自體には未だ々々研究論議す可き點が多い。設計にせよ理論にせよ全く未開發のまゝである。

故に計畫家に要求す可き事項は此方面をも附加へねばならぬのであるが、然し全ての根幹は精神的作興にありと信ずるが故に敢へて表題を揭げて時局下の都市計畫者にその自省と國家的視點への覺醒を促した譯である。

畏友帝大助教授井坂富士雄君の訃に遭ひ同君の冥福を祈りつゝ此稿を終る。

國民防空施設資料

吉田信武

はしがき

近時飛行機の異狀なる發達に伴ひ、防空は一日として忘れることの出來ない重大要素となるに至つた。防空には主として陸海軍の行ふ積極的防空即ち所謂軍防空と、主として一般國民の行ふ消極的防空即ち所謂國民防空がある。兩者は絶對不可分の關係にあり、即ち國民防空は軍防空に則應して之を實施するの要があるのである。同じく國民防空と謂ふも、主として人的の訓練によるものと主として物的の施設によるものとがある。物的の施設によるものは、更に之を恒久的の施設によるものと速急的の施設によるものとに分類することが出來る。

茲には恒久的都市國民防空施設を中心に防空に關する話題の數例を列擧し防空と技術に關する事項を氣付く儘に示し度いと思ふ。

1

愼重なる態度を以て防空に關する諸種の考慮が拂はれるに至つたのは左程新しいことではない。遠くは歐洲大戰當時のロンドン空襲により、近くは支那事變中皇軍による空爆により、其の關心は益々昂まりつゝある。

我國に於て、所謂防空演習の初めて試みられて國民防空に對する注意を喚起したのも既に數年前の話である。當時は主として燈火管制に關する訓練を主として行つたのであるが、國民全般に防空の急務なる事實を植付けた點に於て、大いに効果ありしものと謂はねばならぬ。

日本建築協會に於ても、昭和9年に「都市武裝促進委員會」なるものを新設し、協會が日頃主張し來つた都市の不燃燒化を更に廣く更に深く唱導し、今に至つてゐるのである。其の委員會の目的とする所は、防火防空建築の普及促進、防火地區の擴大、防火地區內建築完成の促進助成、避難施設の完備、環狀放射道路及公園廣場の設置、都市航空港の建設等にあり、又、都市武裝に關する建議、都市武裝に就いての論文懸賞募集、都市武裝展覽會の開催、講演並に映畫に依る宣傳、「都市武裝號」の特輯パンフレツトの發行頒布、ポスターの懸賞募集、都市武裝に關する座談會の開催、燈火管制の調査、重要建築物に於ける僞裝遮蔽避難演習、都市航空港計畫案の懸賞募集、都市武裝週間の設置等を以て其の實行方法となしたのである。

其の詳細は、昭和9年7月1日發行の「建築と社會・都市武裝特輯」並に、昭和10年5月20日發行の「都市武裝促進委員會記錄」に一括されてゐるが、今尙以て斯界の一大指導著書としての價値充分なる點欣快に耐えない。前者には、各權威者の論文を始め、懸賞應募によつて得たる名著、即ち、都市武裝（山口儀三郎氏）、都市武裝論（吉村辰夫氏）、都市武裝に就きて（田中進氏）、都市武裝計畫論（橫田實氏）、護れ我等の都市（平野一男、四方靖郎兩氏）、都市の防空と武裝都市（大井弘法郎氏）、都市武裝に就いて（龜井幸次郎氏）等が揭載されて居り、何れも防空と都市計畫或は建築との密接不離なる重大關係の存在を指摘說明せるものである。

爾來、日本建築協會に於ては、都市防空

の必要性と奬勵方を、或は機關雜誌に依り或は研究會開催に依り、或は其の他適當なる宣傳方法を以て、社會に唱導し來つたのである。又、昨年末上海方面に向け4人の防空視察員を派遣せられたことは本誌3月號に既報の如くであり、尙最近再び南京方面に向け3人を出張せしめ、將來愈々都市の防空に對して大いに爲す所あらんとしつゝあるのである。

2

從來の防空に對する人的訓練並に物的施設を一層擴充强化統制せんが爲に、我國に於ては昨年4月防空法の公布を見、同施行令と共に同10月より之が實施を見、總元締たる內務省に於ては從來の大臣官房都市計畫課を計畫局に改め、其の下に庶務、防空、都市計畫の3課を設け、各種官制を改正して官吏の增員を行ひ、北海道及全國各府縣に防空係官を配備し、警視廳及重要都市を包含する府縣には警察部に防空課を新設、事務官、技術官、警察官を置き、國民防空の指導監督に當らしめることゝなつたのである。

防空法に於て防空と稱するのは、戰時又は事變の際空襲による各種危害被害を防止輕減せんが爲、一般國民の行ふ所の燈火管制、消防、防毒、避難、救護、或は之に必要な監視、通信、警報を指すのであつて、防空の實施並に之に關して必要な設備又は資材の整備に關する所謂防空計畫の設定と相俟つて國土を防衞せんとするものであり全22箇條並に附則よりなり、防空法施行令、官廳防空令等の勅令に其の細部が規定されて居る。其の內容は、1. 防空及防空計畫の內容を明かにし防空計畫設定者の義務に關する規定を設くること、2. 防空上の必要に基き義務を命ずる範圍を明らかにすると共に給與其の他に關する規定を設くること、3. 防空の訓練に關する規定を設くること、4. 費用の負擔及國庫補助に關し必要なる規定を設くること、5. 防空委員會、罰則、官廳防空、外地への施行、施行時期等に關し必要なる規定を設くること等に大別し得るが、何れも一朝有事の際に備へる爲必要缺くべからざる事項に限つて規律したのである。

防空の實施に關して必要な設備資材の整備計畫は、建築家を始め各種技術家の手腕に俟つ所頗る大であり、其の活動範圍も頗る廣汎となるわけであるが、現在防空法に於て謂ふ設備資材の主なるものは一般に次の如きものと解される。即ち、1. 燈火管制に就ては、配電線の設備、屋外燈に於ける開閉器の取付、工場等に於ける爐火、火焰の隱蔽裝置、航路標識の減光裝置、自動車其の他の車輛、各種信號の遮光裝置、個人の家庭に於ける遮光裝置等、2. 消防に付ては、家庭又は町內等に於ける貯水設備（バケツ等の備付を含む）、消火器、喞筒等、3. 防毒に付ては、防毒具、檢毒消毒の材料防毒室、民衆の群集する場所、食料品貯藏場等に於ける毒瓦斯侵入防止設備、上水道に於ける檢毒消毒設備、4. 避難に付ては、既存交通施設の補足的設備（公園等の入口增加、地下室侵入口の幅員增加、標識等の設置）、公園廣場等を利用する臨時集合所又は臨時避難所の設備、地下室を利用する避難所の設備、避難者の棲息に必要なる食料品等、5. 救護に付ては、救護所の設備、擔架、救急醫療具藥品等、6. 監視に付ては展望臺の設備、望遠鏡等、7. 通信に付ては電信法第二條に揭ぐる私設電話、官公署に於て臨時設備すべき電信電話、8. 警報に付ては、サイレン（固定式、可動式）、半鐘、ドラ等を意味するものであつて、都市築構に關する恒久的施設、例へば消防避難用の道路橋梁公園其の他の設備はこの防空法には包含せられてゐないのである。防空施設上多大の關係を有する都市計畫、市街地建

築物、其の他、電氣、水道、瓦斯、交通、運輸、通信等に關する事項は、之を既存法令の活用或は改正に俟つことを原則とし、防空法には防空上必要なる萬般の諸事項を網羅しては居らないのである。從つて、防空法の規定によつて國民防空の全般を包含せられるものと解することは深い誤で、都市計畫法及市街地建築物法其の他の關係法規、將又法規に規定されてゐる以外の事項をも合せ考へて、其の萬全を期さねばならぬのである。

3

都市計畫は都市の總ゆる形而下的施設に整備統合し以て市民の安寧を維持し福利を增進せしめることを目途とするもので、就中、道路の新設及擴幅、橋梁の耐震耐火化、公園、廣場の設置、防火地區の擴充、電線交通機關の地下埋設、耐震耐火建築の奬勵將又都市の地方分集促進等は、一旦緩急ある場合にも都市防護上最も根本的に必須なる施設と云はなければならぬ、依つて非常時都市防護計畫は和平の正常都市計畫の理想と全く一致する所であることは云ふ迄もない。

第六回全國都市問題會議總會の議題に關し防空施設に就き次の如く解說してゐるのも亦大いに意義あることである。即ち、輓近航空機の發達に伴ひ、今後の戰爭に於ては、產業上、政治上の各種中樞機關の所在地たる都市への空襲が、必然的に豫想せなれねばならなくなつた。從つて都市に如何に防護するかといふことは、今や最も重要なる都市計畫上の一問題となつてゐる。我國に於ても、昭和12年4月防空法が發布せられ同10月1日より實施せられて、都市計畫の方面からは防空機關の活動を便ならしむるため、又は市民の避難を容易にせるために、それに適當なる幹線道路網を定むること、各種通信機關を地下に埋設すること建築物の形態、色彩等に統制を加へて都市の識別度を輕減すること、建築物の構造を强化すること、防火地區の擴充强化をはかること、毒瓦斯の攻擊に對する防護施設をなすこと、及進んでは工業の地方分散をはかること等が緊急の問題となつて來てゐるこの新なる要求に對して、都市計畫家の貢獻寄與は熱心に期待せられてゐる。と。

又、最近市街地發展の狀況に鑑み一層土地利用の整正をはかり、建築物の用途の統制を期すると共に、防空防火及保健衞生上の見地より市街地建築物法の改正が行はれた。特に防空防火上注目すべき條項は次の如し。

第十一條＝左ノ一項ヲ加フ——主務大臣必要ト認ムルトキハ高度地區ヲ指定シ其ノ地區內＝於ケル建築物＝付高ノ最低限度若ハ最高限度ヲ定メ又ハ空地地區ヲ指定シ其ノ地區內＝於ケル建築物＝付床面積ノ敷地面積＝對スル割合及敷地ノ弧界線ヨリノ距離ノ限度ヲ定ムルコトヲ得

第十二條中「衞生上又ハ保安上ヲ「衞生上、保安上又ハ防空上」＝改ム

第二十六條中「幅員九尺」ヲ「幅員四米」＝改メ同條第二項ヲ左ノ如ク改ム——幅員四米未滿二、七米以上ノ道路及道路ノ新設又ハ變更ノ計畫アル場合＝於ケル其ノ計畫ノ道路ハ勅令ノ定ムル所＝依リ之ヲ道路ト看做ス

同法施行令の改正を俟たねば其の詳細なる具體的規定は不明であるが都市防空上重大なる意義を有するであらうことは云ふ迄もない。

4

防空に關する參考書は既に相當の數に上つてゐるが、其の性質上微に入り細に亘れる內容を有するものはない。謂ふ所皆殆ど或程度を超えてゐない。諸外國の文獻を通覽して最も注目せざるを得ないことは、何れも殆ど防毒を主眼としてゐる點である。我國に於けるが如く防空は先づ防火からと

云ふやうなことは殆どない。既に燃えざる都市を有してゐるからであつて、美しい次第である。數種の防空參考書を次に列擧する。

Hyde, H. M. & G. R. F. Nuttall, Air Defence and the Civil Population. London, 1937.

Cambridge Scientists' Anti-War Group. The Protection of the Public from Aerial Attack. London, 1937.

Campbell, Sir Malcolm. The Peril from the Air London, 1936.

Cement and Concrete Association. Air Raid Protection. Londod, 1936.

Fire Brigade Services. Report of Departmenta. Committee. Cmd 5224. London, 1936.

Foulkes, C. H. 'Gas!' Edinburgh, 1934.

Gasschutz und Luftschutz. Berlin.

Gibrin, Commadant, and Heckly, L. D. Défense Passive Organisée. Paris, 1936.

Groves, P. R. C. Our Future in the Air. London, 1935.

Haldane, J. B. S. Callinicus. A Defence of Chemical Warfare. London. 1925.

Hederer, C., and Istin, M. L'Arme Chimique et ses Blessures. Paris, 1935.

Heinicke, E. Der Bau von Luftschutzräumen für den Luftschutz der Zivilbevölkerung. Leipzig, n. d.

Henderson, Y., and Haggard, H. W. Noxious Gases. New York, 1927.

Hohm, Fritz. Die Waffen der Luftstreitkräfte. Berlin, 1935.

Home Office.(Air Raid Precautions Department.) Handbooks.

No. 1. Personal Protection against Gas.

No. 2. First Aid for Gas Casualties.

No. 4. Decontamination of Materials.

No. 6. Air Raid Precautions in Factories and Business Premises.

No. 7. Anti-Gas Precautions for Merchant Shipping.

Home Office.(Air Raid Precautions Department.) Memoranda.

No. 1. Organisation ofAir Raid Casualties Services.

No. 2. Rescue Parties and Clearance of Debris.

No. 3. Organisation of Decontamination Services.

No. 4. Air Raid Wardens.

Home Office. (Fire Brigades Division.) Memorandum on Emergency Fire Brigades Organisation. London, 1937.

Hunke, Heinrich. Luftgefahr und Luftschutz. Berlin, 1933.

Jones, H. A. The War in the Air. (Official History of the War.) Vols. III, V. Oxford, 1931, 1935.

Knipeer, Dr. I., and Hampe, E. Der. Zivile Luftschutz. Berlin, 1934.

Pickett, F. N. Don't Be Afraid of Poissn Gas. London 1934.

Schosberger, Hans. Bautechnicher Luftschutz. Berlin, 1934.

Socialist Medical Association. Gas Attacks. Is there any Protection? London, 1936.

Spaight, J. M. Air Power and the Cities, London, 1930.

Air Power and War Rights. 2nd Edition, London, 1934.

Vauthier, Lt-.Colonel, Le Danger Aerien et l'Averir du Pays. Paris, 1930.

以上の洋書は便宜上頭書の書籍の巻末に掲げられたるものの中より、特に參考となるべきものを抜萃したのであるが、この中には我國に於て既に大いに利用せられてゐるものも多い。其の詳細は又稿を更めて紹介することゝする。

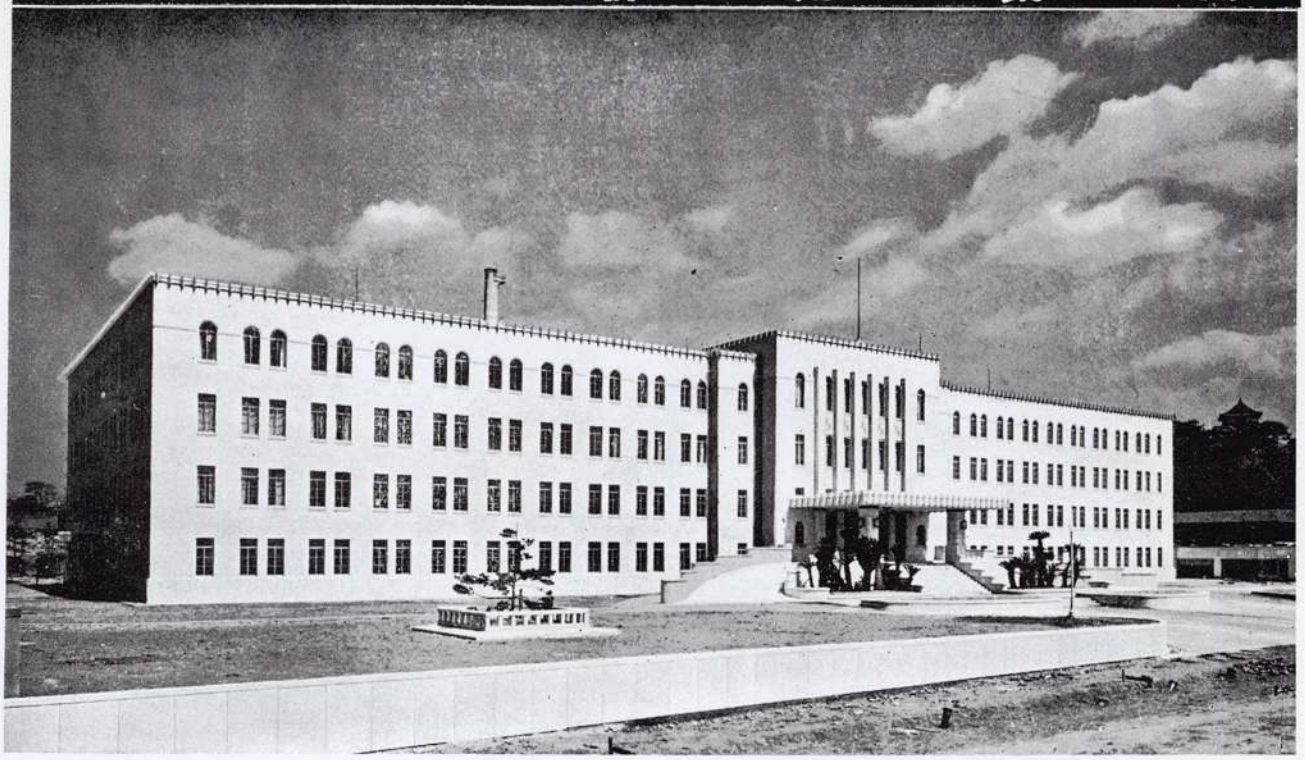
我國に於て、防空に關する技術的考察に關しては、雜誌「建築と社會」「建築雜誌」「都市公論」「セメント界彙報」「軍事と技術」其の他に屢々有益なる論文が發表せられてゐるが、茲に於ては之が紹介は省略する。比較的新しく發刊された防空關係參考書の數種を列擧すれば次の如し。

大塲彌平氏著・昭和12年9月15日・偕成社發行「防空讀本」
片岡　稔氏著・昭和12年9月1日・ダイヤモンド社發行「空襲」
高橋常吉氏著・昭和12年11月17日・新潮社發行「敵機來らば」
原　嘉章氏著・昭和12年9月13日・第二國民會出版部發行「近代戰と國防」
青木　保氏著・昭和12年10月29日（日本評論社發行「兵器讀本」
昭和12年11月1日・誠文堂新光社發行「航空機の驚異」
岩田恒氏編・昭和12年11月20日・大阪市教育部發行「空襲と都市防空」
奥島正一氏譯・昭和12年12月28日・日本ポルトランドセメント同業會發行「建築防空に就きて」
田中幸太郎氏編著・昭和12年10月・大林組防護分團防毒班發行「空襲防護室」
大林組住宅部・昭和12年12月調「空襲と住宅防護室」
陸軍經理學校研究部譯「防空建築」

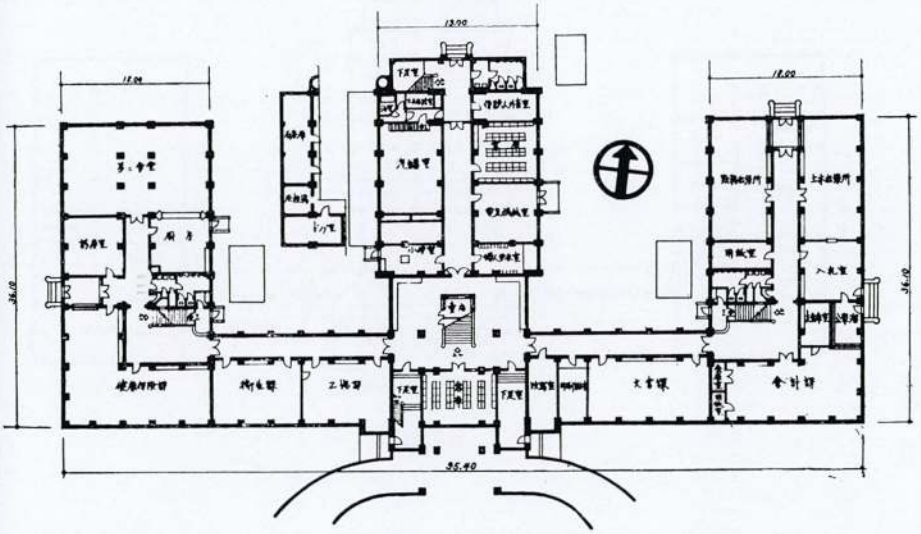
5

一般都市計畫の範疇以外に、消火用貯水池、防護室等の建設も防空上の重要施設として、既に各種の文獻に詳細論議されてゐる。茲には之を省略する。

我國に於ける防空の要諦は先づ防火にある。都市の武裝こそ凡ゆる防空計畫の基礎となるものであつて、我等は之が實現へと邁進しなければならぬのである。

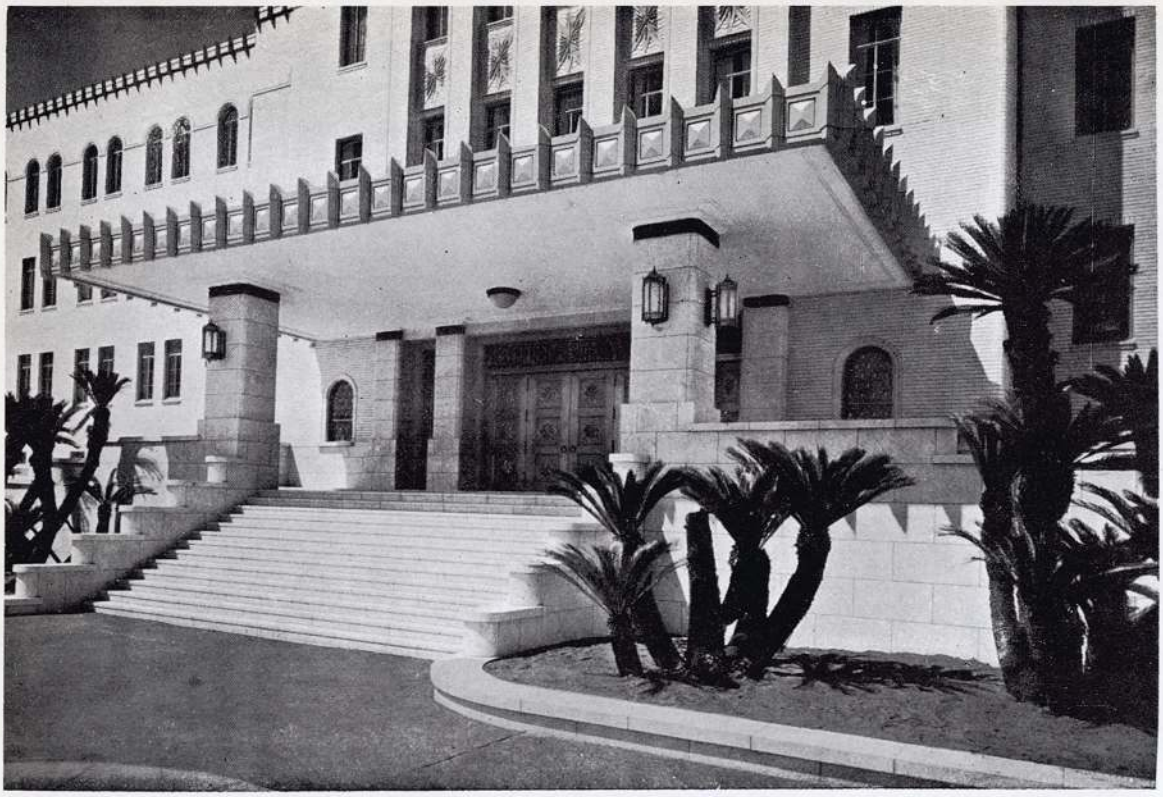


正　面　全　景

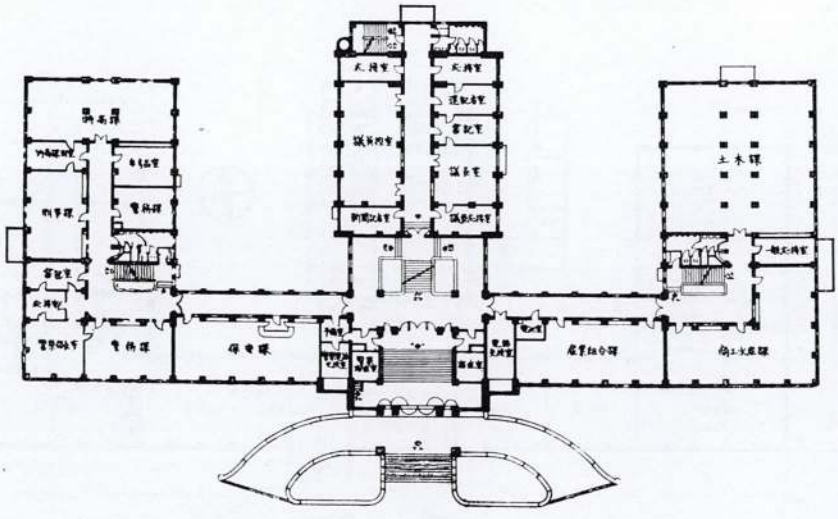


1 階 平 面 圖

“和 歌 山 縣 廳 舍”　設計・和歌山縣廳舍建築課・施工・清水組

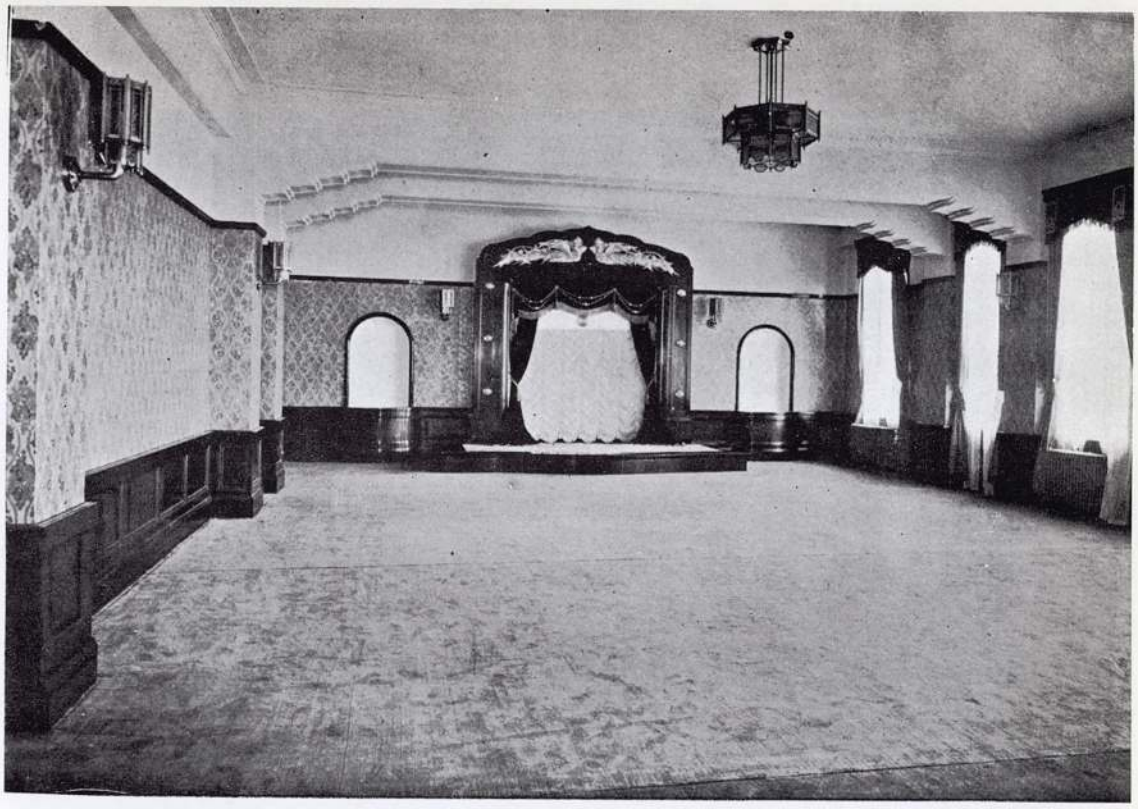


正面玄關車寄

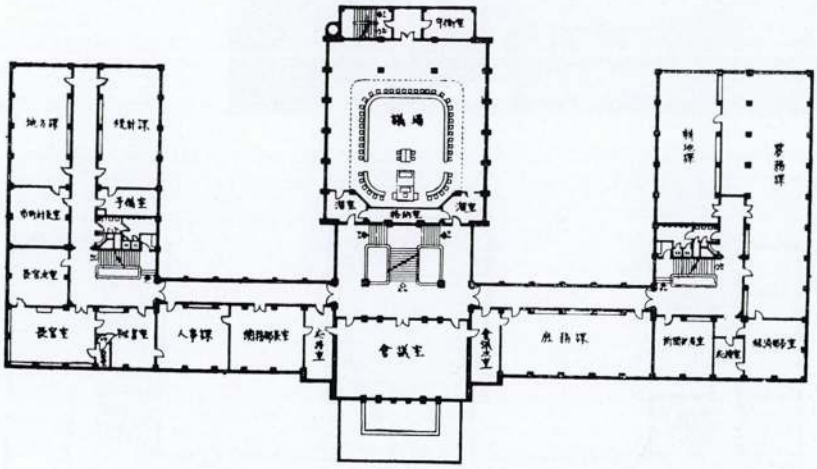


2階平面圖

v2 “和歌山縣廳舍” 設計・和歌山縣廳舍建築課・施工・清水組

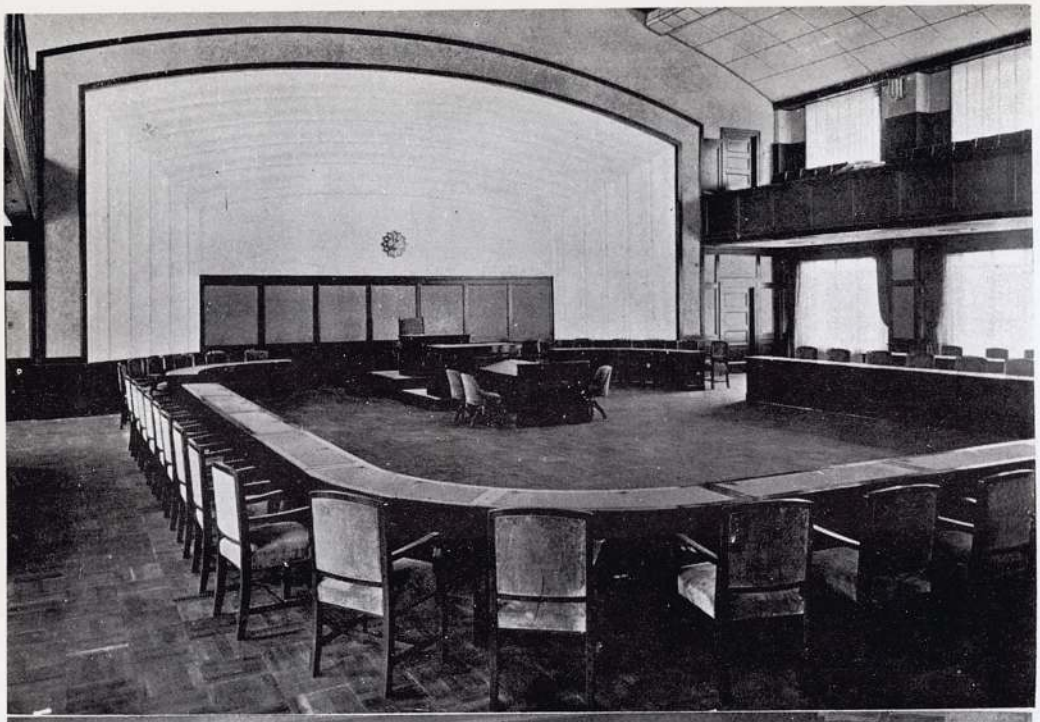


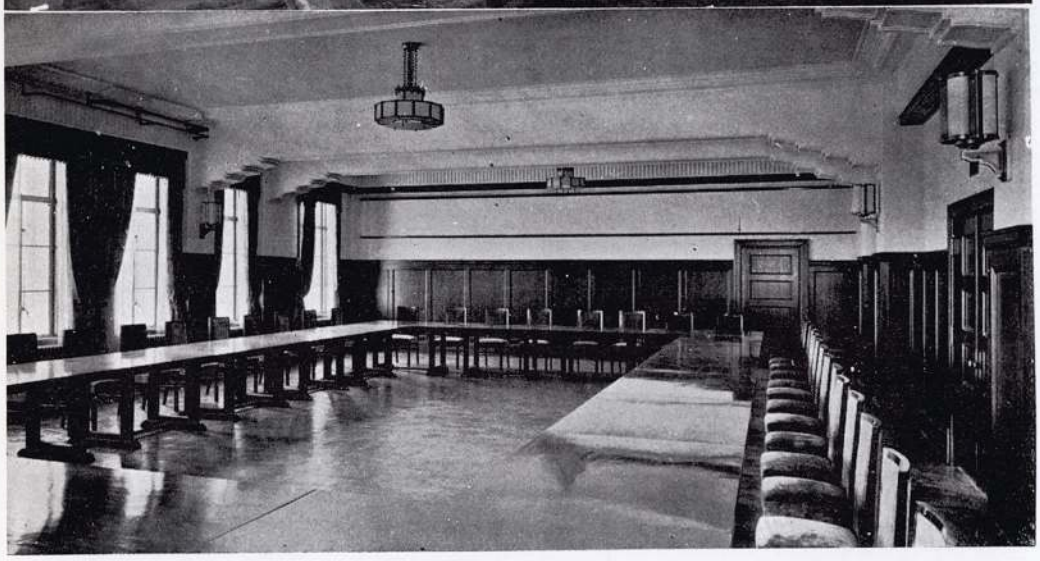
正　　廳



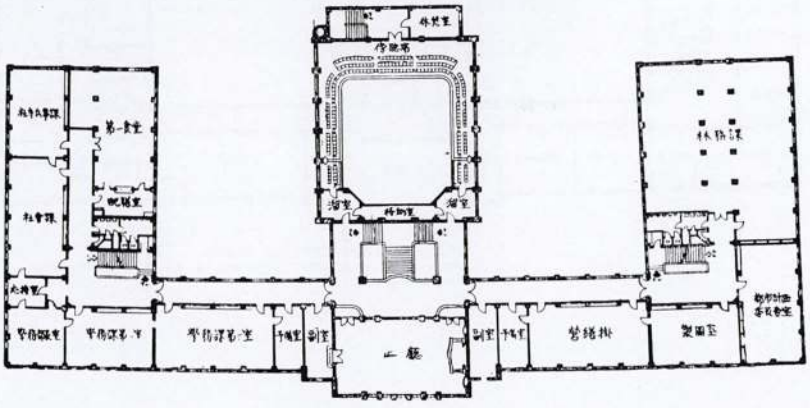
3 階 平 面 圖

“和 歌 山 縣 廳 舍”　　設計・和歌山縣廳舍建築課・施工・清水組



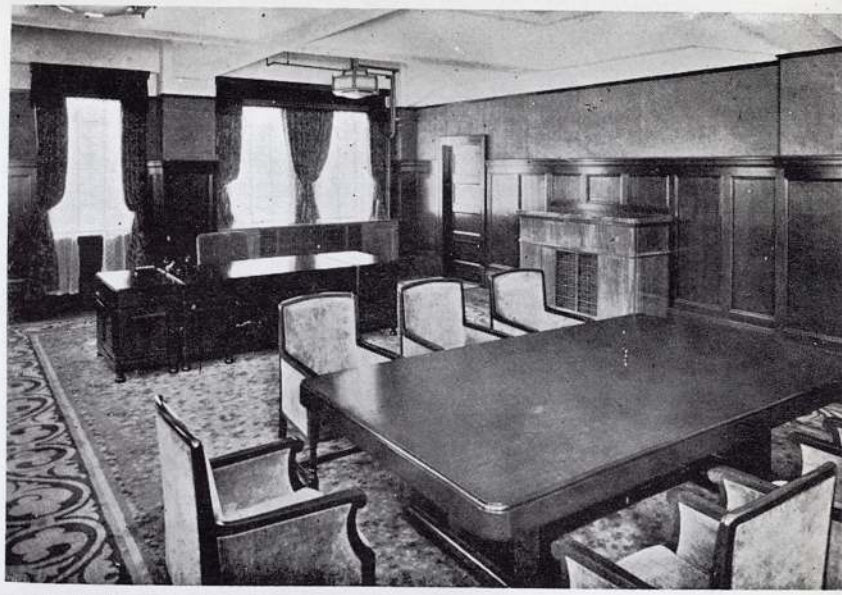


議　場（上）　會議室（下）



4 階 平 面 圖

知　事　室



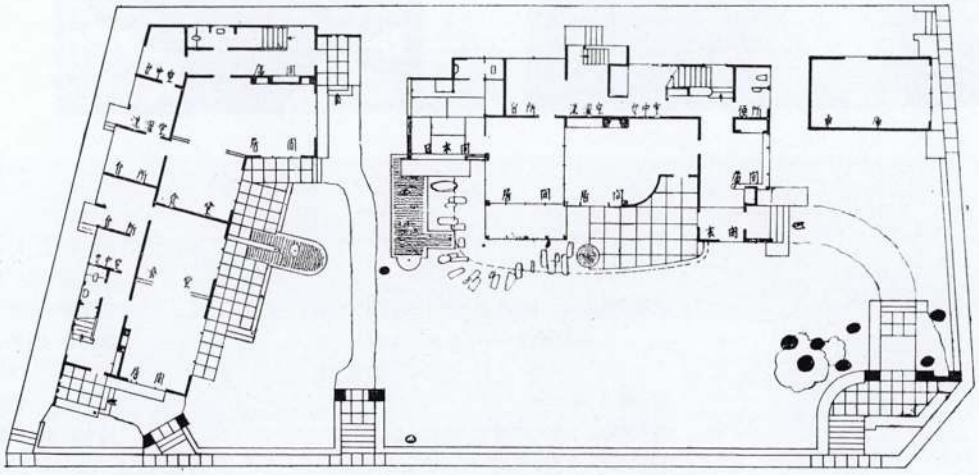


部　長　室

敷地位置　和歌山市小松原通１丁目１番地ノ１
敷地面積　6.700・96坪
建築總延面積　本 廳 舍　10.344・58平方米
　　附屬廳舍８棟合計　1.904.64平方米
　　總　　計　12.249・22平方米
建築樣式　近世式
建築階數　１部地階及屋上階付４階
本屋幅員　東西正面長　95・40米
　　南北側面長　36・10米
建物高サ　正面中央扶壁上端迄　18・30米
　　本屋扶壁上端迄　16・80米
　　屋上階扶壁上端迄　19・40米
階　高　各階共　3・75米　但第４階正廳4・45米
各階面積　地　階　157・86平方米
　　第１階　2.474・06平方米
　　第２階　2.629・76平方米
　　第３階　2.584・76平方米
　　第４階　2.385・42平方米
　　屋上階　109・52平方米
　　屋上奉安殿　3・20平方米
建築延面積　10.344・58平方米
主體構造　議場部分ハ鐵骨鐵筋「コンクリート」造
　　其他總テ鐵筋「コンクリート」造トス。但
　　耐震壁其他ノ重要箇所ヲ除キ小部分ノ間仕
　　切壁ハ將來ノ改築ノ便ニ備フル爲木造トス



全　　景

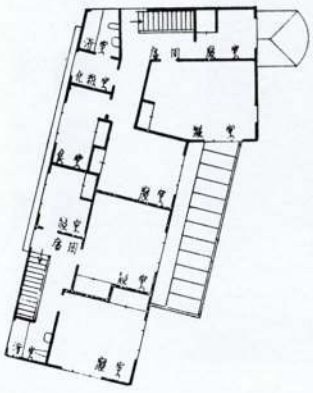


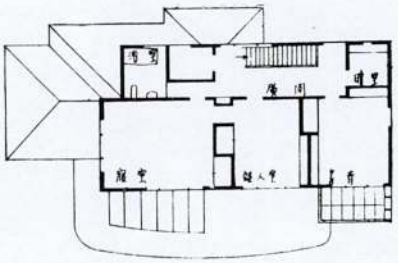
1 階 平 面 圖

v 6　“中　西　邸”（大阪夙川）　　設計・施工・清　水　組

玄　　關





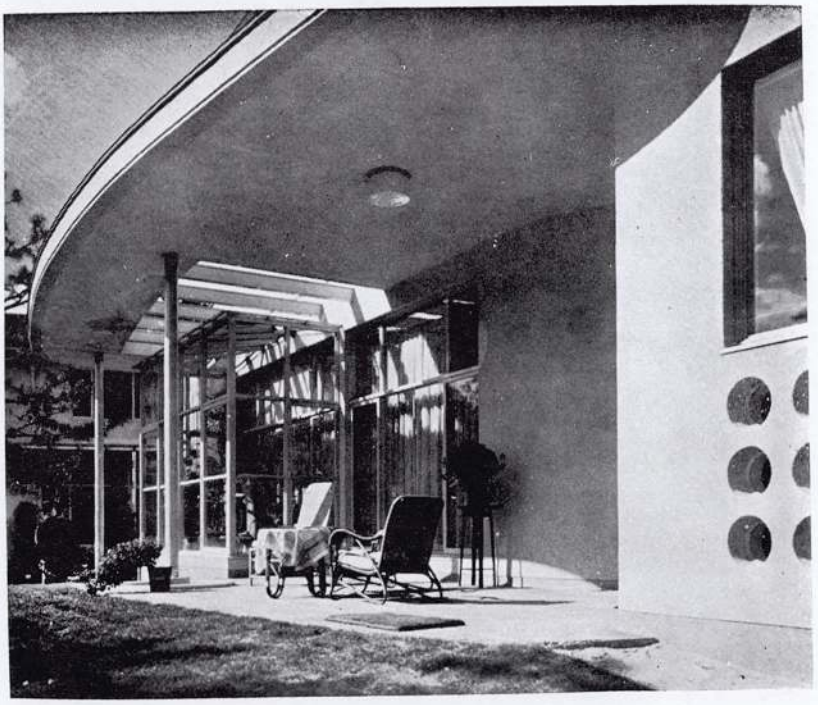


2 階 平 面 圖

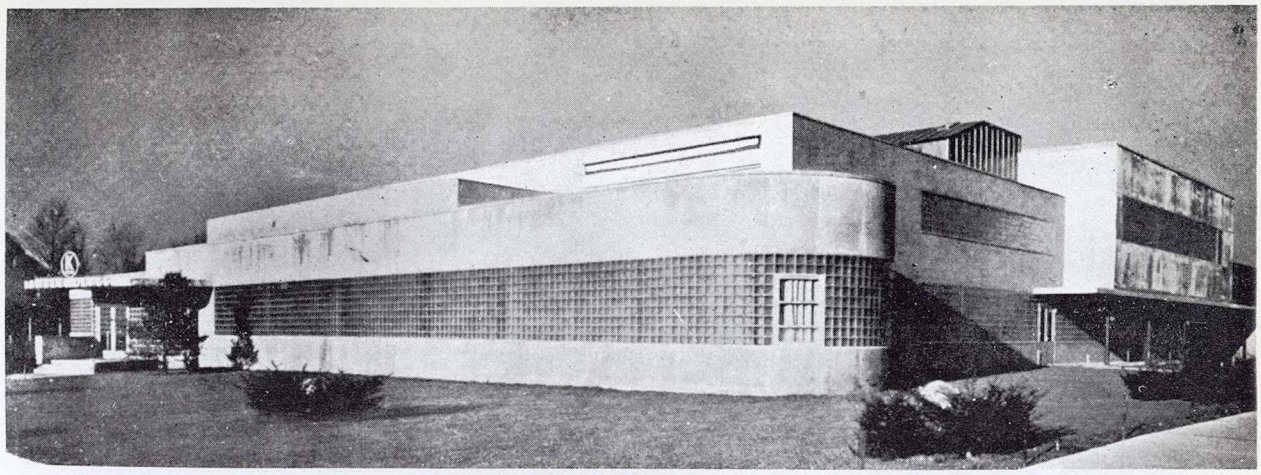
“中　西　邸”（大阪夙川）　　設計・施工・清 水 組



客間及食堂



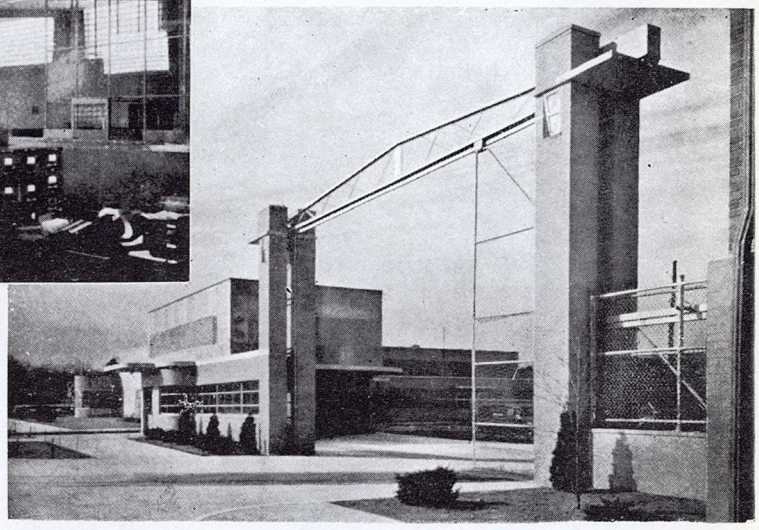
南側テレス



全　景



主要事務室



門

New Jersey の Vineland の、主としてグラス壜やグラス棒や其他種々なる小形のグラス製品を製造する會社の事務所である。

中央の主要事務室はトツプライトを採つて、その周圍に重役室や工場係室や休憩室や其他の諸室が配列せられて全建築の主要部分をなし、突出した翼の部分には使用人の爲の會議室、及2階建の集會室等が設けられ、總體として全く機能的に出來上つたプランである。

採光面には殆んどグラス・ブロックを使用した點、門に巨大な吊戸を使つた點等はこの建築の意匠上の特徴と言へるであらう。

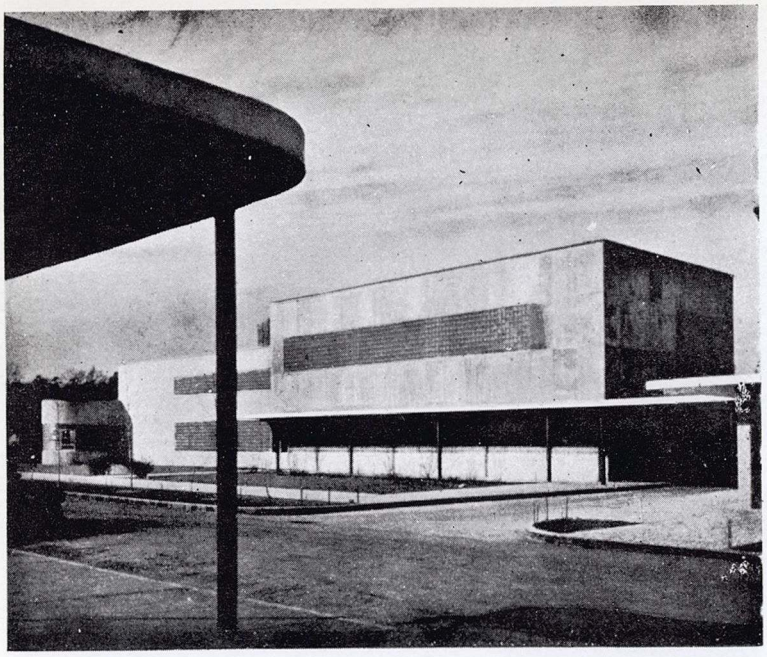
内部も亦、設計者が自由に腕を振ふことを許されてゐたから可成變つたデザインが見られる。例へば天井にインバーテド・トラスを用ひ、(斷面圖及主要事務室寫眞參照)天窓からの採光が有效に室内に傳達される樣に計畫した點、トラスの中央部の「背骨」の部分を誇張してその中に空氣調整のダクトを挿入した點等はそれであり、同時に機能と意匠とを融和させた例にもなる。

外部主要部分は石灰岩貼付、その他煉瓦仕上、内部はタイル又はプラスター。

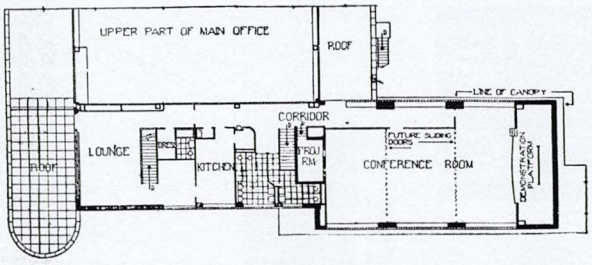
1階床はコンクリート造、2階床及屋根は構造は鋼鐵梁にコンクリート・アーチとす。

(Architectural Forum, March, 1938より)

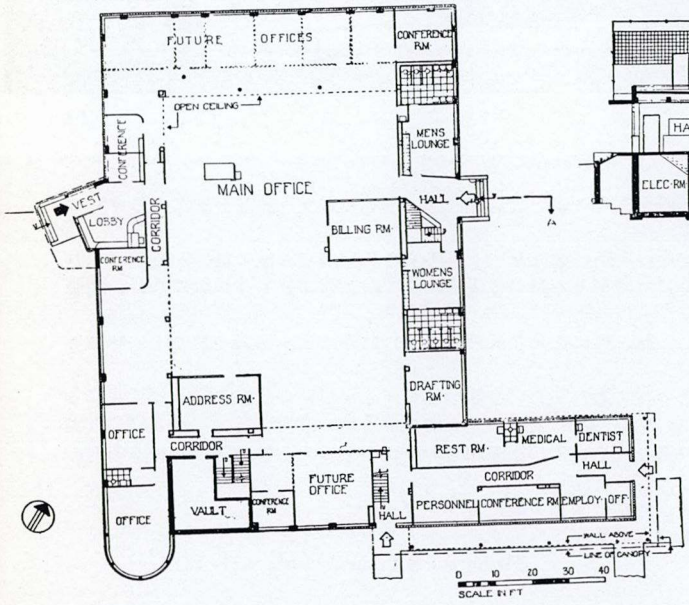
（アメリカ）キンブル・グラス會社の事務所　建築家 William Lescaze



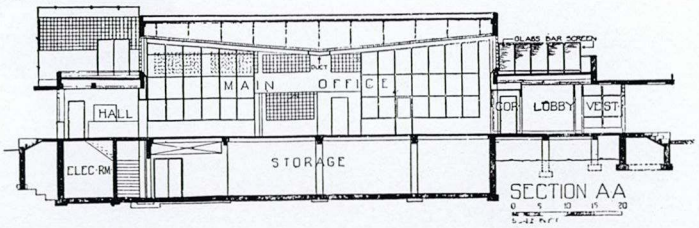
東側外觀



2階平面圖

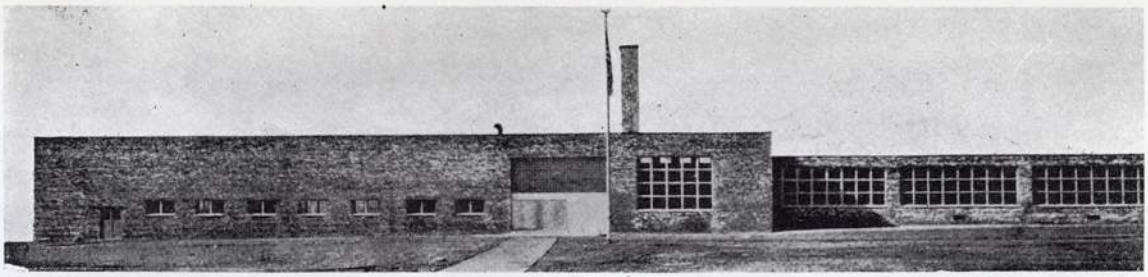


1階平面圖

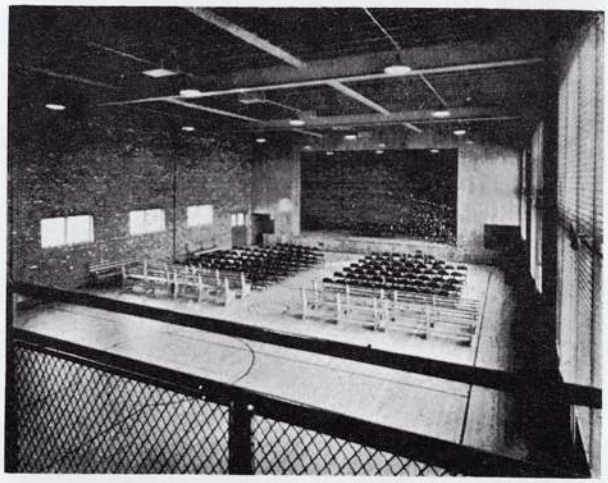


斷面圖

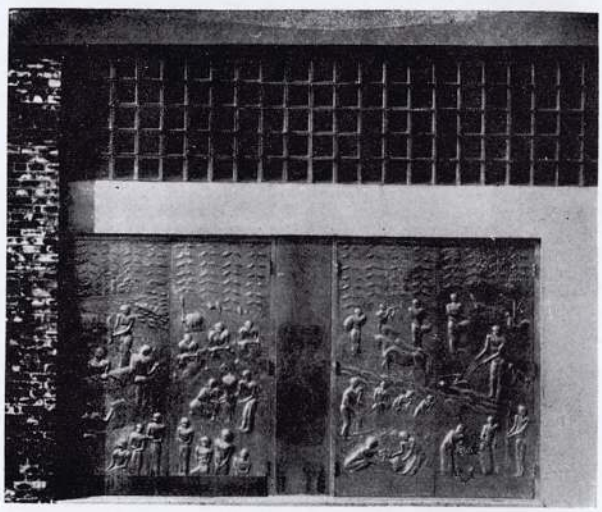
v 10　（アメリカ）キンブル・グラス會社の事務所　建築家 William Lescaze



正面外觀



會堂內部



主要入口扉詳細

小學校の講堂と附近の住民の娯樂機關とを兼ねた、最近アメリカに於ける小都會の會堂の適例である。

非常に限られた豫算で建てられたので、材料や室内の臨時的の部分などに對して極度の節約が行はれてゐる。

とは言へ、設計の大まかな取扱ひ特に内部のそれは、工費の不足が必ずしも意匠の粗惡を意味するものでないことを充分に示してゐる。

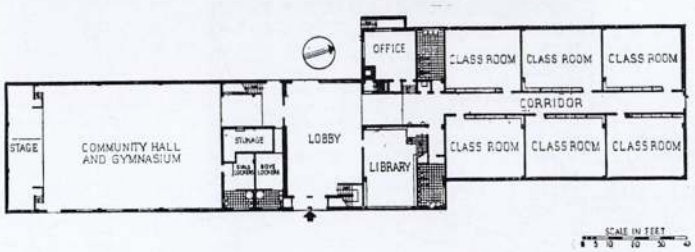
更に少額の金を上手に集中して使用することに依つて、設計上非常な効果を擧げ得ることを、ロッビーの壁畵や主要出入口扉のアルミニユームの浮彫が雄辯にこれを物語つてゐる。

この建物は全體の計畵中の一部分で、必要に應じて舞臺の大さを增加することも出來れば、幼稚園、徒涉池、運動場等も將來の計畵の中に含まれてゐる。

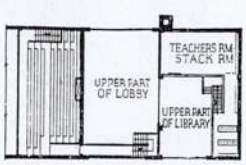
この建物は講堂として、又會堂として、更に室内體育場としても利用され得る樣に出來てゐる。

鐵筋及鐵骨コンクリート造。

(Architectural Forum, March, 1938より)



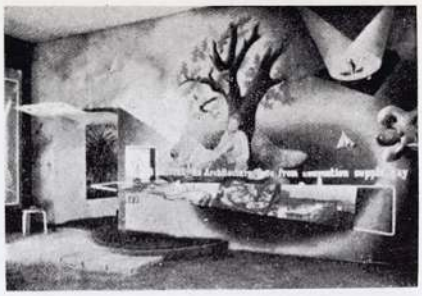
1階平面圖



バルコニー平面圖

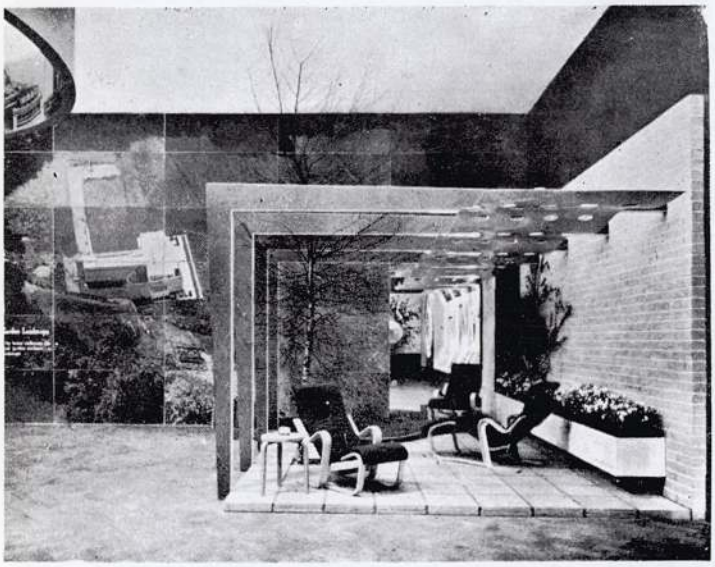


内部の1部





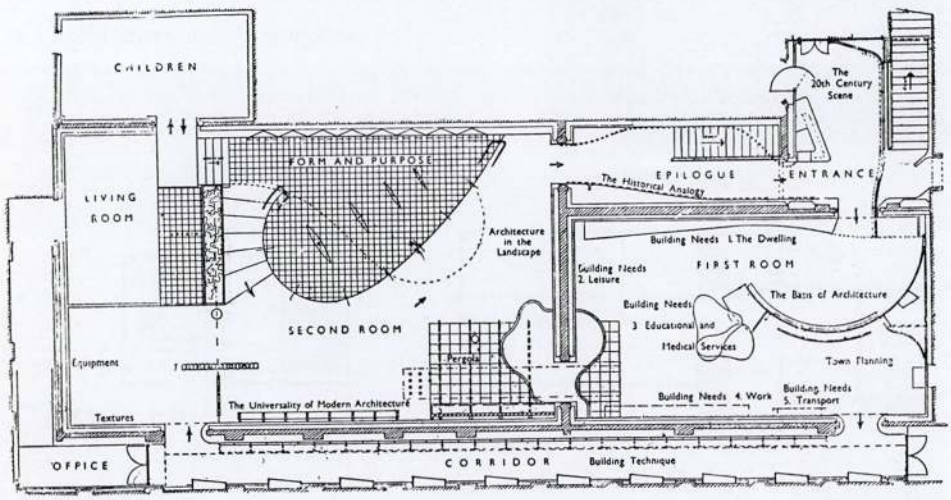
内部の1部



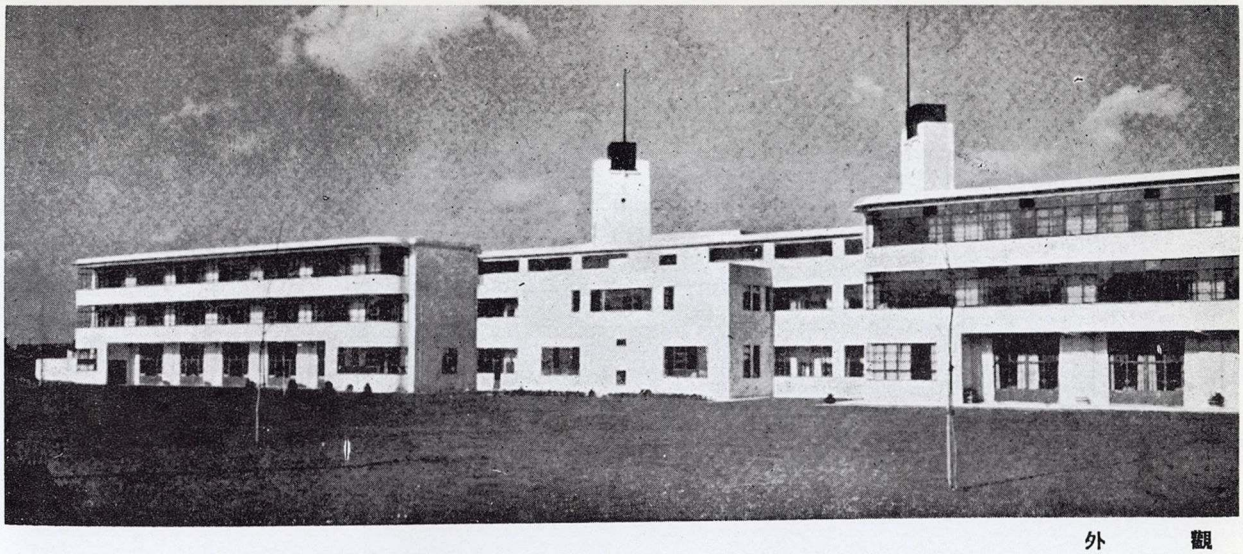
内部の1部

1月ロンドンに開かれた Mars (Modern Architectural Research) の展覧會は展示形式、配置、構成等にかなり巧妙な見るべきものがある。

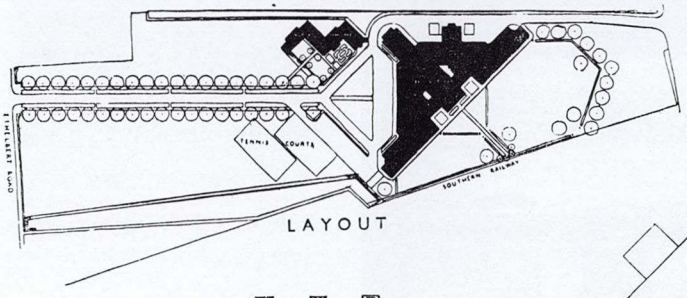
(Architectural Review, March, 1938 より)



配置平面圖

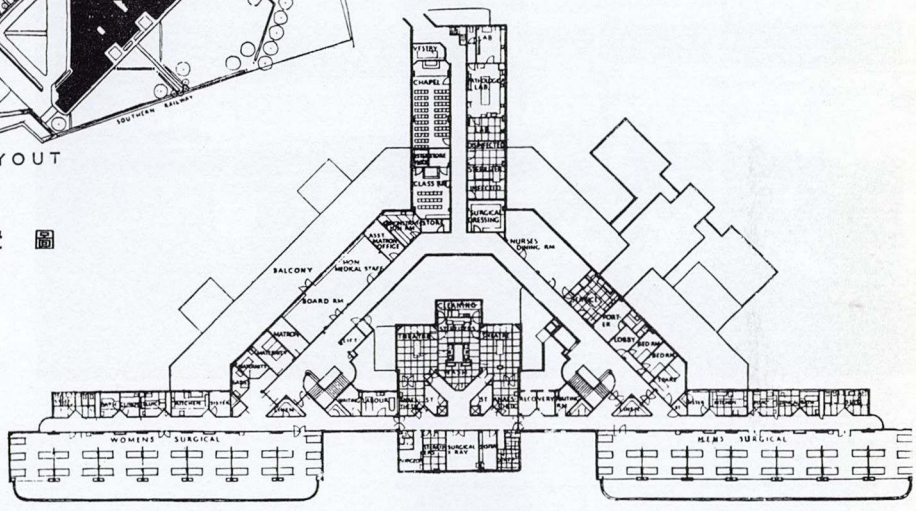


外　　觀

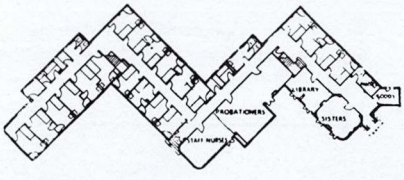


配　置　圖

(Architectural Review
March, 1938 より)

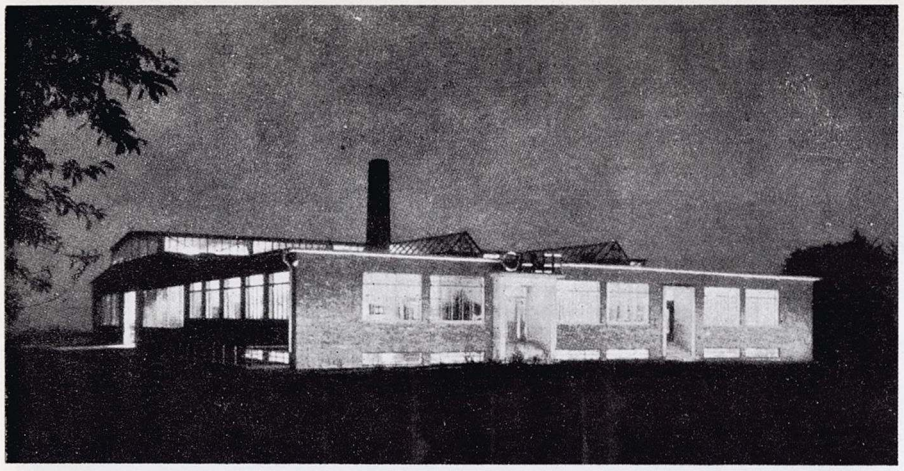


3 階 平 面 圖

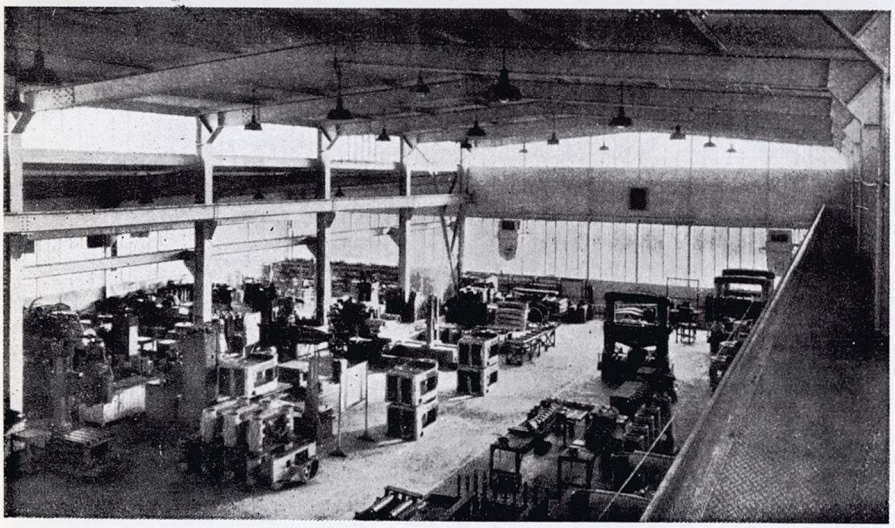


看護婦寄宿舍
1 階 平 面 圖

1 階 平 面 圖

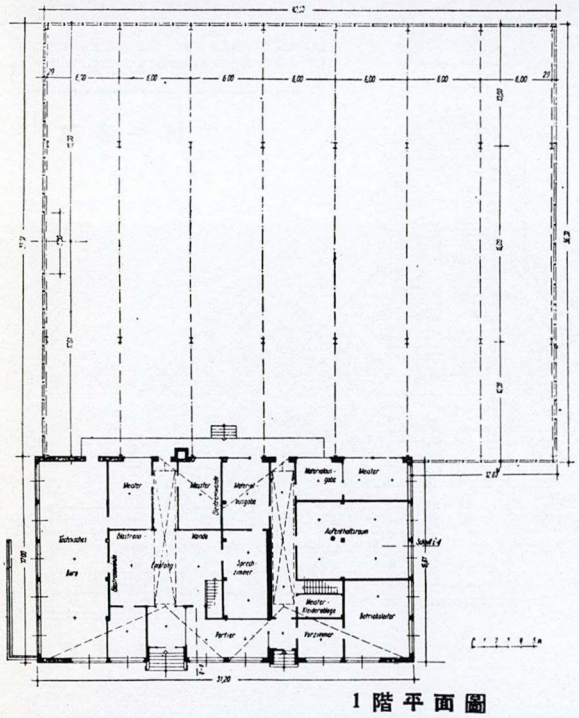


夜　景

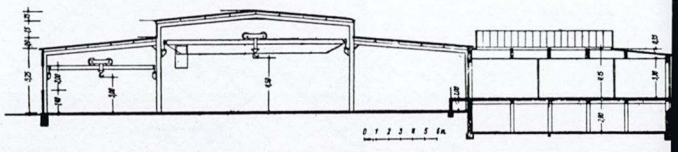


小ぢんまり良くまとまつた機械工場で、本館（31.20m×16.61m）と組立工場（42m×36m）とより成り本館の地階には防空避難室が設けてある。（Der Baumeister, März., 1938より）

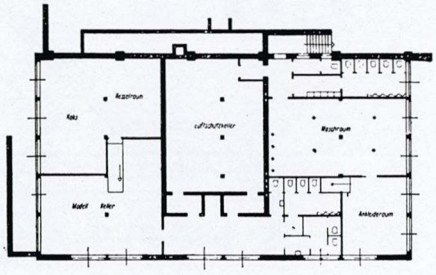
組立工場内部



1階平面圖

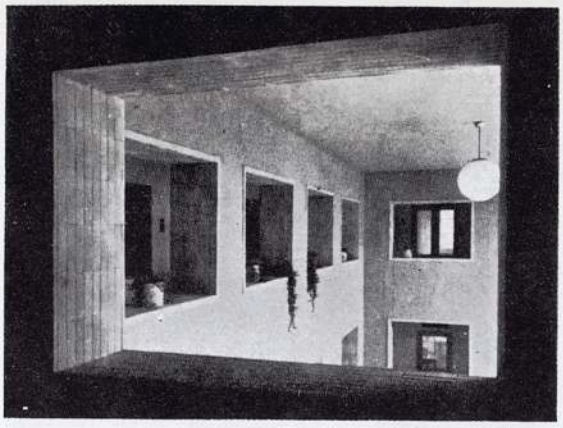


斷　面　圖

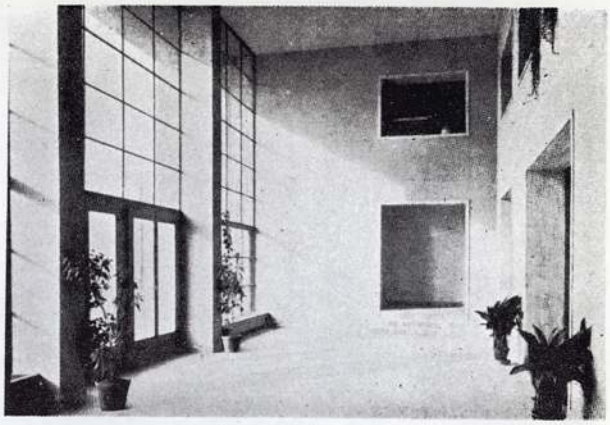


地階平面圖

v 14　（ドイツ）レムシヤイドのオーレルエ　建築家 Ludwig Lemmer



ホ　ー　ル



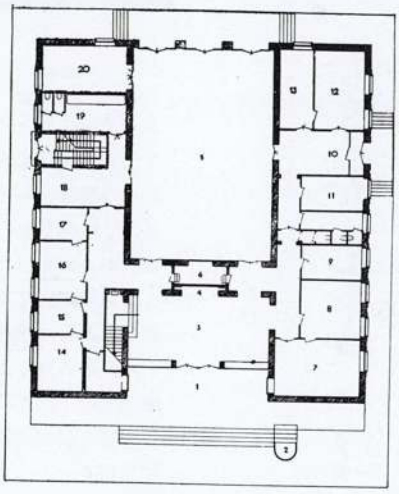
吹抜ホール



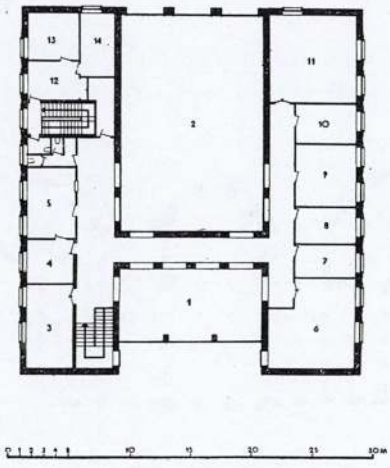
正面外観

1　階

1 ポ　ー　チ
2 演　　臺
3 廣　　間
4 儀式用具室
5 道　　場
6 映　寫　室
フアツシヨ婦人部諸室
7 集　會　室
8 依　託　室
9 代表者室
補佐部諸室
10 入　　口
11 醫　療　室
12 事　務　室
13 倉　　庫
フアツシヨ青年部諸室
14 百人組長室
15 士　官　室
16 指揮官室
17 スポーツ事務室
18 更　衣　室
19 シヤワー室
20 器　具　室



1階平面圖



2階平面圖

2　階

1 廣間上部
2 廣間上部
3 待　合　室
4 依　託　室
5 書　記　室
6 議　事　室
7 圖　書　室
8 相　談　室
9 團　長　室
10 法定補佐官室
11 報導係室
12—13—14
守衛住宅

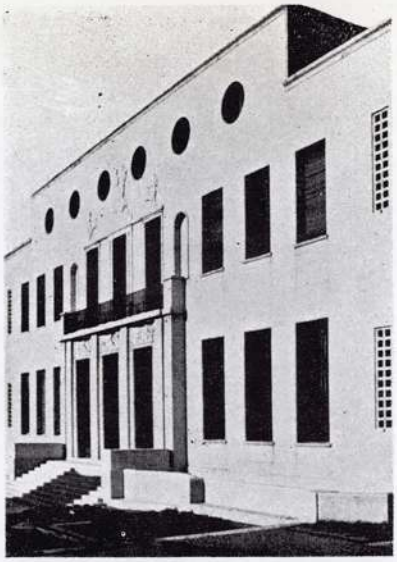
建築軒高 9m　　面積 826m²　　建築容積 7439m²

(Architecttura, Feb., 1938より)

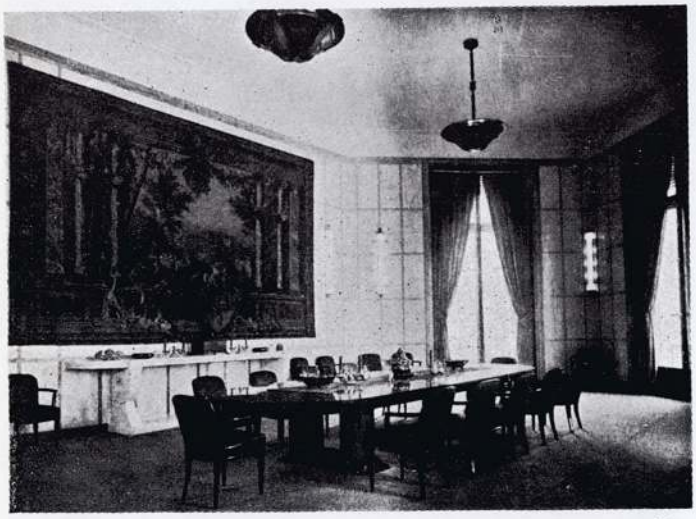
（イタリー）トリーノ市フアツシヨ會館　建築家 Mario Passanti



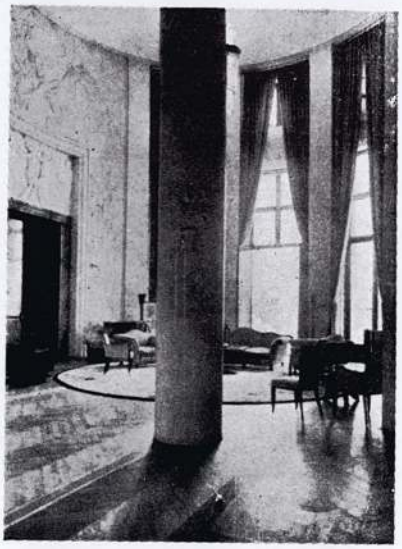
正面外觀



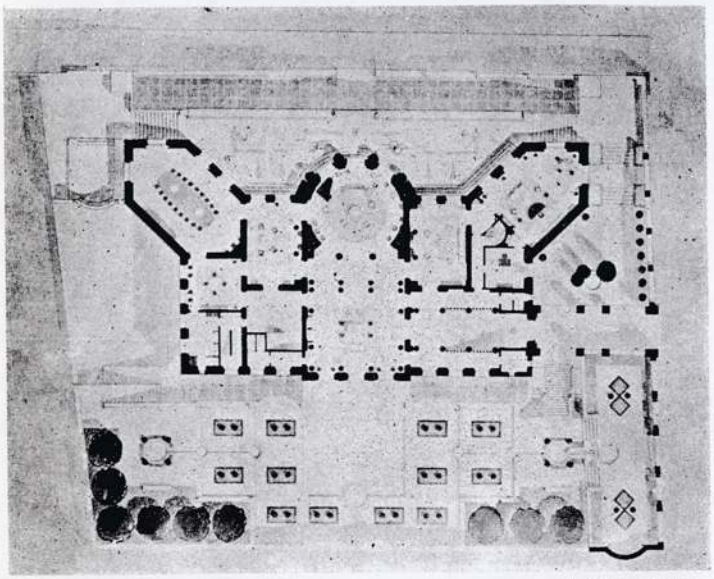
背面外觀



食堂



ロトンド



1階平面圖

この建物はユーゴスラビヤの首府ベルグラードに於ける佛蘭西公使館であつて、その外觀はシムメトリツクでモニユメンタルな性格を有し、いかにもラテン的な香ひの高いものである。特に細部に用ひられた裝飾的な要素と建物全體との比例及その調和は注目に價する。

下の道路に面する部分に公使館事務所を置きその上部に公使官邸としての社交用の諸室と幾何學的なフランス風庭園を設けて居る。

フアサードの中心の屋上にはSarabezollesの手になる自由、平等、同胞愛をかたどるブロンズ製の3像あり。

(Art et Déc., Jan., 1938より)

v 16　(ユーゴスラビヤ) ベルグラードのフランス公使館　建築家 Roger Expert

武田博士を憶ふ

大須賀　巖

（1）

關西で大名を馳せて關西で亡くなられた武田五一博士の追悼會が、三月はじめ東京で開かれたことは、同博士が、わが日本の建築界に大きな存在であつたことの證左であるともいへやう。またその會合者が獨り建築界のみならず、大學の學科別にして、文科もあれば法科もあり、大學出の外にも種々の方面のインテリ級の人々の顔の見へたことはその交友その趣味の廣かつたことを物語るものであらう。

會のはじまらぬ前の三々五々の集ひの卓で語られた雜話にこうした會合が、大阪や京都で開かれたとする。出て來る人々の顔振れは決つて居る、サスガ東京丈けに呉越同舟といつては語弊があるかも知れぬが、他の場所とは大分違つた（他の會では出逢はない）人々が、けふは見られると囁いて居るのが耳に入つた。わたくしは未定稿の都市理論の一つとして、大都市と小都市との區別を、そのシヴイツク・センターの複數と單數とによつて分つべきだと思つて居る。徒らに人々の多寡によつて之を分たうとする、在來の分類法よりはこの方が、合理的でもあれば實際的でもあるといふ見解を持するものであるが、このことは、ただ單に地域的にシヴイツク・センターの複と單とをいふばかりでなく、社會的機構からいふても各種の文化層がそれ々々複數的に存在することが、大都市の大都市たる所以でもあるといふ理論を伴ふ次第であつて、大東京は大阪京都に較べて、その外面的な人口の數に於て優るばかりでなく、都市民そのものゝ社會的機構が各種各樣の層を成して、自ら大都市中の大都市であることを物語る如くに考へられた。

武田博士は、その後半生を關西方面に送られたが、學生時代から引つゞいての前半生は東京であつた。學校を出たばかりの若い工學士、而して新夫人との愛の巢を構へた、本鄉西片町の可愛らしい家（筆者の記憶にして誤りなくんば）と晩年の京都の住宅とは、正に同博士の二大時期を明白に分つて考へさせられる。茶室建築研究は已に東京で發表されたのであるが、その藏前に教鞭をとられた頃と中京の工藝それから京大との動向は、正に建築と美術と工藝との融合並びにそれ等の分野に於ける各社會との接觸は、博士の多角的な才能を多彩的に放射せしめたといへやう。しかも、その大集成として、法隆寺復興の大事業が、あらゆる日本の斯界の權威者の先端に立つて身を捧げたのであるが、不幸その落慶を見ずして逝かれたことは、博士並びに博士を知るものゝ、萬斛の涙をのむ恨事であるばかりでなく、日本文化大なる損失であつた。わたくしの都市理論の我流をあてはめていふならば、正に大都市的損失であつて、ポンペイの最後の日よりも大いなる悲劇であるともいへ得やう。

こゝへ一筆加へて置かねばならぬことは會の待合室で、元名古屋市長佐藤季三郎氏が一葉の繪はがきを持ち歩いて居つた。佛畫風の繪はがきで、色彩もよくお寺で見る

古畵かなんぞのやうにひどくクスンだ色合で、中央に同氏に似た半裸體の佛像が描かれてある。これは當時、何か名古屋市政上に暗雲が漂ふて、佐藤市長が不一方苦慮し居られたのを諷して、武田博士が自畵自讃の私製はがきを同市長に郵送せられたものであつたとのことである。お丁寧にサインが書かれてある。

（2）

しめやかな追悼會は、痩せて鶴の如き大熊博士によつて、開會の辭が宣べられた。萩野忠三郎氏の終焉記的追悼辭は、入口正面に安置された、博士の黒リボンに飾られた肖像の前に立こむる香煙と共に、縷々一座死の靜けさを以て聽く、それに次で、博士生前の愛弟子と銘をうたれた神戸高工の古宇田氏の追憶談は、悲しきうちにも愛の光りの輝きを、五月雨の晴間の明るさを見せて、遺族席の卓上からも微笑が流れる。それを承けて起たれた佐野利器博士は謹嚴な面持ちに滿腔の悲痛愛惜の回顧談は一堂水の如く冷めたく堅くなつたその折、「古宇田君は軟い方面でもその方の堂に入つたお弟子でしたと存じますが、只今の追憶談にこれが加はつてあつたならば、完璧であつたらうと存じます」と眞面目臭つて爆彈投下したので、滿堂思はず爆笑して涙の眼を押拭はされたのは、佐野博士も罪作りな人であると申そうか。つゞいて福原俊丸男爵も起つて追悼の思ひを語つた後、法隆寺の保存工事について、一彈を建築界に投げた。あの夢殿をアンナにまで、根本的にうち壞はして改造することが適當であらうかどうか、男爵としてはこれに對して大に危惧の念は有して居るものであるが、ただ武田博士がするのであるといふ譯で默つて居るのであるが、この事は一つ建築界の權威者に於て一應考慮して貰ひたいといふのであつた。大熊博士等の建築權威者の肩を並べてある卓上では、滿座の注視を浴びて、切りと何やら鳩首凝議して居るものゝ如くであるが、遠方でその內容を耳にすることを得ない筆者の、眼に感じた樣子から判斷すれば、男爵の意見に對して大に異議あるものゝやうであつた。

わたくしの鈍感に覺り得た追悼會風景は先づ以上の如くであつた。わたくしの小稿を書く目的は追悼會記事ではなく、これを誌す適者は他にあり焉で、多分その方が本誌に詳細に誌さるゝことゝ信ずるが故に、わたくしはこの光景のうちにあつて思ひ浮べた二つのことを以下に記述させていたゞき度思ふ。

（3）

わたくしの、武田博士のお顏を知つたのは、博士が大學を出た直後で、新夫人はわたくしの妹の同窓生であつた關係と、後に博士の義兄弟坂田君とわたくしとが、都市計畫で同じ方向への道を步むこととなつた關係もあつて、互に知合となつたのであるが、親しく話を交はすやうになつたのは、兩者が關西で住ひし、仕事をするやうになつてからである。

大阪が日本で最初に都市計畫を施行することゝなつて、わたくしは大阪に來た。讀者諸君は、茲でお記憶を大正五年に遡らしていただくことをお願する。當時、小學校々舍で鐵筋コンクリート造のものは、本會々員たる置鹽章君の手に成つた、兵庫縣廳裏のそれが只一つ、京阪神間にあつただけであつた。わたくしは、九州の博多ツ子にその小學校々舍を鐵筋コンクリートにせよとすゝめた。文部省の倉田謙君も贊成してその校舍の建築については、社會奉仕として設計も監督もしてやらうと承諾され、倉田君の監督の地位にある九大總長も、わたくしの意を諒として贊成された。わたくし

が當時これをいひ出した根據は都市財政の見地からであつた。勿論火災豫防といふ考は、朧げながらもあつたのではあるが、耐震とか耐風とか防空とかいふ考まではなかつた、ただ永久的建築であることは、當時も今も變りのない都市財政の貧困さ、しかもそれが建築による債務に常に追立てられて居る悲哀から免れるには、一方に增築一方に改修といふ二重負擔を無くして、人口增加による增築は致方ないとしても改修による增築丈けは、何れの日にか無いやうにするには、鐵筋コンクリートにするより外に途は無いといふので、小學校々舍は鐵筋コンクリートたるべしの原則を固持した。しかるに、博多ツ子と福岡藩士とから成る福岡市民はこれを承知しない。同地の二大新聞紙は熾に惡罵をわたくしの意見の上に加へる、マルでお維新當時の洋風崇拜家のやうな奴だ、盲滅法に西洋の眞似ばかりしたがるとさへ攻擊された。こうした苦難の後に大阪へ來たわたくしは、又しても此處で一苦勞は覺悟せなければなるまいと考へて、或席上で博士にあふた折、意中を語ると、博士は洪笑一番「今時そんな解らずやはなからう」と如何にも朗らかであつた。しかるに、大阪には一つの鐵筋コンケリートの校舍もなかつたのである。武田博士の住はれた京都は、その小學校々舍として、何樣の御殿かと怪まるゝ開かずの門と大玄關とを有する木造で、これに據つて同市の學區の癌が形成されて居た。學務委員はこの校舍のうちに校長に君臨し、外に對しては市當局と府學務當局を威壓して居つた。校舍形式の改定は學事の刷正でもあつたのであるが、當時は事變前の蔣政權下の軍事施設の如く强固であつた。

都市計畫の啓蒙事業として、大阪都市計畫委員會の主催で、都市計畫展覽會が、天王寺公園の市民館で開かれた。神戸に唯一つの鐵筋コンクリートの小學校々舍が大々的に宣傳され、これを持たない大阪を諷嘲した、平面的立體的の施設が、場所一杯に並べられた。この室に入つた後藤新平伯爵は筆者を顧みて、「大阪にはないのか」と低聲できいた。「そうです」といふ筆者の返事に、ニーツと伯爵は首を肩の中へすぼめて笑つた。風雨幾星霜の後、伯爵に會ふた時であつた、「おい君、大阪は鐵筋コンクリートの小學校々舍が御自慢だよ」といつて笑はれた。

大阪はその後の震災風災に、數多くの鐵筋コンクリートの小學校々舍を試驗臺に上せて、大に名聲を馳せたのであるが、四國の丸龜市では、その頃に於て、わたくしは又しても四面楚歌の中にあつたところへ、武田博士が同地へ見へられた。その事をきいた博士は、早速その夜の講演會に鐵筋コンクリート校舍の御利益を、市民に述ぶることを忘れなかつた。而して不可思議なことには、神戸の鐵筋コンクリート小學校々舍の鼻祖置鹽章君が、その事あつての直後丸龜市立商業學校の鐵筋コンクリート校舍の設計監督に當られることゝなつた。勿論丸龜市には、今以て鐵筋コンクリートの小學校々舍は一つも無いのである。

今日、小學校々舍を鐵筋コンクリートにすべきか否かは、大阪に關する限り（福岡市といへどもそうである）、武田博士のいはれた如く、「今時問題にならない」問題であるが、事變下の現日本としては鐵饑饉の國民的嘆聲が大きく、政府をしてあらゆる建築に木造を奬勵せしめ、また建築技術としても、木造必ずしも耐震耐火耐風に不可ならざる工夫が爲されて、空襲に對する都市施設として、かゝる大建築が許容さるべきか否かが、今後に殘さるゝ問題となつたに過ぎないのであるが、それすらも中小の都市にあつては「不得止惡」としてドシ

ドシその筋から木造建築が許されて居る。

鐵筋コンクリートの建物が、都市的建築物として勝れることは、武田博士の創意によつて主張されたとも、また今日の發達を爲したともわたくしは强辯するものではない。しかし、他のわが國建築界の權威者と同じく、これを認めて居られたことの半面に於て、かゝる事件のあつたことは、故人を偲ぶと同時に憶ひ出さるゝことである。もう一つ武田博士を憶ふて、思ひ出さるゝことは小住宅についてゞある。わたくしが丸龜に行つて、直ちに氣のついたことは、同市の市營住宅がそれまで何の理想もなく無定見に建てられて居つたことであつた。そこで、故大屋靈城博士に相談して、同博士はその專門である造園の見地から、敷地の造成の方面を擔當することになり、そこに小住宅を建てることゝして、その小住宅の設計を天下に懸賞募集することゝして、それが委員長を武田博士にお願すべく交渉すると、直ちに峻拒された。いはく「そんなケチなものでは名案も出なからうではないか」といふのである。わたくしは斷はられて引込む譯には行かぬので、「だつて先生、アナタは茶室の權威者じやありませんか、あの茶室といふ奴は隨分とケチな小つぼけなものぢやありませんか、それであつて仲々の名建築があるではありませんか」と言葉をかへすと、「イヤ茶室は相當金がかゝつて居るよ」といはれたので、「金が高いの安いのといふことは問題でないと思ふ、この木が幾何するかこの石がいくらするかは、勝手に出した金でしかありません人により場所により時により値段なんといふものは氣紛れに多かつたり少なかつたりするのでせう、太閤が使用したからとて何萬圓利休がどうしたから何千圓といふ風に茶人なんてものは値を上げて居るのではありませんか、わたくしは建築の費用の大小が建築の好い惡いをきめる標準とはならぬと思ふ」とまくしたてたので、武田博士は笑ひ出してしまつた。「マアイゝからやつて見るサ」とアツサリ引受けて下さつた。

懸賞の結果は、武田博士のいふたところを裏切つて、すばらしいものが應募して來た。第一等賞は大分縣の青年技術者であつた。博士の喜んだことはいふまでもない。今日では、小住宅の問題は、鐵筋コンクリートの小學校々舍と同じく問題ではない、傑作又傑作、もうそれ等を考へるのも煩はしいほどであるが、わが國の爲政者は住宅問題をその政治題目にとり入れて居らない中小階級の生活問題はこの日本として——それがファシヨにもナチスにも相通する防共の大方針があるが、日本は日本として獨自の此二者と同一でないところの君民一體の大精神の基礎を爲す國體的問題として考へらるべきものでなければならぬのに、その中小階級の生活の一支柱たる住宅問題が、國策として取上げられて居らないことはどうしたことなのであらうか。わたくし共は、廣田內閣に於ても林內閣に於ても、そうした具體的な成案が見られなかつた、またいづれの政黨からもお座成りにもせよこれを高唱するものがあつたことを寡聞にして耳にしない。

（4）

建築に關する武田博士の追憶は以上であるが、更らに住に對する衣の問題について一言つけ加へることを許さるゝならば、上記の話のあつた頃、生活改善の問題が可なり高唱されて日本人の衣服に關してもいろいろ論議された。そのうちには、銘仙で洋服を作ることが權威者によつて語られたこともあつた。わたくしとしても、そうした方面に多少の關心を持たざるを得なかつた。

或夕（多分本會のかの會合であつたと思

ふ）、武田博士の隣に座することとなつたので、早速、奈良朝時代の服裝に似た或ものを、今後の日本人の服裝としたならば、便利で優雅で——當時わが建築界否本會の主張でもあつた、座式を排して椅子式にする日本人の生活方法にもかなふて宜からうではないかと語ると、博士は言下にこれを斥けて、「折角洋服といふ世界的、しかも長い年月日を經て、このやうに出來た便利で優美なスタイルも考へたものゝあるのに今更そんなことを考へる餘地はないではないか」と噛んで吐き出すやうにいはれた。こうした場合、一言なり二言なり反對をして見たいのが人情であり、そうしたことを敢てするのは、わたくしの悪い癖でもあるのであるが、この時ばかりは何事もいはず その後もこの言葉については度々考へたがこの言葉は考へれば考へるほど深い意味があるやうに思はれた。第一奈良朝の服裝それ自身について、あの服裝は、わたくし共日本人の服裝として、一旦はなつたものゝしかも當時の官民の事務服であつたのが、遂に衣冠束帶といふ固有名詞を持つ典禮の服となつて、今日では國粋を誇る神官が、これがわが國の古典の形式として着用し、曾て支那服であつたことを意識しないほどに爲つてしまつて居る。つまり、實用を離れた前代の日本人の衣服として、これを認めて居るのである。次に洋服が、歐米の風であることはいふまでもないことであるが今日では、奈良朝時代の服裝がそうであつた如く、明治初年に日本人の禮服は公式に洋服が認められて居る、而して今後何年かの月日はこれを又日本人の典禮のみの服とせないとは限らぬ。しかし、現在は時代の趨勢として、日本人の禮服たるよりも事務服としての輕快敏捷性が認められて居る。殊に、歐米に發達し歐米人に着用せらるゝといふものゝ、恐らく、歐羅巴米國の山間僻地の洋服とその都會地と、日本の都會地のものとを比較したならば、日本人の洋服の方が、歐米の所謂洋服に類似するものであることが頷かれることゝ思ふ。鐵筋コンクリートは佛蘭西の植木鉢に發見せられ、米のサンフランシスコにその耐震耐火性が試驗されたといへども、現在では、帝都の大震災その他の實驗によつて、世界に於ける本家本元と稱して差支なき程度にあるのと同じく、洋服は最早日本人の衣であり得る。こう考へたならば、奈良朝の已に日本人の實用を離れた服裝を現代日本人の服裝に考へるなんといふことは、痴人の夢を語ると同一であるといはねばならぬ。譬つて今日日本的なるものゝ言葉が又古典的なる言葉も、よく世間的に語られる。これ等の言葉が深い吟味と省察とが爲されることなしに、或勝手なお都合主義に用ひられて、人を誤らんとすることが多い、武田博士の上記の識見が、かゝる場合に靜慮さるべきであると思ふ。

（5）

わたくしの家の、納戸の襖間に武田博士の手に爲る、丸龜城の寫眞が揭げられてある。わたくしを櫓の下に立たせて、博士自らカメラに納めたものであるが、博士はその引伸ばしに自署されて、私方へ寄越されたものである。今では、わたくしの彼地を偲ぶ紀念でもあるが、また武田博士の紀念とも爲つてしまつた。

國家としての都市の位置 [1]

國家資源委員會の都市計畫委員會によつて先日（1937年9月）届けられた報告書で"我等の都市：國家經濟に於ける都市の役割"（"Our Cities: Their Role in the National Economy"）と題するものは洵に意味深長なる勸告的内容を持つて居るが故に、此處にその概要を抄錄することにする。

米國の生活手段に於ては、吾々の能動的發展と云ふものは天井知らずであると常に想像されて居る。人口增加に關して遞減的徴候を漸次示して來たが、嚮てそれが人口不動の方向に近接し、そのことが若し國家的完成を明確にするものとするならば、最近10年間我が米國の諸都市は、嘗て先例のない程度に繼續的發達を續けて來たといふことになる。けれども之れを理論的に證明することは未だされて居らない。而もかゝる變化は一般的に現實化されて居らざるにも拘らず、更に行き届いた用途、自然的並に人的資源の保護とそして廣さからも或は又性質からも、形而上學的に抱負のある土地の分割を要求して居るのである。であるから此の報告書の殆んどどの勸告でも、此の切迫した開發に關する推論的結果によつて行はれてないものはない。

人口發展の遞減の徴候を漸次示して來たが故に委員會は、連續的な而も無制限的發展の豫想を持つて進行されつゝある此の都市に附屬する公私の別ない國家的乃至地方的政策は此の人口安定化への光明ある接近に關して、再吟味されねばならぬ事を勸告して居る。

社會的安寧

尙、本委員會は聯邦政府（The Federal Government）に取つて、現在包括的な治安計畫（Social-security program）が必要であるといふ認識の下に廣大なる公共的助成計畫の財政に就て之等の集團が連續的に關與し得ると云ふ政策を認めて居り且つ此の政策實行に對する方法に就ては、より「てきぱき」と質問する事の必要を勸告して居る。而も地方的に關係することの爲には職員とサーヴス、地方の利益と要求、に就ては理由の一貫した標準的な而も相當分散した行政が採用さるべきである

犯罪の防止と取締

本委員會は此の問題に就て次の事を勸告して居る。

1．犯罪防止に對し更に效果的な活動をなすべく、地方刑事裁判所（local criminal courts）の組織とその處置方法に變更が加へらるべきである。そして刑罰に對する起訴及取扱の爲に廣範圍な調査が行はれる時代となつたのである。で此の勸告を實行する爲には、州の法令及び地方的規則（local charters）に法律上の權限を備へる樣に修正さるべきである。

2．少年の問題に就ては、より充分なる認識の下で、少年の過失又は犯罪の防止等の爲の廣範圍な積極的計畫の創始乃至は擴張に關しては地方委員を奬勵すべきである。

3．聯邦政府は、地方自治體(local communities)と協力して薄給生活者の集團地區～殊に懶惰や犯罪率の高い地區～の爲に、慰樂休養機關及びスラム根絕計畫等を含んだ他の多くの問題の計畫と監督が終了した後と雖も、此の犯罪防止計畫は持續され且つ擴張さるべきものである。

4．聯邦政府は、一樣な刑法と州際刑事契約（inter-state crim compacts）間に於ける條令と行政に關しては緊密なる協力を持續すべきである。

5．聯邦及び州政府又は裁判所支所を含む他の法律執行局は各警察網間に於ける協力を奬勵し且つ之を幇助すべきである。

都市閑暇

近代工業の日常の仕事が可成の程度都市に集中

1) The City's Place in the Nation; American City, Qct. 1937.

されて居るが故に閑暇が増加したと云ふことは、生活の機械化單調さ、そして之等の反復的生活が増々甚だしくなつて來たことを意味するものである。此の故に聯邦政府は、特に薄給生活者の爲、遊戯に、藝術に、文學に、科學にそして成少年に對する教育に關して、個人の自力開發（self-development）の方法によつて自由に意志を表示し得る團體的關與を州、都市及私的事務局（private agencies）に奬勵し得る樣な國策を準備することの必要を勸告して居る。聯邦政府は、國家も都市も全體として生活向上を計るべく活躍して居る努力に關し、州、地方自治體及び公私の機關に對し助力を與へ得る樣に協力することによつて、更に之等の目的を達し得るものとして居る。

スラムの根絶

スラム根絶の問題に就ては州及聯邦政府の助力又は協力によつて、地方都市行政部による「てきぱき」した而も活潑なる非難攻撃が必要であると說明して委員會は次の如き勸告をして居る。

1．都市當局者（municipal authorities）が彼等の權限、彼等の建築及び衞生規則又は地域制の制裏をして、より積極的に强制し得る樣に現代化されねばならぬ。そして既存の建築又は衞生の規則又は規定だけで、不適格建築の破壞が不充分なところでは、此の新しい强力なる强制力の下でなし得る最も廣範圍な破壞計畫を起創すべきである。そしてかゝる不適格構造物を驅除し得る樣な社會を招來せん爲には、之等の事が更に嚴格に實行し得る樣になすべきであり、而も之等の事業を州法として認可する必要のあるところでは、之等の規則又は規定が制定されねばならないが、合理的な猶豫期間の後、構造的か又は衞生的かの理由、或は又採光上又は換氣上の不足を理由としても、凡ての建物の用途と占有に就て受諾し得べき標準を測定するのは不可能なことである。

2．凡ての行政事務局は、彼等が公營事業又は住宅經營の爲の土地を獲得しつゝある時、人間生活の用途として不適當な建物の所有者には賠償をしないと云ふ政策が適用さるべきである。州法（State constitution）を要求して居るところでは何處でも改正され同時に州法及地方令が此の政策實行の爲認可さるべきである。

3．地方計畫及地域制定委員會は敗退衰亡の地區（decayed and blighted ddistrict）に對し地域の再整理（rezone）を行ふべきである。そして住宅局當事者（Housing Authorities）は、經濟的からも社會的要求による用途からも、その基礎が鞏固なる爲には之等の地區が容易に再び適快な適住地になし得ると云ふ見地から彼等の計畫を正式に開陳さすべきである。

住宅問題

米國の大多數の都市居住家族が、不適住な住宅内で生活を持續せしめざる爲、或は又薄給生活者の集團に對し相當な生活の最低標準を形成せん爲に緊急必要なる住居施設の供給を行ふの事を目的として、[2] 不充分なる住宅政策が直接的に關係して來る健康、福利そして秩序等に就ての問題をとらへて痛切に非難攻撃して委員會は次の如く勸告して居る。

1．聯邦政府、州及び地方行政廳或は又私的企業團體の間で協力して引き受ける適當な所謂最低標準に於て、薄給生活者の集團地再整理（re-housing）[3] の爲一つの國策が採用さるべきである。

2．聯邦及州行政廳は、滿足すべき標準にある既存の抱括的な都市計畫並住宅政策の豫定されて居る狀態にある地方當局者（local authorities）の地方的要求に於ては財政的援助に從つて擴張さる樣になすべきである。

3．推擧した聯邦クレヂット取扱事務局は、[4] 國

2）此の緊急必要にして、建築せざるを得ない住宅數は次の十年間に毎年凡そ 900.000 家族を數へられるであらうとされて居る。

3）此の報告書全體を通じて使用されたる "nation" と云ふ言葉は聯邦の政策や行動が遲いといふのでもなければ或は又政府が企業に對して或る制限をなすと云ふことを參照するのでもないむしろ國家全體として積極的に完成すべき政策の直接的方向を示した、所謂協力されたる國家人の政策であると云ふことを意味して居るのである。

家の住宅政策遂行の目的で、州及び都市に對して、資金の貸與、長期低利公債或は又毎年借入の補助金等の擴張を行はねばならない。

4．聯邦政府及州行政廳は、個々の住宅建築業者及び建築會社（building Society）は、住宅政策遂行を目的として、適當な擁護の下で長期の低利公債を準備すべきである。

5．都市區域に於ける住宅事業の分野で現在活躍して居る凡ての聯邦政府の事務機能を更に有效に發揮させんために、聯邦政府のあらゆる住宅活動をば、調和若くは統一せねばならない。

6．模範的な州住宅法は、州並に地方自治體が公私の集團の別なく、國家住宅政策に關係するのみならず自的體の住宅整理計畫をも遂行し得る樣に準備さるべきである。

7．州並に地方當局者は、住宅所有者並に廉價住宅の住居者達への課稅の重荷を輕減し且つ不良地區及びスラム整理を奬勵する爲、建築に關する稅金の割合を遞減する事の考慮が拂はれてよい筈である。

市街地の土地政策

將來の要求が增加して來る樣な所謂廉價住宅問題、慰樂休養、敎育及び他の公共施設の爲、市街地の開發をよりよく統制し、そして土地投機に反對すべく委員會は市役所による土地取得に對して更に自由な政策を主張し且つ勸告に從つて非常に自由な意味で、土地の「公共的用途」といふ言葉の廣義解釋を許し、そして土地の取得、維持又は處分に對し都市當局に許される樣な州の根本法の自由主義化を主張して居るのである。

此の故に、屢々最善の機會であり而も都市自治體にかゝる支出が財政的に不可能な場合には、委員會は一つの示唆を與へて次の如き勸告をして居る。即ち聯邦政府クレヂツト取扱事務局[5]は上記に擧げた目的の爲、改良又は不改良のいづれを問はず、不動產取得の爲、都市計畫委員會に對して公債發行の權限が附與さるべきである。

交通運輸と他の公共的利便

け我國に於る資源、材料及人間の更に愼重に利用することによる利益に就て、地方都市營造物のより善い平衡性と安全性に對し、委員會は次の如く勸告してゐる。

1．吾々の交通施設に關し國家資源局(National Resource Board)による敏活にして徹底的な研究が、次の事項に就てなされねばならない。

A）．調整された國家運輸網の一般組織の開發に關する研究は、經濟活動及都市形態の點より、經濟的にはより效果的な、そして社會的にはより望ましき方向に向つてなさるべきである。

B）．あらゆる運輕形態の規定を作成するため統一された聯邦事務局（Federal agency）創立の可能性を決定すること。

斯くして本委員會の調査研究は、電力組織（electric power system.）の連絡、調節及び結合は、產業並人口のより廣大な分散を奬勵することを示唆するのであらうといふことより、委員會は次の如く勸告して居る。

1．國家資源局、は廣大な地區一帶が、輸送と分散による市街化に關して效果を齎し得べく他の適切な聯邦事務局によつて、更に深い調査研究をなし得る樣にせねばならない。

2．公私の別なく凡ての生產、運輸及分散施設の調節の爲、州當局者と個人會社とが協力し得るには、適切なる聯邦事務局による計畫を開發せしめねばならぬ。

計　　畫

我が資源のより善い利用と保護に關し有效なる目標として、計畫の積極性を認識すること。尙、此の委員會は、政府のあらゆる水準に於いて地方地區の計畫の眼界を擴張し且つそれを補强することの必要を說いて居ると同時に次の如き勸告に從つて居るのである。

1．本會議は、他の多くの問題のなかでも、次示の活動に從事すべき必要な權威者を擁した

4）「聯邦—都市關係」の下にある勸告書參照。

5）大統領令による中央計畫局としてサーブすべき行政處理に關する大統領委員會によつて勸告されて設立したものである。

永久的國家資源局を設立すべき法令を議定すべき筈である事。

A). 州、地方及局地計畫局(regional and local planning agencies)に對して奬勵、協力及支持を繼續し且つその程度を擴張すること。

B). 州、地方及局地計畫局と協力する公益事業(public work)の組織化、改善及廣範圍(long-range)の計畫を繼續すること。

C). 州計畫局と協力して、より平衡の保ち得る而も社會的に望ましき國土工業形態(national industrial pattern)の開發と工業への國土地域計畫(national zoning plan)の可能な工業計畫部(an industrial planning section)を設立すべく工業と勞働との協力をなすこと、そしてかゝる工業計畫部を通じて彼等の工業的構築物の健全性及安全性の改善に對する彼等の努力に對して工業的自治體及地方への奬勵がなされねばならぬ事

D). 州計畫局と協力して、經濟的に更に有効なそして經濟的活動には更に望ましき形態と分散の方向に向つて研究が行はれ且つ調和されたる國土運輕網の一般計畫を準備すること。

E). 電力のより廣範圍な分布による市街化に就て、起り得べき影響に關する質問書を作成する事。

F). 農業經濟及農業技術局によつて農村社會(rural communities)の爲に實行された様なものに比すべきものを都市社會(urban communities)の機能に對して都市調査部を設立すること。

2). 標準都市計畫執行法(The Standered City Planning Enabling Act)は、各地方行政廳に設置されて居る如き、計畫の權限がいづれの地方當局者又は州事務局によつても獲得され且つ權威のあるものとして、それが一つの標準となし得る、例へば裁判管轄區域全體に及ぼして居る様な、權威をば地方市街計畫局(local urban planning agencies)の計畫官にも附與さるべき様に改正されねばならぬ。

3). 州立法(state legislation)は、包括的な都市又は地方計畫の援助を得て廣大な地域を、健康な環境と社會及び經濟的要求に適合する爲に、それを有効に指導改善をなすべく附與された充分なる權限をば、官廳計畫局(official planning agency)に屬する凡ての都市及大都市區域として許されて居る組織に對し、此の改正標準都市計畫執行法(revised S. C. P. E. A)と一致し得る様に設定さるべきである。で、かゝる州執行法制は、土地區劃整理(real-estate subdivision)及都市範圍(urban region)の一團地にあらざる區域の地域制の上に、量的にも質的にも、市街計畫に關して有効なる權限が附與さるべきである。地域課(zonning agency)の機能は——而も之等のボデーが分離されて居るところでは——官廳計畫局と共に移動すべきである。

4). 批評及び勸告に對し、凡ての聯邦事務局は、公式局地的計畫團體(official local planning bady)——若しかゝる組織が存在するとするならば——をして之に從屬せしめ得る聯邦政府の要求による政策を適用すべきであるそして凡て保健に關する計畫は、聯邦政府によつて構成され、助成され、そして權威化されて居る局地的計畫團體の管轄區域下にある地區内に於て設定さるべきである。之等の聯邦事務局は、地方當局者に對して、州法を地方的特質の下で適用し得る様に、最低限度の要求に從つてかゝる勸告を考慮し且つ彼等がそれを實行し得べき様に誘導されねばならない。

現在局地計畫局に提出してある運輸機關其他公益事業に關する申請は、その機能、用途に關する置位變更、事業擴張若くは變更を加へんとする場合は、之れを統制する聯邦事務局に將來含抱されるべきものである。

都市行政の現代化

都市の負擔增加の輕減に對して、都市行政部をして有効に活動せしむべく、委員會は次の項を擧げて、最も進歩的實行案に從つて州法並に憲法の改正を勸告して居る。

A). 實に都市生活の内部組織及調整の問題のみならず、緊急非常時の問題に關しても、住居法則(home-rule)の權限がより廣範圍に實

6) 商務省の都市計畫及地域に關する勸告委員會によつて1928年に準備されたもの。

踐し得る樣に、都市自治體にそれだけの權限が附與される事。

B). 都市又は大都市社會に對して、必要缺くべからざるところの、廣範圍に亘る權限と州の地方當局に現存することによつて要求されて居るより狹い範圍の權限との間に於ける適當なる區別に關する都市の分類に就ては、より多く彈力性を持たしむること。

C). 一郡區（Township）の如き權限の萎縮したものは、大都市區域からの排除を助成し且つ地方的都市行政部間で、合併並に協力を奬勵すること。

大都市地域

都市區域內の行政權を持つた、獨立した當局が此の權限の範圍で相當に變化のある活動によつて困難な問題を解決する爲には、大都市地域を政治的又は行政的なものとするばかりでなく更に經濟的にも社會的には一つの單位として適合さす必要があるので、委員會は次の樣な勸告をなして居る

1．個々別々に分散して居る州は問題外であるが、州際間の大都市地方(metropolitan region)の同じ範圍內では、數個の都市をして、保健衞生、工業廢勞（industrial-waste）規則と公共施設の統制計畫、公安及福利（Public safety and welfare）に就て敎育及他の地方的目的機能に關する行政等と連繫的に關係せしめる爲に、前以つて全幅的な同意を與へ得る規定を此の協議會（Congress）は通過せしむべきである。

此の一つの實驗として、聯邦行政部はメリーランドとバーヂニア州をして、コロムビア州（District of Columbia）と此の大都市地域の範圍內の周圍部の市街化の爲め完全なる大都市行政部の計畫を完全になすべき、絕好の機會を利用し得る樣に協力すべきである。

2．都市領域の合併、規約を通じて都市近隣間の連繫的サーヴス及あらゆる種類の大都市問題の統制に關し都際的協力（intermunicipal coorperation）を更に容易ならしむことの爲に郊外當局者(Suburban authorities)の重復に就て一致せしめたり、聯合せしめたり或は又統一をせしめたりすることを容易ならしめるため、州による特別規定を設定すべきである。

自治體間の協力

自治體及公吏員による各州及國家の關係する協會によつて意義あるサーヴスが、都市並に他の地方行政廳のために今や利用されんとして居るが故に、委員會は聯邦、州及地方のあらゆる水準に於て、之等協會に關する施設の利用を非常に有效なものとなすべく急いで居る。

聯邦都市關係

都市に對して聯邦の政策を明確にし且つ定式化する爲或は又都市に對し聯邦のサーヴスに就て、行政との同等性を容易ならしむる爲、委員會は次の事を勸告して居る。

1．ワシントン及び其の境域內の市街地の樣々な聯邦事務局が取扱ふことによつて實行し得る關係事業とその活動との調和を計る事の緊急なる要求に對して直接的考慮が拂はるべきである。此の故に都市自治體と聯邦との活動の緊密なる調和を正に招來せん爲、又は都市と聯邦行政部との共動事業を改良し且つ便利なものとなす爲、最善なる方法と行政技術に就て、敏活にして周到綿密なる調査研究が豫算局（Bureau of the Budget）[7]に於ける行政調査課（division of administrative reserch）によつて引き受けらるべきである。

此の委員會は更に、公共事業の築造又は取得、或は公共施設の建設又は土地の獲得及同樣な事業への基金の支出の爲、或は又經濟力の範圍內で之等の行政廳に對して擴張されたクレヂットの爲、州及地方行政廳に對し規則による充分安全性のある指導下で公債を起し又は貸付をなし得る樣に認可された聯邦與信所の創設に關する規定の制定を勸告して居るが、同時に、此の委員會は都市に於ける直接的聯邦の支出は最低限にまで遞減さすべきであると信じて居る。

課稅

課稅に關する全機構の綿密なる調査研究の爲歲入歲出の資源を適當に分配し且つ又行政廳の各々の水準に取り込まれた機能に關係せしむべく、緊

7) 行政處置（Administrative Management）に關する大統領委員會の最近の報告に於てかゝる局が示唆されて居る。

急なる要求があると信じられて居るとして委員會は次の如き勸告をして居る。

1．抱括的にして且つ徹底的な調査が國家課稅改正議會（the National Revision Council）か或は地方、州及聯邦政府によつて實施された樣な相反對する財政々策並課稅に關する全體的な問題を扱ふ他の適當な事務局によつてなさるべきである。而も此の問題に關して次に特別なる注意が與へらるべき事項を擧げて居る。

A）．理由なき憲法の修正又は一般的財產の課稅に關する法令上の制限。

B）．二重課稅と集稅者との撤廢

2．斯る州法或は憲法の修正は、公共施設の改善並に彼等の財政的援助をなさんとする爲に臨時的の超過收用（excess condemunation）が實行し得る樣にして通過さすべきである。

3．周到綿密なる調査研究によつて市の財政々策に於ける特別區域の稅額鑑定の問題並に稅額査定の場所が決定さるべきである。又此の調査研究は特別な稅額鑑定の代りに不動產に關する增稅がなさるべきであり且つ之等の公共改良事業によつて創出されそして價値の增加を得て居る課稅所得に殆んど接近して此の公共改良事業に關する財源が創出されて居るや否や或は又かゝる課稅が土地に關する投機に反對することを助成して居るや否やを確かむべきである。

都市の情報と調査

割り當てられてゐる仕事を實行することに就て都市計畫委員會（Urbanism Committee）は都市に關係した下の如き公式聯邦通牒に關して由々しい不足と缺陷とを暴露したのであつた。

A

都市の位置は元來決適な筈であり又決適であるべきである、と云ふことに關する報道の相應性、堅實性及匹敵性が不足して居ると委員は信じて居るので、最後に次の如き勸告をしてゐる。

1．都市情報課(A division of urban information)は、あらゆる水準に於て政府の凡ての事務局又は權威ある凡ての私的機關によつて蒐集し得る都市自治體のあらゆる情報に關する、中央的保管者であり且つ clearing-house として役立ち得るものである故、國勢調査局（the Bureau of the Census）內に創設さるべきである。

2．現存する權限の利用に就ては、中央統計院（The Central Staistical Board）は上に列擧したことに對して、現存資料の不足及情報の蒐集又はその方法に關する短所に就て特別な考慮が拂はれねばならない。

此の統計院は、地方の公吏と會議するに關し、彼等の國家的協會、自治體の州聯盟、大學調査局（university reserch center）及國家調査團體を設立すべきである。そして都市統計の報告に就て擴張又改善の爲の計畫が樹立さるべきである。

B

都市問題に關する調査に對して特別に參照し得るものとして、委員會の都市調査中央事務局は、農業經濟及農業技術局（the Bureau of Agricultural Economics and Agricultural Engneering）の現在農村に實施して居る機關に匹敵するものを、都市自治體にも實施する爲に、國家資源局の一課として設立する事を提案すべきである。それ自體の調査に附加へて此の調査局による提案主旨書のなかには、大學の都市調査、調査學會（reserch institution）、計畫局等を刺戟することを意味すべきであり且つ個々の又は公の或は私的團體に對し顧問的準備をなし且つ協議的サーヴスをなすべきである

明日の大都市

極度に制限された區域に、都市人口が非常なる比例を以つて集中することは、資源、時間そしてエネルギーの非常なる浪費である。同時にそれは不平均なる人口の四散といふことゝ同樣である。そこで委員會は、都市居住者に對しても或は又人類と自然的資源の有効なる使途のためにも、最も望ましき環境は之等二つの兩極端の間の何處かに見出される譯であると信じて居る。

都市自治體は此の型に向つて接近し、そして更に滿足すべき都市生活をば都市並にその特殊性のある問題のより善き諒察と理解に求めるであらうそして、行政のあらゆる水準に向つて、更に根本的にして且つより効果的な計畫の爲に行政組織の擴大なる權限に就て相當な改善を要求するであらう。（巖井幸次郎）

燈火管制規則

内務
陸軍
⊙海軍省令第一號
遞信
鐵道

燈火管制規則左ノ通定ム

昭和十三年四月四日

内務大臣　末次　信正
陸軍大臣　杉山　元
海軍大臣　米内　光政
遞信大臣　永井柳太郎
鐵道大臣　中島知久平

燈火管制規則

第一條　燈火管制ヲ實施シ又ハ其ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於テ防空法第八條及第十條第三項ノ規定ニ依ル光ノ秘匿ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　燈火管制ハ第四條ニ規定スル場合ヲ除クノ外警戒管制及空襲管制トス

警戒管制ハ警戒警報又ハ空襲警報解除ノ發セラレタル時ヨリ警戒警報解除又ハ空襲警報ノ發セラルル迄ノ間之ヲ行フ

空襲管制ハ空襲警報ノ發セラレタル時ヨリ空襲警報解除ノ發セラルル迄ノ間之ヲ行フ

燈火管制ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於ケル前二項ノ防空警報ハ訓練防空警報トス

第三條　警戒管制又ハ空襲管制中ノ光ノ秘匿ハ日沒ヨリ日出迄ノ間第一號表乃至第七號表ニ掲グル程度ニ於テ之ヲ爲スベシ

第四條　第一號表ノ屋外燈（標識燈類、街路燈類及屋外作業燈類ヲ除ク）ニシテ地方長官ノ指定スルモノハ其ノ定ムル期間日沒ヨリ日出迄ノ間警戒管制ノ程度ニ依リ其ノ光ヲ秘匿スベシ

地方長官前項ノ規定ニ依リ屋外燈ヲ指定シ又ハ其ノ光ヲ秘匿スベキ期間ヲ定メタルトキハ之ヲ告示スベシ

第五條　左ノ各號ニ掲グル光ニ付テハ本令ノ制限ヲ適用セズ

一　建築物、車輛、船舶、隧道、地下道等ノ内部ノ光ニシテ外部ニ漏レザルモノ

二　特別ノ事對ニ因リ必要アリト認メ地方長官ノ指定スル光

第六條　左ニ掲グル場合ニ於テハ本令ノ規定ニ拘ラズ必要最小限度ノ光ヲ使用スルコトヲ得

一　消防、人命救助等ノ爲緊急ノ必要アルトキ

二　特別ノ必要ニ因リ警察署長ノ許可ヲ受ケタルトキ

第七條　第一號表乃至第七號表中警戒管制ノ甲ノ程度ヲ適用スベキ區域ハ防空法施行令第七條ノ陸海軍司令官（以下陸海軍司令官ト稱ス）ノ通知ニ依リ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ）之ヲ定メ其ノ他ノ區域ハ乙ノ程度ヲ適用スベキ區域トス

前項ノ規定ニ依リ難キ海上ノ區域ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

第八條　第一號表、第二號表、第四號表又ハ第五號表中ノ許可又ハ指定ハ地方長官之ヲ爲スモノトス

第九條　第一號表、第二號表、第四號表、第五號表及第七號表中隱蔽ト稱スルハ開口部其ノ他ニ覆ヲ施シ外部ニ對シ漏光ナカラシムルヲ謂フ

第一號表乃至第五號表中遮光ト稱スルハ光源ニ對シ直接覆ヲ施シ又ハ之ニ準ズル方法ヲ講ジ名表ニ掲グル條件ニ依リ光ヲ遮ルヲ謂フ

第四號表及第五號表中確認距離ト稱スルハ燈火ノ目的ニ應ジ實用ニ適スル程度ニ認識シ得ル最大限度ノ距離ヲ謂フ

第一號表、第三號表、第四號表、第五號表及第七號表中透視距離ト稱スルハ光源及其ノ反射光等一切ノ光ヲ認識シ得ル最大限度ノ距離ヲ謂フ

第十條　左ニ掲グル事項ニ關シテハ地方長官又ハ警察署長ハ陸海軍司令官ニ協議スベシ但シ豫メ陸海軍司令官ト協定シタル事項ニ關シテハ此ノ限ニ在ラズ

一　第一號表、第二號表、第四號表又ハ第五號表ニ依ル許可又ハ指定ヲ爲サントスルトキ

二　第四條第一項ノ規定ニ依リ屋外燈ヲ指定シ又ハ其ノ光ヲ秘匿スベキ期間ヲ定メントスルトキ

三　第五條第二號ノ規定ニ依リ光ヲ指定セントスルトキ

四　空襲管制ノ場合ニ於テ第六條第二號ノ規定ニ依リ許可ヲ爲サントスルトキ

附　則

本令ハ昭和十三年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

第一號表　一般屋外燈ノ光ノ秘匿ノ程度

種類		警戒管制 乙	警戒管制 甲	空襲管制	遮光條件
廣告看板裝飾燈類	廣告燈 看板燈 裝飾燈 其ノ他之ニ類スル燈火	消燈	消燈	消燈	
標識燈類	火災報知機燈 非常報知機燈 避難所標識燈 救護所標識燈 警察消防官署標識燈 消火栓標識燈 其ノ他之ニ類スル燈火（例　各種濺器作動表示燈、防空ノ實施及訓練上必要ナル各種標識燈等）	減光 透視距離五〇〇米以下トスルコト	減光且遮光 透視距離五〇〇米以下トスルコト	減光且遮光 透視距離五〇〇米以下トスルコト	地表上三〇〇米以上ノ何レノ點ヨリモ光源又ハ其ノ反射光等一切ノ光ヲ認メ得ザルコト
街路燈類	街路燈 橋梁燈（橋梁表示燈ヲ除ク） 其ノ他之ニ類スル燈火（例　街路照明ヲ兼ヌル電車柱燈、電柱街燈、投光器ヲ使用スル街路照明燈等） 註　隧道内燈火及街路ノ一部ヲ成ス廣場ノ照明燈ヲ含ム	減光且遮光 街路面一〇〇平方米ニ付一・五燭光以内一燈一六燭光以下トスルコト	消燈 但シ迅速ニ消燈シ得ル處置モノヲ講ジタルモノハ許可ヲ受ケケル街路面ニ於ケル最大照度ヲ〇・一五「ルクス」以下ニ減光シ且遮光シテ殘置スルコトヲ得	消燈	光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端ニ引キタル線ガ光源ノ下方ニ向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ角ヲナスコト
	地下道照明燈其ノ他ニシテ地表ニ放光スル燈火	減光且遮光 八燭光以下トスルコト	消燈 隱蔽 但シ必要ニ應ジ透視距離五〇米以下ニ減光シテ殘置スルコトヲ得		
門軒燈類	門燈 軒燈 其ノ他之ニ類スル燈火（例　標札照明燈、玄關「テレス」燈等）	消燈 但シ必要ニ應ジ街路燈類ニ代用スルモノハ該燈類ニ關スル制限内ニ於テ殘置スルコトヲ得	消燈 但シ必要ニ應ジ街路燈類ニ代用スルモノハ許可ヲ受ケ該燈類ニ關スル制限内ニ於テ殘置スルコトヲ得	消燈	
屋外作業燈類	作業ニ必要ナル屋外燈火 註　側壁ナキ建物内ノ作業ニ必要ナル燈火ヲ含ム	減光且遮光 作業面一〇〇平方米ニ付三燭光以内、一燈一六燭光以下トスルコト	消燈 隱蔽 但シ迅速ニ消燈シ得ル處置ヲ講ジタルモノハ許可ヲ受ケ作業面ニ照ケル最大照於ケル度ヲ〇・三「ルクス」以下ニ減光シ且遮光シテ殘置スルコトヲ得	消燈 隱蔽	光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端ニ引キタル線ガ光源ノ下方ニ向ヒ
	露店燈	減光且遮光 一店一燈トシ八燭光以下トスルコト			

特別屋外燈類	公園燈 庭園燈 社寺屋外燈 廣場照明燈 各種運動競技娯樂場屋外照明燈 其ノ他他ノ種類ニ屬セザル屋外燈火（例露營燈、墓地燈、屋上燈、祭禮用燈火等） 註　側壁ナキ建物内ノ燈火ヲ含ム	消燈 但シ公園燈、社寺屋外燈、廣場照明燈ニ限リ交通治安維持ノ必要アル場合面積一〇〇平方米ニ付〇・二燭光以内、一燈八燭光以下ニ減光シ且遮光シ各燈ノ間隔八〇米以上トシテ殘置スルコトヲ得	消燈	消燈	且水平面ト二〇度以上ノ角ヲナスコト

第二號　表一般屋内燈ノ光ノ秘匿ノ程度

種類		警戒管制		空襲管制	遮光條件
		乙	甲		
店先燈類	店先裝飾燈 店先吊下燈 店先陳列箱照明燈 其ノ他之ニ類スル燈火 註　店先トハ戸締面ノ外部ヲ謂フ	消燈	消燈	消燈	
普通屋内燈類	店先燈類以外ノ屋内燈	隱蔽 減光且遮光 (イ)室ノ廣サ三平方米ニ付一〇燭光以内、一燈五〇燭光以下トスルコト (ロ)室ノ廣サ三平方米ニ付一燭光以内、一燈五燭光以下トシ光源ト開口部トノ距離ヲ一、八米以上トスルコト 漏光制限 許可ヲ受ケ漏光面ヲ透過スル光束ヲ一平方米ニ付三「ルーメン」以下トスルコト	隱蔽 減光且遮光 室ノ廣サ三平方米ニ付〇・五燭光以内、一燈二燭光以下トスルコト	消燈 隱蔽	乙ノ(イ)及甲ノ場合 光源ヨリ直接ガ發スル射光ガ開口部ニ向ハザルコト 乙ノ(ロ)ノ場合 光源ヨリ直接ガ發スル射光ガ開口部ノ外側ニ於テ水平以上ニ向ハザルコト

第三號表　一般交通關係燈ノ光ノ秘匿ノ程度

種類	警戒管制		空襲管制	遮光條件
	乙	甲		

交通信號燈類	交通整理信號燈 交通整理手提信號燈 其ノ他之ニ類スル燈火	平常ノ儘	減光且遮光 透視距離五〇〇米以下トスルコト	消燈 減光且遮光 透視距離五〇〇米以下トスルコト	表上三〇〇米ノ點ハ一地以上リレノ又等得ヨ其ノ何レ源光メ切ノ光ヲ認ザモ反射ルコト
交通標識燈類	安全地帶標識燈 停留所標識燈 障碍注意燈 其ノ他之ニ類スル燈火	減光 透視距離五〇〇米以下トスルコト 減光且遮光 一箇所一燈ト シ五燭光以下トスルコト	減光且遮光 透視距離五〇〇米以下トスルコト	消燈 但シ障碍注意燈ハ透視距離三〇〇米以下ニ減光スルコト	乙ノ場合 光源ヨリ直接ガ發スル射光ニ及的上空ハザルコト 甲ノ場合 地表上三〇〇米以上ノ點ヨリ其ノ一切ノ源光等ヲ認メザルコト
自動車燈類	前照燈 側燈 註　案内燈ヲ含ム	減光 合計二燈以下トシ各一燈ハ燈器ヨリ一〇米ノ地點ニ於テ光軸ニ垂直ナル面ニ於ケル最大照度ヲ三「ルクス」以下トスルコト	減光且遮光 合計二燈以下トシ各一燈ハ燈器ヨリ一〇米ノ地點ニ於テ光軸ニ垂直ナル面ニ於ケル最大照度ヲ三「ルクス」以下トスルコト	消燈	水平ノ光ヲ直接ガ發スル射光ニ及的上空ハザルコト 自動車燈器ヨリ一五度ニ向ヒ
	尾燈 車輛番號照明燈 停止燈	平常ノ儘	減光 各一燈トシ透視距離三〇〇米以下トスルコト		
	方向指示器燈 計器燈	平常ノ儘 但シ乘合自動車室内燈ニ限リ各燈毎ニ遮光スルコト	平常ノ儘		發光源ヨリ直接ガ開口部ニ射光向ハザルコト
	方向幕照明燈 空車札照明燈		減光 透視距離三〇〇米以下トスルコト		
	室内燈 乘合自動車標示燈 其ノ他ノ燈火		消燈 但シ乘合自動車室内燈ハ一燭光以下ニ減光シテ且遮光スルコトヲ得		
普通車輛燈類	自轉車燈 手車燈 人力車燈 荷牛馬車燈 乘合馬車燈 其ノ他之ニ類スル燈火	平常ノ儘	減光且遮光 一燭光以下トスルコト但シ懐中電燈又ハ點滅裝置ヲ有スルモノニ限リ三燭光以下ニ減光スルセハ遮光ヲ得ザルコト	消燈	地表上リ三〇〇米以上ノ點ヨリ水平ノ光ヲ直接ニ及的上空ハザルコト 自轉車燈器ヨリ一五度以上ニ向ヒ
携帶燈類	個人携帶燈 其ノ他之ニ類スル燈火				

第四號表　鐵道軌道關係燈ノ光ノ秘匿ノ程度

種類	警戒管制		空襲管制	遮光條件
	乙	甲		

信號合圖燈類	場内信號機燈 出發信號機燈 閉塞信號機燈 掩護信號機燈 遠方信號機燈 其ノ他之ニ類スル燈火	平常ノ儘	減光且遮光 確認距離六〇〇米以下、道路ニ敷設スル鐵道軌道ノ部分ニ在リテハ一〇〇米以下トスルコト	消燈 減光且遮光 確認距離六〇〇米以下、道路ニ敷設スル鐵道軌道ノ部分ニ在リテハ一〇〇米以下トスルコト	地表上三〇〇米以上ノ何レノ點ヨリモ光源又ハ其ノ反射光等一得ザル光ヲ認メサルコト
	誘導信號機燈 入換信號機燈 臨時信號機燈 （徐行豫告標燈ヲ含ム） 合圖ニ用フル諸燈火 其ノ他之ニ類スル燈火		減光且遮光 確認距離三〇〇米以下道路ニ敷設スル鐵道軌道ノ部分ニ在リテハ一〇〇米以下トスルコト	消燈 減光且遮光 確認距離三〇〇米以下道路ニ敷設スル鐵道軌道ノ部分ニ在リテハ一〇〇米以下トスルコト	
	手信號ニ用フル燈火 信號類似ノ各種反應器燈 進路ヲ表示スル燈火 其ノ他之ニ類スル燈火		減光且遮光 確認距離四〇〇米以下、道路ニ敷設スル鐵道軌道ノ部分ニ在リテハ一〇〇米以下トスルコト	消燈 減光且遮光 確認距離四〇〇米以下、道路ニ敷設スル鐵道軌道部分ニ在リテハ一〇〇米以下トスルコト	
地上標識燈類	轉轍器及轍叉等ノ標識燈 車止標識燈 列車又ハ車輛ノ停止位置ヲ表示スル諸標識燈 徐行許容標燈 其ノ他之ニ類スル燈火	平常ノ儘	減光且遮光 確認距離三〇〇米以下トスルコト	消燈 減光且遮光 確認距離三〇〇米以下トスルコト	地表上三〇〇米以上ノ何レノ點ヨリモ光源又ハ其ノ反射光等一得ザル光ヲ認メサルコト
	接近表示燈		減光且遮光 確認距離五〇〇米以下トスルコト	減光且遮光 確認距離五〇〇米以下トスルコト	
	信號機附隨ノ識別燈 其ノ他ノ各種標識類似燈		減光且遮光 確認距離一〇〇米以下トスルコト	消燈 減光且遮光 確認距離一〇〇米以下トスルコト	
車輛標識燈類	前部標識燈 註　前照燈及トロリー燈ヲ含ム	減光 一燈トシ五燭光以下トスルコト 減光且遮光 一燈トシ二〇燭光以下トスルコト	減光且遮光 確認距離六〇〇米以下、道路ニ敷設スル鐵道軌道ノ部分ニ在リテハ一〇〇米以下トスルコト	減光且遮光 確認距離六〇〇米以下、道路ニ敷設スル鐵道軌道ノ部分ニ在リテハ一〇〇米以下トスルコト	警戒管制ノ甲及空襲管制ノ場合 地表上三〇〇米以上ノ何レノ點ヨリモ光源又ハ其ノ反射光等一切ノ光ヲ認メ得ザルコト 警戒管制ノ乙ノ場合 空襲管制ノ場ヲ合ノ遮光具用フルコト
	後部標識燈	平常ノ儘			地表上三〇〇米以上ノ何レノ點ヨリモ光源又ハ其ノ反射光等一得ザル光ヲ認メサルコト
	自動開閉式扉表示燈	平常ノ儘	減光且遮光 確認距離三〇〇米以下トスルコト	減光且遮光 確認距離三〇〇米以下トスルコト	

車輛燈類	車內照明燈	隱蔽 減光且遮光 (イ)室ノ廣サ三平方米ニ付一〇燭光以內、一燈五〇燭光以下トスルコト (ロ)室ノ廣サ三平方米ニ付五燭光以內、一燈一〇燭光以下トスルコト	隱蔽 減光且遮光 (イ)室ノ廣サ三平方米ニ付〇・五燭光以內、一燈二燭光以下トスルコト (ロ)室ノ廣サ三平方米ニ付〇・三燭光以內、一燈一燭光以下トスルコト	消燈 隱蔽	(イ)ノ場合ハ直接ガ光源ヨリ發スル光ニ向ヒ開口部ニ射入スルコトノ無キ場合ヲ謂フ (ロ)ノ場合ハ特ニ指定スル間ヨリ漏光ノ制限セザルコトノ外(イ)ニ同ジ
	行先表示燈 運行番號表示燈 計器燈 知ラセ燈 其ノ他之ニ類スル燈火	平常ノ儘	減光 透視距離三〇〇米以下トスルコト	減光 透視距離三〇〇米以下トスルコト	
車輛特殊火光類	蒸汽機關車煙突火粉	平常ノ儘 但シ發光量ノ減少ニ努ムルコト	發光量及發光時間ノ減少ニ努ムルコト	發光量及發光時間ノ減少ニ努ムルコト	
	蒸汽機關車焚口火焰		發光量及發光時間ノ減少ニ努メ且遮光スルコト	隱蔽	上方全部及側方三分ノ二以上ヲ開放部上部ノ遮蔽フコト
	電氣機關車、電車、無軌條電車、鋼索車等ノ火花類	極力防止ニ努ムルコト	極力防止ニ努ムルコト	極力防止ニ努ムルコト	
點檢燈類	點檢燈 車號燈 其ノ他之ニ類スル燈火 註　合圖燈ヲ本類ノ目的ニ使用スル場合ヲ含ム	平常ノ儘	消燈 減光且遮光 一米ノ距離ニ於テ被照面ノ照度ヲ一「ルクス」以下トスルコト	消燈 減光且遮光 一米ノ距離ニ於テ被照面ノ照度ヲ〇・五「ルクス」以下トスルコト	燈器ノ其ノ上ノモト 水平ノ光源ヲ地表上三〇〇米以上ニ何レメ點ヨリ得ザルキ認
	巡檢燈		消燈 減光且遮光 二米ノ距離ニ於テ被照面ノ照度ヲ一「ルクス」以下トスルコト		
	列車扱構內照明燈 其ノ他之ニ類スル燈火	減光且遮光 作業面一〇〇平方米ニ付三燭光以內、一燈五〇燭光以下トスルコト	消燈 但シ迅速ニ消燈シ得ル處置ヲ講ジタルモノハ被照面ニ於ケル最大照度ヲ〇・一五「ルクス」以下ニ減光シ且遮光シテ殘置スルコトヲ得	消燈	光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端ニ引キタル線ガ光
	入換作業用構內照明燈 註　操車場組成驛ニ限ル		消燈 但シ迅速ニ消燈シ得ル處置ヲ講ジタルモノハ許可ヲ受ケル被照面ニ於ケル最大照度ヲ〇・三「ルクス」以下ニ減光シ且遮光シテ殘置スルコトヲ得		

特殊照明燈類	各種詰所屋外燈 車庫屋外燈 電車柱燈 其ノ他之ニ類スル燈火 註　側壁ナキ建物内ノ燈火ヲ含ム	減光且遮光 地表面一〇〇平方米ニ付一・五燭光以内、一燈一六燭光以下トスルコト	消燈 但シ迅速ニ消燈シ得ル處置ヲ講ジタルモノハ許可ヲ受ケタル被照面ニ於ケル最大照度ヲ〇・一五「ルクス」以下ニ減光シ且遮光シテ殘置スルコトヲ得	消燈	源ノ下方ニ向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ角ヲナスコト
	乘降場屋外燈 洗滌室屋外燈 給炭水屋外燈 其ノ他之ニ類スル燈火 註　側壁ナキ建物内ノ燈火ヲ含ム	減光且遮光 地表面一〇〇平方米ニ付三燭光以内、一燈一六燭光以下トスルコト	消燈 但シ迅速ニ消燈シ得ル處置ヲ講ジタルモノハ許可ヲ受ケタル被照面ニ於ケル最大照度ヲ〇・三「ルクス」以下ニ減光シ且遮光シテ殘置スルコトヲ得		
	屋内各種表示燈	平常ノ儘	減光 透視距離三〇〇米以下トスルコト	消燈 隱蔽	
	屋外各種表示燈 誘導燈 註　側壁ナキ建物内ノ燈火ヲ含ム	消燈 但シ誘導燈及特ニ指定シタルモノハ透視距離五〇〇米以下ニ減光シテ殘置スルコトヲ得	消燈 但シ誘導燈及タルモノハ透視距離三〇〇米以下ニ減光シテ殘置スルコトヲ得	消燈 但シ誘導燈ニ限リ透視距離三〇〇米以下ニ減光シテ殘置スルコトヲ得	
	出札口屋外燈 改集札口屋外燈 註　側壁ナキ建物内ノ燈火ヲ含ム	減光且遮光 窓口一箇又ハ一改集札口ニ對シ一燈トシ五燭光以下トスルコト	減光且遮光 窓口一箇又ハ一改集札口ニ對シ一燈トシ一燭光以下トスルコト	消燈	光源下端ヨリ遮光具ノ下端ニ引キタル線ガ光源ノ下方ニ向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ角ヲナスコト
踏切燈類	踏切警報器燈	平常ノ儘	減光且遮光 透視距離五〇〇米以下トスルコト	減光且遮光 透視距離五〇〇米以下トスルコト	地表上三〇〇米以上何レノ點ヨリモ光源又ハ其ノ反射光等一切ノ光ヲ認メ得ザルコト
	踏切表示燈 踏切注意標照明燈	減光且遮光 五燭光以下トスルコト	減光 透視距離三〇〇米以下トスルコト	減光 透視距離三〇〇米以下トスルコト	光源ヨリ直接發スル射光ガ可及的上空ニ向ザルコト
	踏切照明燈	減光且遮光 踏切道面一〇〇平方米ニ付八燭光以内、一燈一六燭光以下トスルコト	消燈 但シ必要ニ應ジ踏切表示燈、踏切注意標照明燈ニ代用スルモノハ該燈類ニ關スル制限内ニ於テ殘置スルコトヲ得	消燈 但シ必要ニ應ジ踏切表示燈、踏切注意標照明燈ニ代用スルモノハ該燈類ニ關スル制限内ニ於テ殘置スルコトヲ得	光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端ニ引キタル線ガ光源ノ下方ニ向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ角ヲナスコト
地下ニ敷設シタル鐵道軌道内燈及隧道内照明燈類	地下ニ敷設シタル鐵道軌道内燈、隊道内照明燈其ノ他ニシテ地表ニ放光スル燈火	減光且遮光 八燭光以下トスルコト	消燈 隱蔽 但シ必要ニ應ジ透視距離五〇米以下ニ減光シテ殘置スルコトヲ得	消燈 隱蔽	

第五號表　船舶關係燈ノ光ノ秘匿ノ程度

種類		警戒管制 乙	警戒管制 甲	空襲管制	遮光條件
航路關係燈類	航路標識燈	別ニ指示スル所ニ依ル			
	航路標識燈ニ類スル燈火	減光且遮光 確認距離一、〇〇〇米以下トスルコト	減光且遮光 確認距離一・〇〇〇米以下トスルコト	消燈 隱蔽	乙ノ場合 光源ヨリ直接ガニ發スル光及的上空ニ射スル可ハザルコト向 甲ノ場合 地表上三〇〇米ノ以上ノ點ヨリ何モノニモ其レノ點ヨリ光源又ハ一切ノ反射光等ニ認メ得ザルコト
	橋梁表示燈	平常ノ儘			
船燈類	海上衝突豫防法ニ規定スル船燈ヲ含ム 註　湖沼ニ於ケル船舶ノ船燈	海上衝突豫防法最ノ規定ニ依ル最少限度ノ光力トシ且遮光スルコト 但シ檣燈、增揚燈及埠頭繫留船ノ船燈ハ得直ニ點出シ得ル準備ヲ爲シテ消燈シ保安上必要ナルトキニ限リ一時點出スルコト 港内碇泊船ノ船燈ハ確認距離五〇〇米以下ニ減光且遮光スルコト	海上衝突豫防法最ノ規定ニ依ル最少限度ノ光力トシ且遮光スルコト 但シ檣燈、增揚燈及埠頭繫留船ノ船燈ハ得直ニ點出シ得ル準備ヲ爲シテ消燈シ保安上必要ナルトキニ限リ一時點出スルコト 港内碇泊船ノ船燈ハ確認距離五〇〇米以下ニ減光且遮光スルコト	消燈 但シ直ニ點出ヲ必シ得ル準備上キニ火ヲ爲シ保安ナルトキ點上ニ空ス要ナル一時ニ限リ所ヲ限ルコト	要限ニコ 確認距離ノ所ヲ充足シテ上空ニ遮光スルコト 度ト對ト
船室內照明燈	船舶照明燈	消燈 隱蔽 減光且遮光 室ノ廣サ三平方米ニ付一〇燭光以內、一燈五〇燭光以下トスルコト	消燈 隱蔽 減光且遮光 室ノ廣サ三平方米ニ付〇・五燭光以內、一燈二燭光以下トスルコト	消燈 隱蔽	發口コ 光源ヨリ直接ガ開ニ射スル光ハザル向部ト
	一般船室外照明燈	減光且遮光 甲板面一〇〇平方米ニ付三燭光以內、一燈一六燭光以下トスルコト	消燈 但シ迅速ニ消燈シ得ル處置ヲ講ジタルモ受ノハ許可ヲ於ケル被照面ニ最大照度ヲ〇・三「ルクス」以下ニ減光シ且遮光シテ殘置スルコトヲ得	消燈	光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端ニ光引キタル線ガ向ヒ源ノ下方ニ二〇且水平面ト角ヲナ度以上ノスコト
	起重機ヲ用フル荷役用船室外照明燈	減光且遮光 一箇所三燈以下トシ合計五〇燭光以下トスルコト			
	探照燈、安全燈其ノ他ノ火光 註　艀ノ焚火等ヲ含ム	消燈 但シ船體又ハ人命ノ危急ノ場合短時間ニ限リ使用スルコトヲ得			

埠頭燈類	埠頭上屋倉庫屋外燈 其ノ他之ニ類スル燈火 註　側壁ナキ建物内ノ燈火ヲ含ム	減光且遮光 面積一〇〇平方米ニ付三燭光以内、一燈一六燭光以下トスルコト	消燈 但シ迅速ニ消燈シ得ル處置モ受ケ致シ且遮光シテ殘置スルコトヲ得 ノハ許可ヲ於照面ニ最大照度ヲ〇・三「ルクス」以下ニ減光シ	消燈 隱蔽	光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端ニ引キタル線ガ光源ノ下方ニ向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ角ヲナスコト
	埠頭起重機外燈	減光且遮光 一箇所三燈以下トシ合計五〇燭光以下トスルコト			
	屋内各種表示燈	平常ノ儘	減光 透視距離三〇〇米以下トスルコト	消燈 隱蔽	
	屋外各種表示燈 誘導燈 註　側壁ナキ建物内ノ燈火ヲ含ム	消燈 但シ誘導燈及特ニ指定シタルモノハ透視距離五〇〇米以下ニ減光シテ殘置スルコトヲ得	消燈 但シ誘導燈及特ニ指定シタルモノハ透視距離三〇〇米以下ニ減光シテ殘置スルコトヲ得	消燈 但シ誘導燈ニ限リ透視距離三〇〇米以下ニ減光シテ殘置スルコトヲ得	
	出札口屋外燈 改集札口屋外燈 註　側壁ナキ建物内ノ燈火ヲ含ム	減光且遮光 窓口一箇又ハ一改集札口ニ對シ一燈トシ五燭光以下トスルコト	減光且遮光 窓口一箇又ハ一改集札口ニ對シ一燈トシ一燭光以下トスルコト	消燈	光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端ニ引キタル線ガ光源ノ下方ニ向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ角ヲナスコト
埠頭標識燈類	棧橋突端標識燈 岩壁突端標識燈 波除堤突端標識燈 浮棧橋標識燈 繫船信號燈 稅關監所標識燈 其ノ他之ニ類スル燈火	減光且遮光 一箇所一燈トシ五燭光以下トスルコト	減光且遮光 確認距離五〇〇米以下トスルコト	消燈 隱蔽	乙ノ場合 光源ヨリ直接發スル射光ガ可及的上空ニ向ハザルコト 甲ノ場合 地表上三〇〇米以上ノ何レノ點ヨリモ光源又ハ其ノ反射光等一切ノ光ヲ認メ得ザルコト

備考　特別ノ事情ニ因リ必要アリト認メ別ニ告示スル場合ニ於テハ海上衝突豫防法ニ規定スル船燈ニ關シテハ警戒管制ノ場合及空襲管制ノ場合ヲ通ジ警戒管制ノ乙ノ程度ニ依ル

第六號表　航空關係燈ノ光ノ秘匿ノ程度

種類		警戒管制		空襲管制	遮光條件
		乙	甲		
航空標識燈類	航空燈臺 獨立障碍物標示燈	別ニ指示スル所ニ依ル			
飛行場燈類	著陸場照明燈 場周燈 各種信號燈 風向標示燈 雲高測定燈 障碍標示燈				
	室内燈 左(右)翼燈 尾燈 機首燈 碇舶燈				

航空機燈類	著陸燈 照明燈 信號燈 計器燈 其ノ他之ニ類スル燈火	

第七號表　火焰其ノ他ノ光ノ秘匿ノ程度

種類		警戒管制		空襲管制	遮光條件
		乙	甲		
火焰類	熔鑛爐火焰 平爐火焰 電氣爐火焰 鑄物爐火焰 轉爐火焰 加熱爐火焰 瓦斯骸炭製造爐火焰 窯業爐火焰 硝子製造爐火焰 亞鉛昇華爐火焰 炭燒爐火焰 熔接火焰 鍛冶火焰 鍛延及壓延火焰 汽罐焚口火焰 煙突火焰 其ノ他之ニ類スル火焰	隱蔽 消光 漏光制限 漏光面ヲ透過スル光束ヲ一平方米ニ付一「ルーメン」以下トスルコト	隱蔽 消光 滅光 漏光部ノ透視距離三〇〇米以下トスルコト	隱蔽 消光	
第一種禁制光類	煙火、焚火、野火、葬火、狼火、「ボタ」山ヨリ發スル光 註　警報ニ使用スルモノヲ除ク	消光	消光	消光	
第二種禁制光類	炭火、マツチ、ライター、煙草等ヨリ發スル光 寫眞撮影用閃光	平常ノ儘	平常ノ儘 但シ炭火ハ透視距離三〇〇米以下ニ滅光スルコト	隱蔽 消光	

市街地建築物法改正

法律第二十九號

市街地建築物法中左ノ通改正ス

第二條ニ左ノ一項ヲ加フ

主務大臣必要ト認ムルトキハ住居地域內ニ住居專用地區ヲ指定シ其ノ地區內ニ於ケル住宅以外ノ建築物ノ建築ノ禁止又ハ制限ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第四條ニ左ノ一項ヲ加フ

主務大臣必要ト認ムルトキハ工業地域內ニ工業專用地區ヲ指定シ其ノ地區內ニ於ケル工場、倉庫其ノ他之ニ準ズベキモノ以外ノ建築物ノ建築ノ禁止又ハ制限ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第五條中「前三條」ヲ「第二條第一項、第三條及前條第一項」ニ改ム

第十一條ニ左ノ一項ヲ加フ

主務大臣必要ト認ムルトキハ高度地區ヲ指定シ

其ノ地區内ニ於ケル建築物ニ付高ノ最低限度若ハ最高限度ヲ定メ又ハ空地地區ヲ指定シ其ノ地區内ニ於ケル建築物ニ付床面積ノ敷地面積ニ對スル割合及敷地ノ弧界線ヨリノ距離ノ限度ヲ定ムルコトヲ得

第十二條中「衞生上又ハ保安上」ヲ「衞生上、保安上又ハ防空上」ニ改ム

第二十六條中「幅員九尺」ヲ「幅員四メートル」ニ改メ同條第二項ヲ左ノ如ク改ム

幅員四メートル未滿二・七メートル以上ノ道路及道路ノ新設又ハ變更ノ計畫ルア場合ニ於ケル其ノ計畫ノ道路ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ道路ト看做ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前市街地建築物法施行令第十一條ノ規定ニ依リ指定シタル區域及其ノ區域内ニ於ケル建築物ニ付定メタル高ノ最低限度ハ各之ヲ本法第十一條第二項ノ規定ニ依リ指定シタル高度地區及其ノ地區内ニ於ケル建築物に付定メタル高ノ最低限度ト看做ス

〔參照〕

大正八年四月五日公布法律第三十七號市街地建築物法抄錄

第二條　建築物ニシテ住居ノ安寧ヲ害スル虞アル用途ニ供スルモノハ住居地域内ニ之ヲ建築スルコトヲ得ス

第三條　建築物ニシテ商業ノ利便ヲ害スル虞アル用途ニ供スルモノハ商業地域内ニ之ヲ建築スルコトヲ得ス

第四條　工場、倉庫其ノ他之ニ準ズヘキ建築物ニシテ規模大ナルモノ又ハ衞生上有害若ハ保安上危險ノ虞アル用途ニ供スルモノハ工業地域内ニ非サレハ之ヲ建築スルコトヲ得ス

主務大臣必要ト認ムルトキハ前項ノ建築物ニシテ著シク衞生上有害又ハ保安上危險ノ虞アル用途ニ供スルモノニ付テハ工業地域内ニ於テ其ノ建築ニ付特別地區ヲ指定スルコトヲ得

第五條　前三條ニ規定スル建築物ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條　主務大臣ハ建築物ノ構造設備又ハ敷地ニ關シ衞生上又ハ保安上必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第二十六條　本法ニ於テ道路ト稱スルハ幅員九尺以上ノモノヲ謂フ

道路ノ新設又ハ變更ノ計畫アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ計畫ノ道路ハ之ヲ道路ト看做ス

第6回工藝意匠圖案募集に就て

吾が東北々海道工藝協會は昭和四年創立以來年々工藝品競技會又は展覽會を開催し東北及北海道に於ける工藝產業の改善進歩に貢獻する處尠からさるものあり、昭和八年以來地方特產工藝品の意匠圖案を廣く懸賞を以て募集し、當業者に實施せしめ成績見るべきものありたるを以て更に今回第六回懸賞募集を行はんとす、特に今回は戰時體制下の非常時局に鑑み國產材料の活用、新興材代用材の利用等にも意を用ひ或は内地向、輸出向を通じ近代生活に即したる新新なる意匠並に用途上に新工夫を凝し材料の配合適切にして實際商品として適當なる新圖案を應募せられむことを望む。

工藝意匠圖案懸賞募集規程

一、募集圖案の種類

第一類　木工製品圖案

（イ）和洋家具

例へば・棚、机、簞笥、鏡臺、火鉢、椅子、卓子、茶棚、本箱、解體家具等

（ロ）小木工品圖案

例へば・喫煙具、文房具、盆、照明具、玩具等

第二類　漆器圖案

例へば・膳、椀、盆、菓子器、文房具、喫煙具、照明具、鏡臺、花器、化粧具、卓等

第三類　金工製品圖案

例へば・喫煙具、文房具、花器、菓子器照明具、火鉢等

第四類　陶磁器圖案

例へば・花器、盛器、喫茶具、喫煙具等

第五類　染織圖案

例へば・机掛、カーテン、壁掛、敷物、クツション等

第六類　編組品圖案（竹製品、杞柳製品及木通蔓製品）

例へば・盛器、花器、額縁、新聞雜誌入等

第七類　雜工品

例へば・履物、玩具、樺皮細工、曲物等

◎應募に關する參考

應募に就ては左記東北々海道の主なる特產工藝品を參照し其の改善並に發展に資し得るものたること

宮城縣・和洋家具、竹細工、埋木細工、ホームスパン、漆器、捺染、堤人形、堤燒等

福島縣・會津漆器、和洋家具、ホームスパン本鄕燒、履物、張子及木製玩具等

岩手縣・和洋家具、ホームスパン、岩手鑄鐵器、其他の鑄造品、漆器、窯燒、花卷人形等

山形縣・和洋家具、鶴岡漆器、酒田漆器、黒柿細工、染織玩具、銅鐵器、山形漆器履物等

秋田縣・和洋家具、樺皮細工、曲木家具、曲物細工、漆器（春慶塗）挽物、金銀細工、打出銅器、銅鐵鑄物、秋田八丈、川連漆器、履物等

青森縣・和洋家具、津輕漆器、木通蔓細工、鑄鐵器、玩具等

北海道・和洋家具、小木工藝品、アイヌ細工玩具、陶磁器、瑪瑙水晶細工等

二、審査及賞金

應募圖案は本協會に於て審査し入賞者に對し左記標準に依り賞金を贈呈す

一等賞	金五拾圓	壹名
二等賞	金參拾圓	貳名
三等賞	金拾圓	五名
四等賞	金五圓	拾名
五等賞	金參圓	貳拾名

三、締切期日及圖案送附先

締切期日　昭和十三年五月三十一日

圖案送附先　仙臺市二十人町通・商工省工藝指導所內東北北海道工藝協會

四、入賞發表期日

昭和拾參年六月十日

五、用紙及寸法

應募圖案は畫用紙其他强靱なるものを用ひ左の寸法によること

縱　五八糎、　横　三八糎（普通畫用紙半截）

六、描　法

圖案は原寸又は適當の縮尺を用ひ見取圖を附すべし、畫法及着色は自由とす。

但し用材及仕上技法につきて特記すべきものある時は說明を附すべし

七、其の他條件

1、應募圖案の種類及枚數は之を制限せず

2、已に工業所有權の登錄を受けたる圖案は應募することを得ず

3、應募圖案には一切住所氏名を記載すべからず。嚴封の上表皮に住所氏名を明記し應募圖案と朱書すべし

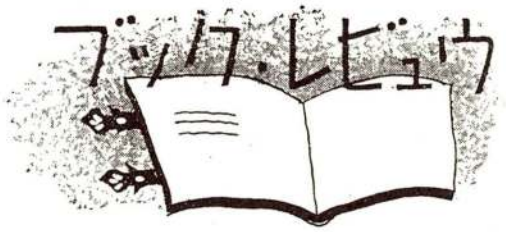
4、應募圖案の審査に對して異議を申立て又は說明を求むることを得ず

5、應募圖案は一切返還せず、圖案の印刷刊行其他使用に關する權利は本協會之を取得す

昭和十三年四月　日

商工省工藝指導所內

東北北海道工藝協會



堀口甚吉

〔1〕日本建築史圖錄（桃山江戸）天沼博士著　四六倍判504頁 昭和13年1月版　星野書店。8圓　天沼博士の日本建築史圖錄も昭和8年12月第1卷に相當する飛鳥、奈良、平安時代を出されてから第2卷の鎌倉上が9年12月、第3卷鎌倉下が10年6月、第4卷室町11年12月と出され第5卷の終卷に相當する部分は504頁の大册となつて本年初頭世に送られた。私は本書五册をならべてみて、博士の御精進のいかに勇猛なるかに驚くのである。始め菊判2册位の御豫定のものが四六倍判3册に、3册が5册になつたもので、この5册の圖錄を拜見して、日本建築學術の進歩の著しきに今更の如く感するのである。

本卷504頁を暑熱はげしい8月16日より9月6日迄、總日數22日、一日平均22.9頁の執筆をなされ、從來にない好成績であつたと述懷を述べてゐられる。同じ22日も人により異る。本書は定評あるもの故、會員諸君に於てすでに見られたことゝ思ふが、簡單にその內容をのべれば、桃山時代の寺院建築に第1977圖より第2204圖迄、江戸時代の寺院建築に第2205圖より第2374圖迄、桃山時代の神社建築に第2975圖より第2445圖迄、江戸時代の神社建築に第2446圖より第2484圖迄、桃山江戸時代の鳥居に第2485圖より第2492圖迄、江戸時代の橋第2493圖、2494圖、江戸時代の廟建築に第2495圖より第2562圖、桃山時代の石造建築第2563圖より第2569圖迄、桃山江戸時代の瓦に第2570圖より第2606圖に及んでゐる。

各頁共鮮明なる寫眞に趣味豊かな適切な說明あり圖版を見て遊心そゞろに湧くといふ有樣である

補卷として朝鮮篇も御出しになるといふ事であるが、朝鮮篇よりも雜誌「史林」に連載された日本建築各部の發達に關する御著作の御發表の一日も早からんことを切望する次第である。

〔2〕京都の古建築　京都市觀光課 菊判150頁 昭和13年4月版 京都市觀光課發行。非賣品。京都は平安遷都以來一千有餘年の皇都であつた。故に文化の最も代表的な綜合藝術である古建築も平安朝、鎌倉時代、室町時代、桃山時代、江戸時代、を通じて實に多い。又今は廢絕してゐるが、遠く推古朝から奈良前期奈良朝を通じての寺院建築の跡がある。此等の遺跡に對して、京都市の中央部(1—34) 東山(35—51) 洛北(52—65) 洛西(66—96) 洛南(97—126) の126箇所につき、位置（市電、市バスの停留場）建立の時代、各建築の說明につき、可成り專門的の說明がある。圖版は各區域ごとに數圖挿入され全體で58圖に及んでゐる。終りには詳細なる年表が附せられてゐる。

通覽しての希望を述べれば、本の形を四六判以下にしてポケツトに入り得るやうにすること、又各建築物の所在を示す京都市地圖を挿入すること主要建築物には簡單な平面圖等を入れること、又寫眞は割合に軒裏等の暗いものも多き故これ等をうつしなほすこと又一般に賣り出すこと等である然しよく出來て記述に信賴の置ける案內書である

〔3〕セメント混和劑及其試驗法　狩野春一著　四六判110頁 昭和13年4月版　常盤書房　75錢。著者狩野先生は東京工業大學講師で、セメント混和劑の實驗は十數年從事され、その道の權威者である。本書は材料研究會編纂にかゝる最新工業材料叢書中の第6編である。セメント混和劑は建築材料中最も種類の多く、又新品の多く出るもので、その判別はなかなか困難なものである。本書は概說、凝結及硬化促進劑、防凍耐寒劑、防水劑、水和發熱防止劑、化學抵抗增進劑、增强劑、其他の章に分けて講述され、各章共、概說、試驗法、種類とその試驗結果の例、について述べられてゐる。記述はあくまで科學的になされてゐるが平易に述べられてゐるから、理會は容易である。本書の讀了によつて、頗る如何はしい宣傳品の多いセメント混和劑使用の際の判別力の基準が與へられるであらう。

〔4〕建築計劃・原論各論　山口儀三郎著 菊判　260頁　昭和13年4月版　工業書房　1.8圓、建築計劃の單行本は、奥田芳男氏の「建築計劃」が最初のものであつた。奥田氏のものは昭和7年5月に出たものであつて、內容は各論のみである

がその記述は詳細且實地的で大いに讀者を益したものであつた。昭和7年12月より高等建築學26册の發刊が始められ、この第一回配本は建築計劃中の「工場、市場、發電所」の篇であつた。高等建築學中には建築計劃は、原論1册、各論11册をあてられ、發刊及、書目發表當時私はその意外に建築計劃にあてられた分量の多きを感じ、須藤氏の雜誌「建築研究」にこの所感を述べたことさへあつた位である。然し、今にして思へば、建築學といふのは建築計劃學のことではないか、建築樣式も、建築材料學も、構造力學も、施工法、設備、建築行政もこれすべて、建築計劃學の一部にすぎぬと感ぜしめられる。故に建築工業教育に於てもこの計劃學は今より一層充實しなければならぬと信ずる。然るに現在の狀態はといへば計劃學に與へる時間はきはめて少い。工業學校では大體毎週二時間一ケ年講了といふ程度で、極めて少いものである。故に簡單な良教科書の必要がしみじみと感ぜしめられるのである。高等建築學の全部の發刊は、昭和10年5月で終つた。

其の後、阪本啓一氏の建築計劃が昭和9年8月に出た。本書には原論に相當する記述が25頁ありこの中には意匠學の原理に對しても記述がある。

新刊山口氏のものは上述の業績の上に氏の最も得意とする原論方面に力を入れて、新しい計劃學樹立の意氣込で出されたものである。全頁 260頁中、原論に 143頁をあてこれを1と2に分け1に室内環境、外界及其の作用、傳熱照明、音響につきのべ、その2には敷地防火構造に對する法規上の制限、建築物の高さに對す法規上の制限、各種標準寸法、建築物の形狀並に配置、間取、窓及出入口、廊下、エレベーター、構造の選擇、災害豫防、意匠について記述がある。この原論その2が氏の最も力をそゝがれた所で氏の面目の躍如たるものがある。

本書は工業學校の教科書として、又初等建築技術者乃至建築設計に趣味と關心を有する一般士人への好參考書であるばかりでなく、建築計劃學樹立の一礎石でもあらう。

〔5〕早稻田建築學報第十四號　早大早苗會　昭和12年12月版　早苗會　2圓。本書は熟知の如く早稻田大學建築學科教室から發刊される、同科の年鑑とも稱すべきものである。本學報は毎號有益な記事が滿載され讀者を益すること大きい。難かしい數式の羅列に終る數學論文のみの集載でなく、建築學の全分野にわたり、實用的、啓蒙的の論文と學生の卒業論文の梗概、卒業計劃圖面、學生作品寫眞版、教室輪講會講話梗概、教室並研究室記事がのせられてゐて、同學科一ケ年の活動狀況は一目してわかるのである。本書を始めよりみれば早大建築學科の全歷史は判然するのである。各學校共かゝる學報の發刊の計劃及びその續刊を切望する。

本號には内藤博士の工場建築、伊藤正文氏、前原大二郎氏の重量法による教室内の測定について木村幸一郎氏の工場建築の採光及日射の影響について、太田靜六氏の年中行事繪卷に現はれたる寢殿造の研究、後藤正司氏の土質試驗の一例に就ての五論文と資料として内藤博士の發電所建設と鐵材節約、竹田米吉氏の振動コンクリート施工についての二文がある。筆者通讀して興味のあつたのは内藤博士の二つの文と、太田氏の年中行事繪卷に現れたる寢殿造の研究である。附錄學生の製圖作品も毎年ながら自在畵がなかなか上手である。

〔6〕鐵筋コンクリート構造計算法　篠原太郎著　菊判 185頁本文、40頁附錄　昭和14年4月版　淀屋書店 1.9圓。本ブツクレビユーを書き上げた時、篠原氏の鐵筋コンクリート構造の第三回の改版とも云ふべき本書が机上にとどいた。篠原氏は鐵筋コンクリート構造の知識の啓蒙家として大正末期、昭和初期の人々ならその記憶新たなものがあらう。

氏の鐵筋コンクリート建築構造は、建築家の書いた鐵筋コンクリート構造の書として劃期的のものであつた。その普及力は又すさましいものであつた。今の若い人々には想像をもゆるさぬ位であつた。氏と偶然道に遇ひ、ビールでものんで氣焰を上げると、篠原の鐵筋、堀口の鐵骨共に初等技術者を益したこと幾何か。……等と話し合ふこと度々である。氏の鐵筋の更正版は前著の長所をすべて受けつぎ、昨年の改正建築法規をとり入れ、綿密丁寧に記述されたもので、ラーメンの設計實例は、鉛直荷重は固定ラーメント法により水平荷重によるものは建築學會の構造基準によつた詳しい記述がある。又獨立基礎には杭打の場合等も新に記述されてゐる。一讀をのぞみたい。

筆者の鐵骨構造も最新鐵骨構造として第四回の更正版をこの4月出しました。

會報

設備委員會（第4回）

時　4月5日午後6時30分—8時30分
所　建築材料陳列場別室
出席者　委員長　酒井
幹事　伊東、增井
委員　岩尾

協議事項

1. 土木建築工事場安全及衞生規則に關し研究の件

材料委員會（第6回）

時　4月7日午後6時30分—9時
所　建築材料陳列場別室
出席者　幹事　楠瀨、松久保
委員　小川、島田、道田、木野山
理研鋼材　田中氏、千葉氏

協議事項

1. 理研鋼材尼崎工場見學に關する件

法制委員會（第5回）

時　4月7日午後7時—8時
所　協會倶樂部室
出席者　委員長　玉置
幹事　松井、山口
委員　板井

協議事項

1. 建築法規改案作成に關する件

都市計畫委員會（第4回）

時　4月7日午後7時—8時
所　協會倶樂部室
出席者　委員長　鳥井
幹事　龜井
委員　吉田

協議事項

1. 都市問題會議々題研究に關し分擔決定の件
1. 委員增員要求の件

常務會（第6回）

時　4月11日午後5時45分—7時
所　建築材料陳列場別室
出席者　理事　片岡會長、中澤副會長
常務　井上主記、伊藤　主記
中西主記、鈴木主計
松井主計、三浦主計
吉田編輯

議事

1. 4月例會及見學會に關する件
2. 南京防空施設に關する旅費の件
3. 借室料値上に關する件
4. 中之島1.2.3丁目町會に入會に關する件
5. 三月例會講演者に謝禮の件
6. 都市計畫委員會より委員一名增員要求の件
7. 時事問題研究の件
8. 會員詮衡

報告

1. 3月例會終了報告
2. 防災協議會設置の件
3. セメント强度新試驗法用機械器具標準型案の件

災害强度委員會（第4回）

時　4月12日午後7時—9時
所　協會倶樂部室
出席者　幹事　黒田
委員　淺野、中島、藤田、益尾、大隅

協議事項

1. セメント規格改正案に關聯せる新試驗用機械器具標準型案研究に關する件
2. 熔接工試驗法研究に關する件

建築材料陳列場幹事會（第3回）

時　4月14日午後6時30分—7時20分
所　建築材料陳列場別室
出席者　幹事長　今林
幹事　小川、兒玉、中西、三浦

協議事項

1. 出品者懇談會開催の件
2. 各材料の單獨陳列展覽に關する件

四月例會

時　4月18日（月）午後6時15分—同9時30分
所　朝日倶樂部集會室
出席者　片岡　安　竹腰　健造　中澤誠一郎
龜井幸次郎　小林　清　上田　虎男

水口庄太郎	坂本 啓一	熊野 茂	
尾龜清四郎	武井 德松	若山 榮一	
川村 淺一	松尾 博之	岡本新次郎	
吉田 信武	中井 德造	仲 忠博	
荻野 賀一	渡邊 久雄	野田平三郎	
中島 敏雄	三好喜三郎	水知 忠清	
小野 茂雄	中井信一郎	中村久馬三郎	
中野 吉爾	島田 儀	田邊 右門	
柳川 忠夫	北川 憲	須賀藤五郎	
村瀨 鑛一	小山 秀吉	岡橋作太郎	
矢代幸三郎	鷲尾 九郎	早野 英一	
渡邊 禎己	山本 千吉	栗田 成計	
長尾 清一	森口 清	矢野 藤一	
瀧 邦一	山本 忠孝	柴田 四郎	
松浦 完二	梅本 由己	濱谷 芳松	
森本 藤吉	村井 毅	大津 敏夫	
谷 民藏	村井 進	武田 經一	
福田 政治	本田 長次	板谷 厚志	
渡邊 正三	左谷 陽充	中島 喜平	
大下順三郎	伴野 貞三	須古 毅	
松村 弘之	喜多村義雄	三好 傳二	
福井 裕	立田 秀夫	鈴木 孫市	
久野振二郎	川西梅次郎	小宮 賢一	
紺谷 昌亮	高津壯太郎	菊地 芳	
齋藤 寬治	馬庭 省吾	松久保敬三	
村上 徹一	井上 福藏	和田治郎市	
高坂信次郎	玉置豊次郎	前田 辰雄	
內藤 亮一	山本 潔	本多 正道	
松井清之助	中田 猛	鈴木 强	
林田瀧次郎	平山 琴次	杉浦 重彦	
山中 茂一	黑川 健二	小川 久市	
吉田 忠勝	原 禎男	高木 登	
平井 希雄	寬崎 靖	平原 國雄	
西島源次郎	平川 眞實	古宇田 實	
落合 武繁	河津喜之介	吉村 寬三	
木本 清一	伊東 恒治	和田 登	
島田 貞馨	平野 忠雄	菅 陸二	
竹中 景一	田中幸太郎	田中 榮一	
增山 新平	匂坂 弘美	宮崎 春夫	
山本 正重	大石 忠夫	三澤萬之進	
木村 俊夫	宮田 旁穗	板井 公威	

（次第不同）

午後6時15分片岡會長より4月例會開會の挨拶あり併せて都市武裝の最も必要なること及之が促進を提唱し實行に至る迄吾等建築家の努力せざれば他になきこと依つて時局柄北中支方面の防空施設の視察必要のあること等を說き本夕の中支に於ける防空施設視察報告會を開きたる所以を述べて講演者を紹介す

次て派遣者清水榮二氏演壇に立ち今回の中支方面派遣の經過に付報告後『杭州の防空施設に就いて』の題下に約一時間餘圖面等に依り詳細報告あり

次に派遣者新名種夫氏演壇に立ち『南京の防空施設に就いて』の題下に是亦圖面を引用して詳細報告あり

終りに派遣者中澤誠一郎氏は『杭州、南京に於ける撮影寫眞』說明役として反射幻燈に依り說明詳細報告あり

（講演內容は後日會誌に依り發表報告の筈）

次に竹腰副會長より謝辭及閉會の挨拶ありて散會したり時に午後9時30分

敎化委員會（第3回）

時　4月19日午後6時—8時30分
所　建築材料陳列場別室
出席者　委員長　永澤
　幹事　篠原
　委員　鶴田、田中、中村

協議事項

1. メートル法實施に關する協會案作成方依囑に關する件
2. 大工徒弟養成に關する件

材料委員會（第7回）

時　4月21日午後7時—8時20分
所　建築材料陳列場別室
出席者　幹事　松久保
　委員　小川、島田、道田

協議事項

1. スレート研究に關し工場見學の件

都市計畫委員會（第5回）

時　4月21日午後7時—8時30分
所　協會俱樂部室
出席者　委員長　鳥井
　幹事　龜井
　委員　匂坂、村井

協議事項

1. 全國都市問題會議々題研究に關し分擔の件
1. 委員增員の件

法制委員會（第6回）

時　4月22日午後6時40分—8時
所　協會倶樂部室
出席者　委員長　玉置
　幹事　松井、山口
　委員　武田、本田
協議事項
1. 市街地建築物法令發行につき各學校宛に書面發送の件
2. 建築法規教案に關する件

會員動靜

入會者

會員

上西　正敏君　北區野崎町55（合名會社八木工務店）
景山　正明君　兵庫縣御影町御影莊（大阪府建築課）
小山　武君　豐中市高砂通 1丁目（大阪府建築課）
神保　勇三君　住吉區田邊本町8ノ10（福岡工務店）
藤阪捨治郎君　豐中市榮通 1丁目（株式會社錢高組）
堀內　三郎君　西區江戸堀南通 4ノ16（大阪府建築課）
菅澤　艮一君　東成區腹見町245（石川工務所）

地方會員

今井　忠君　前橋市岩神町80（群馬縣工場課）
山浦　智海君　廣島縣安藝郡江田島村向側（株式會社清水組）

特別贊助員

杉浦竹之助君　府下豐能郡中豐島村服部 436（東京建材株式會社大阪支店）
中西　長次君　旭區新森小路南 2丁目116ノ3（關西不動產株式會社建築課）
松田　眞雄君　住吉區住吉町1326（大阪小倉アスファルト株式會社）
井爪金八郎君　西宮市大井手町28（株式會社朝日ビルヂング）
島谷　政雄君　西淀川區加島町765（鐵工業）
藤田　正三君　神戸市灘區弓木町5ノ2（株式會社朝日ビルヂング）

普通贊助員

伊藤　歡一君　松江市幸町. 829（島根縣保安課）
槌谷　義一君　尾道市土堂町西今　住友銀行尾道支店建築嘱藤木工務店出張所
中尾　重雄君　松江市內中原町 175（松江市役所土木課）
法田　明君　神戸市兵庫區船大工町55（株式會社竹中工務店神戸支店）
前田　善增君　住吉區平野西ノ町 145（尼崎市役所土木課）
松室　重眞君　京都市中京區東堀川御池南入57（長谷部竹腰建築事務所）
山野　芳造君　住吉區喜連町2123（株式會社竹中工務店）

退會者

會員

旭　德次郎君　辻　直司君　吉田　清二君

地方會員

高原　武德君　平野利三郎君　平嶺　四男君
田川忠之助君

特別贊助員

加納　康夫君　上野　辰男君

普通贊助員

中　茂君　賴實　優君

轉居轉勤

會員

荒木　正利君　奉天市鐵道總局工務局建築課
井上　勝彌君　奉天市加茂町三井ビル滿洲住友金屬工業株式會社事務所
池上　德一君　兵庫縣武庫郡鳴尾村內馬島112
大山　昇君　宮崎縣兒湯郡川南村樋風呂
木村　俊男君　府下豐能郡南豐島村原田768ノ6
北垣熊之介君　新京大同大街東京海上ビル建築事務所
小杉　憲一君　神戸市灘區高羽老松12
重松傳三郎君　兵庫縣武庫郡本山村岡本字中井

157ノ9
添田　正一君　府下豐能郡箕面村平尾183ノ6
高橋　誠義君　兵庫縣武庫郡瓦木村下瓦林字辨天245
寺島利三郎君　住吉區湯里町343 井上直吉方
友淵　善信君　京都市下京區八條源町37
夏秋留次郎君　京都市伏見區深草藪之內町 30ノ1
野田　進君　岡山縣玉島町乙島大陽レーヨン建築場竹中工務店出張所
藤原　弘三君　奉天市加茂町三井ビル長谷部竹腰建築事務所出張所
宮內　義男君　旭區北清水町459
守谷　茂君　兵庫縣飾磨町玉地24
安井　芳治君　此花區四貫島小學校改築工事場鴻池組內
山根正次郎君　京都市上京區黑門通下長者町南入
横山　新造君　阪急沿線曾根岡山243
柏原　竹夫君　西宮市市庭町40
田村　四郎君　姫路市縣立高等女學校內細野組出張所
高村　勝君　德山市上今宿6156
島毬　艮一君　北區中之島大阪市役所營繕課
桶田　達枝君　京都市左京區中阿達町 7
福島　葆光君　西宮市末廣町6 名水アパート

地方會員

榎本　淳一君　鞍山市北四條町7ノ1
杉山清次郎君　北支北京鐵道事務所工務班建築係
太宰　二郎君　新京市七馬路永康莊207號
塚本　猛次君　西宮市千歲町35
曳野　與藏君　旭區南島町52
岩井金三郎君　東京市目黑區自由ケ丘102

特別賛助員

細江　和足君　住吉區墨江中3ノ17

普通賛助員

青木　昌一君　府下茨木町下中條339ノ3
池田　本吉君　住吉區阿倍野筋5ノ9
大倉　荒吉君　長崎市坂本町長崎醫大附屬醫院工事場大林組出張所
奥田　孝作君　豐中市岡町19
北川　憲君　府下豐能郡南豐島村穗積1252
島　艮司君　兵庫縣武庫郡甲東村上大市一本松2
松永　疑君　愛知縣祖父江町富岡人絹パルプ工場工事場東畑建築事務所出張所
村田　篤君　神戸市湊區下三條1ノ348
吉川　秀夫君　福岡市上吳服町福岡ビル建築場竹中工務店出張所

死　亡

特別賛助員

谷口　德政君　昭和13年4月15日逝去
（謹んで哀悼の意を表す）

本號執筆者紹介

五十音順

石川榮耀	都市計畫東京地方委員會技師第一技術部長
大須賀巖	大須賀巖法律事務所主
菱田厚介	內務技師・計畫局都市計畫課
吉村辰夫	都市計畫東京地方委員會技師第二技術部建築係長
吉田信武	地方技師・大阪府警察部防空課・本協會常務

5月號



編輯後記

★ 先年の都市武裝促進運動開始以來、昨年の上海方面視察、今年の南京方面視察と、都市武裝化へと時機に適したる絶えざる努力を持續しつゝある本協會の責務は、輓近の市街地建築物法の改正、燈火管制規則の制定等と相俟つて、愈々重且大を加へるに至つた。技術的施設の完璧を期せずして眞の防空防火は之を期待し得ないのである。

★ 重大時局下に於て、建築家たるもの、都市計畫家たるもの、技術家たるもの、其の他一般人士たるもの、如何に進むべきかに關しては、諸權威者の玉稿を得て、常に本誌の唱導する所である。本號にも其の一端を揭載されてゐる故、讀者の御熱讀をわすらはし度い。

★ 技術報國なる言葉が識者の間に唱導されるに至つたのは左程新しい事ではない。國運の隆昌に伴ひ、輓近愈々其の要切實なるものあり、輿論となつて一段と高唱されてゐる。この秋に當つて、技術家たるもの一致協力邦家の爲一層の覺悟を固めねばならぬと思はれる。

★ 例年の通り、本協會より出版せられてゐる「市街地建築物法令」の改訂第八版が發刊された。內容の豐富と正確、嶄新と廉價は、其の最も誇りとする所である。この種法令は殆ど毎年改正を見るものであるから、是非一本を座右に備へられるやうお奬めし度い。

（吉田信武）

建築と社會
第21輯 第5號

毎月1回1日發行 定價 1冊 50錢（郵稅3錢） 12冊 6圓（〃 36錢）
昭和13年4月25日印刷 昭和13年5月1日發行

發行・編輯 小板常男
印刷人 大阪市北區朝日ビル日本建築協會內
印刷所 プラトン印刷社 大阪市西區江戸堀南通2丁目13番地
發行所 財團法人 日本建築協會 大阪市北區中之島3ノ3朝日ビル
電話長北濱(23)4501番(9)
振替口座大阪39975番
特約販賣店 柳々堂書店 大阪市西區京町堀羽子板橋西
電話土佐堀2440番
振替口座大阪2084番

禁轉載
本號に揭載せるものは、一切これを無斷にて轉載し又は單行本に上梓その他の複製行爲をなすことを禁ず。

廣告揭載料金

普通	1頁	1回	15,00
普通	½頁	1回	8,00
普通（前附第1頁）	1頁	1回	45,00
普通（前附第2頁）	1頁	1回	40,00
普通（後附第1及最終頁）	1頁	1回	25,00
アート（中揷）	½頁	1回	20,00
表紙2	1頁	1回	60,00
表紙3	1頁	1回	45,00
表紙4	1頁	1回	80,00
建築事務所錄	1欄	1回	1,50
（建築關係業者案內）	1欄	1回	5,00

廣告揭載御申込は本會へ直接願ひます。
本誌購讀御注文はすべて前金で本會直接又は特約店へ、振替貯金又は爲替で御拂込を願ひます。郵券代用は一割增、代金引換はお斷り致します。

大阪都市計畫防火地區圖を頒布す

今回下記內務省告示に依つて大阪の防火地區が廣範圍に渉つて追加指示されましたに就いて、同防火地區圖を次の通り實費にて頒布しますから御入用の方は至急お申込下さい

大阪都市計畫防火地區圖(二萬分ノ一)1部

●實　　費　15錢　(外に送料2錢)

●送金方法　振替(振替口座大阪39975)

內務省告示

大阪都市計畫防火地區追加變更ノ件

昭和十年十月二十八日附議　議事第一一九號　第六〇四

內務省告示　第百八十八號

大正十二年七月十三日內務省告示第二百二十七號大阪都市計畫防火地區追加變更ノ件昭和十一年四月四日內閣ノ認可ヲ受ケ昭和十一年四月二十九日ヨリ之ヲ施行ス其ノ係關圖面ハ大阪府廳及大阪市役所ニ備へ置キ從覽ニ供ス

昭和十一年四月九日

內務大臣　潮　惠之輔

申込所　社團法人 日本建築協會

建築と社會第21輯第5號　廣告索引

ア　旭硝子株式會社……41
　　阿部鐵工所……45
　　淺野スレート株式會社……24
イ　岩元工業株式會社……34
　　伊奈製陶株式會社……7
エ　榮進社……12
　　英進商會……33
　　荏原製作所……50
オ　大阪窯業セメント株式會社……中挿
　　大阪伊丹商店……32
　　大阪組立コンクリート製作所……40
　　大野製作所……表紙 2
　　奥村重兵衛商店……31
カ　關城化學工業株式會社……表紙 4
キ　桐田商會……30
ク　久保商店……26
ケ　建盛商會……48
コ　小林式盜難豫報機製作所……43
　　後藤商店……46
サ　佐渡島英祿商店……14
　　佐久間パブコ工業株式會社……29
　　佐藤產業株式會社……49
　　坂本商會大阪支店……33
　　坂田ベンチレーター製作所……44
ス　須賀商會……10
セ　政正合資會社……38
　　清光社……22
タ　田島應用化工株式會社……前附 2
　　大和工業株式會社……19
　　大洋組建材部……32
　　ダンロップ護謨株式會社……中挿
　　田中昌司商店……25
　　田村商會建築材料部……35
　　高島屋家具裝飾部……中挿
チ　チョーホー商會……22
ト　東洋リノリユーム株式會社……8
　　東京電氣株式會社……16
　　東洋陶器株式會社大阪出張所……11
　　巴商會……47
ナ　內外土木建築材料合資會社……25
　　南滿鑛業建材合資會社……27
ニ　日本建築紙工株式會社……34
　　日本放熱器商會大阪支店……42
　　日本陶纖社……43
　　日本建鐵工業株式會社大阪出張所……9
　　日本窒素肥料株式會社……表紙 3
　　日東物產株式會社……23
　　西原衛生工業所……39
　　西孫商店建築金物部……18
　　西村福治商店……48
ノ　野澤幸三郎商店……36
ハ　汎建製作所……44
ヒ　平松釣戶車製作所……46
ホ　邦光化學工業所……20
マ　松井商店……40
　　松下電器株式會社コンヂット部……21
ミ　三井物產株式會社……37
　　三越家具裝飾部……中挿
　　三菱商事株式會社機械部大阪支部……9
ヤ　矢橋大理石商店……18
　　大和護謨製作所……17
ヨ　横河橋梁製作所……28
　　米本商店……26
　　米原商店……38
　　吉田鹿之助商店……15
リ　理化學興業株式會社……前附 1
ラ　ライトラバー工業合資會社……13
レ　玲光社(木內眞太郎)……27